

取扱説明書

ご使用になる前に
必ずお読みください。

SAMBAR



SUBARU

このたびはスバル車をお買いあげいただき
ありがとうございます。

この取扱説明書は、お車や装備品の取り扱い、
守っていただきなければならないこと、
万一のときの処置などについて説明しています。
また、法律で使用者に点検・装備の義務が規定されており、
使用者の保守管理責任が明確にうたわれております。
ご使用になる前に必ずお読みください。

「必読！安全で快適な運転のポイント」や△警告△注意▲アドバイスマークのところは重要ですのでしっかりとお読みください。

! 警告	安全のため守っていただきなければならないこと 〔取り扱いを誤った場合、死亡、または重大な傷害を負う可能性があります。〕
! 注意	安全のため、および、お車のため守っていただきなければならないこと 〔取り扱いを誤った場合、傷害を負う可能性があります。また、車体が損傷する可能性があります。〕
▲ アドバイス	知っておいていただきたいこと 知っておくと便利なこと

- ・グレード等により異なる装備については●マークがついています。
 - ・スバル販売店で取り付けられた装備の取り扱いについては、添付される取扱説明書をご覧ください。
-
- ・ご不明な点は、担当セールスマンにおたずねください。
 - ・保証内容および点検整備については、別冊の「メンテナンスノート」をお読みください。
 - ・取扱説明書は「メンテナンスノート」とともに、いつもお車に保管してください。
 - ・お車をゆずられるときは、次のオーナーのために取扱説明書、メンテナンスノートを車につけておいてください。
-
- ・装備仕様の変更により、この説明書の内容とお車が一致しない場合がありますので、あらかじめご了承ください。

CONTENTS

総 目 次

イラスト目次

イラストから説明ページが検索できます。

1 必読！安全で快適な運転のポイント

2 運 転 す る 前 に

- ・各部の開閉 2-2
- ・シート 2-17
- ・シートベルト 2-31
- ・SRSエアバッグシステム 2-38
- ・ミラーの調整 2-48

3 運 転 す る と き

- ・スイッチの使いかた 3-2
- ・メーター、表示灯、警告灯の見かた 3-9
- ・運転装置の使いかた 3-19
- ・チェンジレバーの操作 3-22
- ・オートマチック車の運転 3-23
- ・4WD車の運転 3-31
- ・ブレーキ 3-36

4 室内装備品の使いかた

- ・ヒーターとエアコン 4-2
- ・オーディオシステム 4-11
- ・室内装備 4-25

5 寒冷地での使いかた

- ・寒冷地での使いかた 5-2

6 万 一 の と き

- ・故障したとき 6-2
- ・事故が起きたとき 6-4
- ・工具、発炎筒、スペアタイヤ、ジャッキ・ジャッキハンドル 6-5
- ・タイヤ交換 6-9
- ・けん引のとき 6-13
- ・オーバーヒートしたとき 6-17
- ・バッテリーが上がったとき 6-19
- ・ヒューズの点検・交換 6-21

7 車 の 手 入 れ

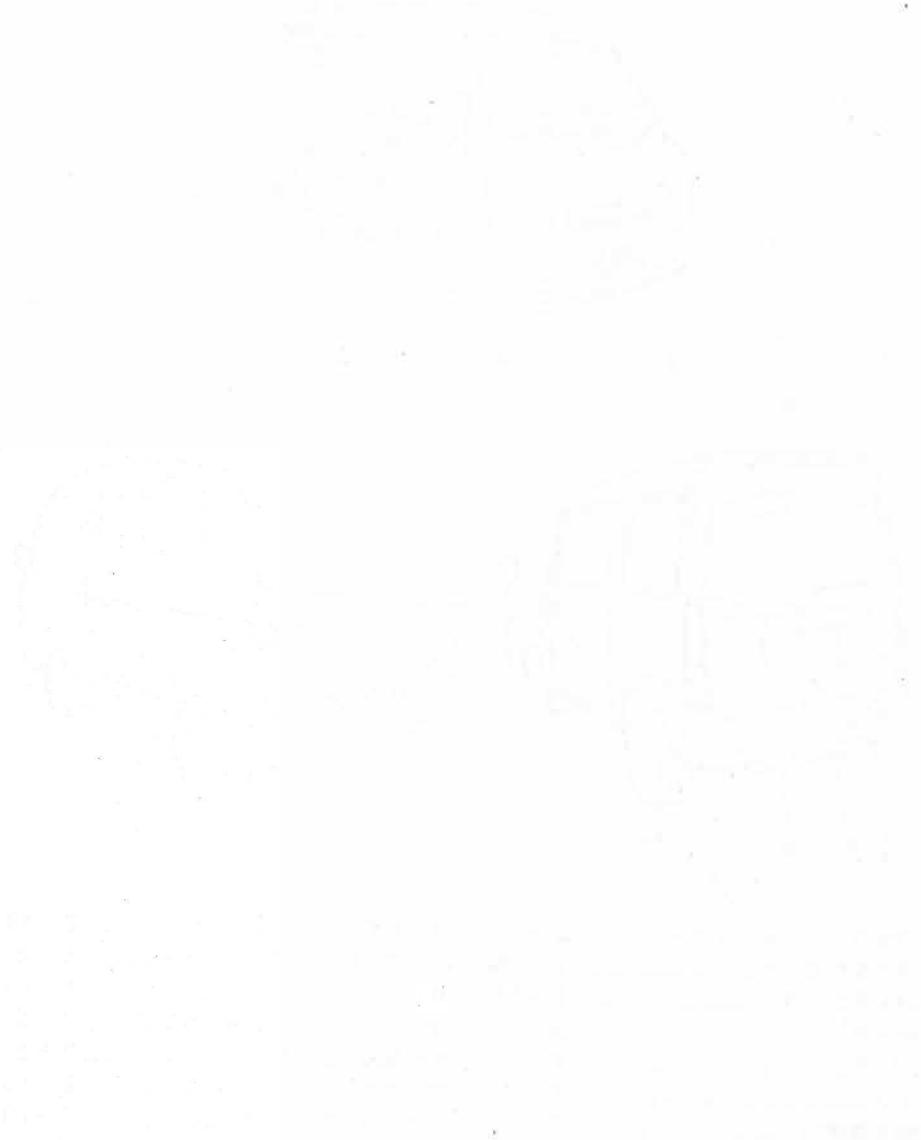
- ・車の手入れ 7-2

8 特別装備車（赤帽車、JA車、郵政）の仕様

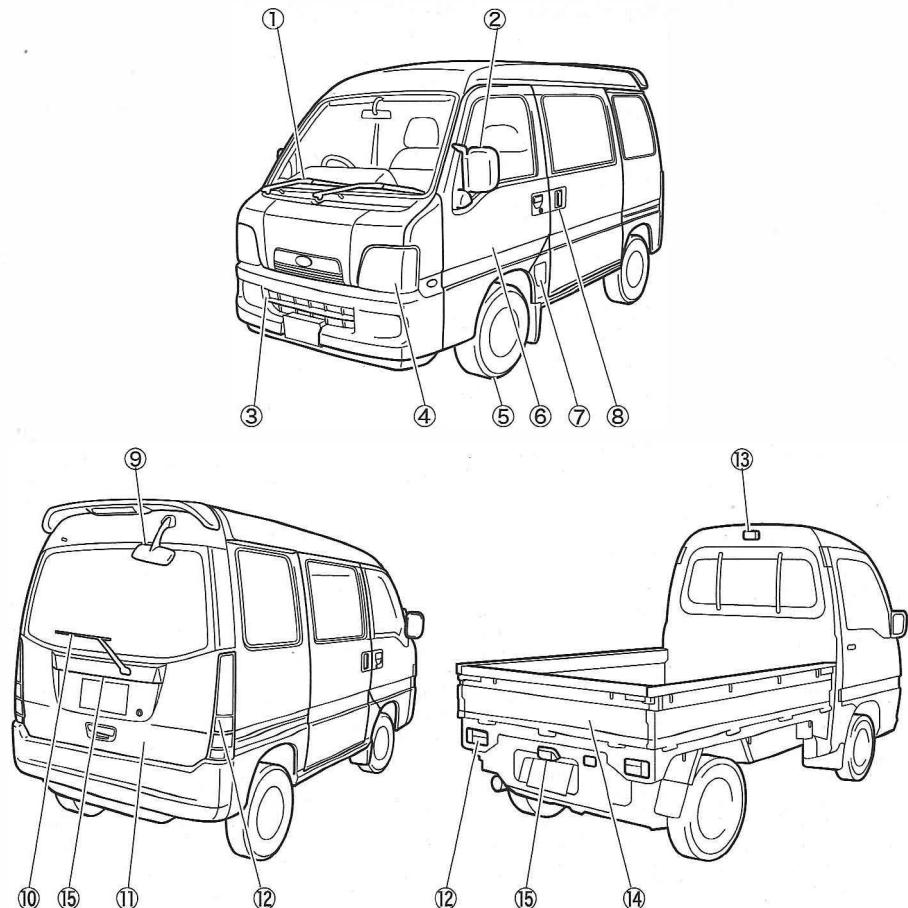
9 サービスデータ

さくいん

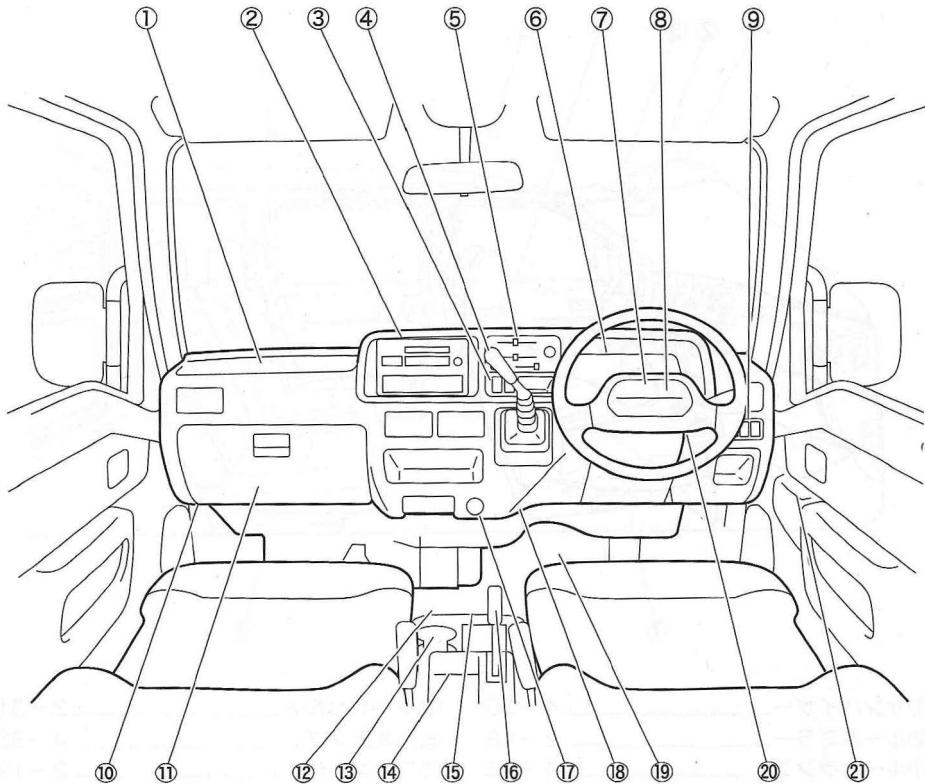
イラスト目次



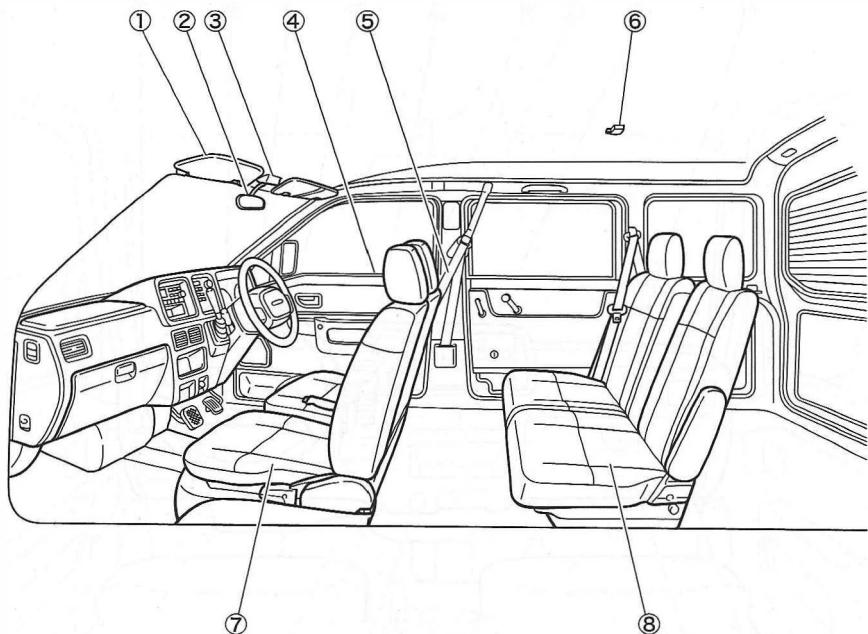
イラスト目次



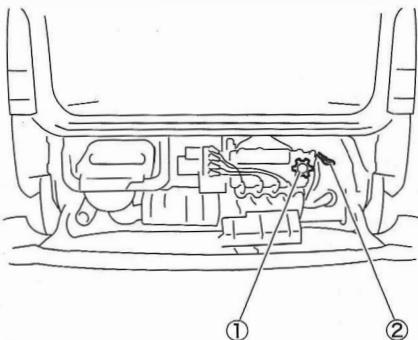
①ワイパー・ウォッシャー	3 - 5	⑨リヤアンダーミラー	2 - 49
②アウターミラー	2 - 48	⑩リヤワイパー・ウォッシャー	3 - 6
③けん引フック	6 - 14	⑪リヤゲート	2 - 10
④ヘッドランプ	3 - 3	⑫リヤコンビネーションランプ	7 - 9
⑤タイヤ	7 - 6	⑬作業灯	3 - 8
⑥ドア	2 - 2	⑭リヤゲート	2 - 13
⑦燃料補給口	2 - 8	⑮ライセンスランプ	7 - 10
⑧チャイルドブルーフ	2 - 5		



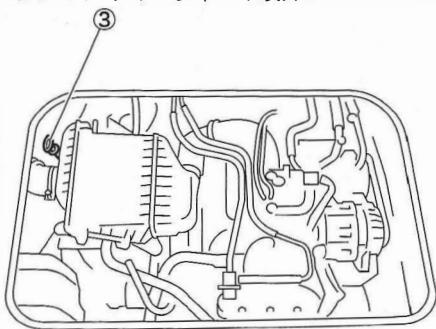
①助手席SRSエアバッグシステム	2-38	⑩発炎筒	6-5
②ラジオ・オーディオ	4-11	⑪グローブボックス	4-26
③リヤウインドウデフォッガー スイッチ	3-7	⑫チェンジレバー	3-22
④ATパワーモードスイッチ	3-30	⑬カップホルダー	4-27
⑤ヒーター・エアコン	4-2	⑭リヤヒータースイッチ	4-6
⑥メーター・表示灯・警告灯	3-9	⑮カンガルーポケット	4-27
⑦ホーンスイッチ	3-21	⑯ハンドブレーキレバー	3-21
⑧SRSエアバッグシステム	2-38	⑰シガーライター	4-25
⑨作業灯スイッチ	8-3	⑱シフトロック解除レバー	1-11
⑩リヤゲートロックスイッチ	2-11	⑲フューエルリッドオープナー	2-9
		⑳エンジンスイッチ	3-2
		㉑パワーウィンドウスイッチ	2-7



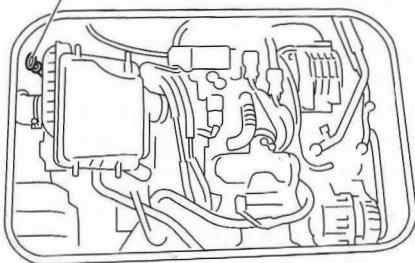
①サンバイザー	4-30	⑤シートベルト	2-31
②ルームミラー	2-48	⑥荷室ランプ	4-33
③ルームランプ	4-32	⑦フロントシート	2-19
④ドアロック	2-3	⑧リヤシート	2-25



<スーパーチャージャー車以外>



<スーパーチャージャー車>



- ①エンジンオイルフィラーキャップ
- ②エンジンオイルレベルゲージ
- ③ミッションオイルレベルゲージ (ATのみ)

MEMO

1

必読！安全で快適な運転のポイント

- ・お出かけ前には 1 - 2
- ・お子さまを乗せるときの気くばり 1 - 6
- ・オートマチック車の特徴と運転上の注意 1 - 9
- ・走行するときには 1 - 13
- ・雪道走行するときには 1 - 18
- ・駐・停車するときには 1 - 19
- ・SRSエアバッグシステムについて 1 - 21
- ・燃料補給時の注意 1 - 22
- ・こんなことにも注意を 1 - 23
- ・保証書・メンテナンスノートについて .. 1 - 26

点検整備を実施して

安全で快適な運転をするために、日常点検整備および定期点検整備を実施することが法律で義務づけられています。

☆別冊のメンテナンスノート参照

タイヤ空気圧を点検して

タイヤ空気圧の点検は法的に義務づけられています。タイヤ空気圧はスペアタイヤも含め、空気圧ゲージを使用してドライブの前や、定期的（最低月1回程度）に点検・調整してください。とくにタイヤ空気圧が不足したまま走行すると走行不安定やバースト（破裂）を招き、思わぬ事故につながるおそれがあります。

☆7-6ページ参照

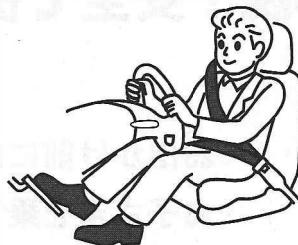
バッテリーの液量はときどき点検して

バッテリーの液量が下限(LOWER LEVEL)以下になったまま使用、または充電すると、バッテリーが爆発するおそれがあります。バッテリーの液量はときどき点検し、少ない時は上限(UPPER LEVEL)まで補充してください。

正しい運転姿勢に調整して

走行前にシート、ハンドル、ヘッドレストの位置を正しい運転姿勢がとれるように調整し、ドアミラー、ルームミラーなどを適切な位置に調整してください。

☆2-17ページ参照



シートベルトは全員正しく着用して

- 走行する前に必ず全員がシートベルトを正しく着用してください。
- 後席でも必ずシートベルトを着用してください。
- SRSエアバッグは、シートベルトの補助装置でシートベルトに代わるものではありません。シートベルトは必ず着用してください。

☆2-31ページ参照



運転席の足元はすっきりと

- 足元のまわりにあき缶などの物を置かないでください。ブレーキペダルの下に物が挟まってブレーキ操作ができなくなることがあります。
- フロアマットは車にあったものを正しく敷いてください。また、ずれないように固定クリップなどで固定してください。アクセルペダルやブレーキペダルにひっかかり、思わぬ事故につながるおそれがあります。



サンダルでの運転はやめて

厚底靴やサンダル、下駄での運転は、アクセルペダルやブレーキペダルが思うように踏み込めなく、思わぬ事故につながるおそれがあります。

荷物を積むときには

トラック
パネルバン

350kg

バ ン

2人乗りのとき：350kg
4人乗りのとき：250kg

- 荷物を積むときは動かないように固定してください。ブレーキを踏んだとき荷物が移動し思わぬ事故につながることがあります。
- エンジン房内の上にあたる荷台に発泡スチロールなどの保温材を直接置かないでください。エンジンの上になりますので走行直後や停止中に熱くなって接触面が損傷する場合があります。
やむをえず置く場合は、トラックではエンジン房内よりできるだけ離れた荷台前面に、バンではリヤシート上に置くなどしてください。
(マットなし・塩ビマット付仕様の場合)

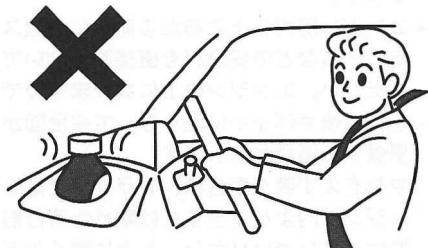
お出かけ前には

⚠
重要

インパネの上に物を置かないで

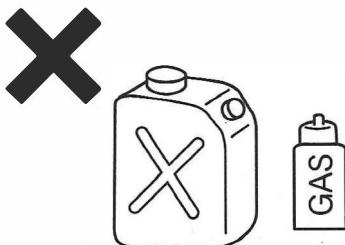
- インストルメントパネルの上に物を置いたまま走行しないでください。運転者の視界を妨げたり、発進時や走行中に動いて安全運転の妨げになり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- SRSエアバッグが作動したときの衝撃で物がとび、思わぬ事故につながるおそれがあります。

☆2-41ページ参照



危険物の持ち込みはやめて

燃料の入った容器や可燃性ガス入りスプレー缶、ガスライターなどは炎天下で車内が高温になったとき火災の原因につながるおそれがあります。また、万一事故が起きたときにも危険です。



換気に気をつけて

車庫など換気の悪い場所でエンジンをかけたままにしないでください。換気が不十分になり、排気ガスにより一酸化炭素中毒を起こすおそれがあります。



車の後ろに気をつけて

- 人や障害物など、車のまわりの安全を充分確認してください。
- 燃えやすい物があると、排気管や排気ガスの熱により火災になるおそれがあります。



こんなとき、 スバル販売店で点検を受けて

次の場合は車が故障しているおそれがあります。そのままにしておくと走行に悪影響をおよぼしたり、事故につながるおそれがあります。スバル販売店で点検を受けてください。

- いつもと違う音や臭いや振動がするとき
- ハンドル操作に異常を感じたとき
- ブレーキ液が不足しているとき
- 地面に油の漏れたあとが残っているとき
- 各警告ランプが点灯したままのとき

燃料には無鉛ガソリンを

- 無鉛ガソリンを使用してください。有鉛ガソリンを使うと触媒を劣化させます。
- 粗悪なガソリンや軽油、アルコール燃料等の不適切な燃料やガソリン添加剤はエンジンの各部に悪影響を与えますので使用しないでください。

お子さまは後席に

助手席ではお子さまの動作が気になりました、運転装置にさわって思わぬ事故につながるおそれがあります。お子さまは後席にすわらせて必ずシートベルトを着用させてください。後席がお子さまにとって最も安全な乗車位置です。

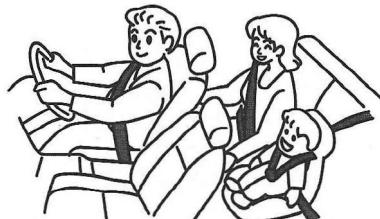
**6歳未満のお子さまは
チャイルドシートを使用して**

- 法律により6歳未満のお子さまを対象に、チャイルドシートの使用が義務づけられています。6歳未満のお子さまは必ずチャイルドシートを使用してください。
- 6歳以上のお子さまでもシートベルトが首や顔にあたるなど適正な着用ができない場合、チャイルドシートを使用してください。

〈選択の目安〉

	ベビーシート	チャイルドシート	ジュニアシート
体重 (目安)	9kg以下	7~18kg	18~36kg
身長 (目安)	70cm未満	100cm未満	145cm未満
年齢 (目安)	0か月~ 9か月頃まで	4か月~ 4歳頃まで	4歳~ 12歳頃まで

- チャイルドシートは後席に取り付けてください。
- 助手席にチャイルドシートを絶対に取り付けないでください。SRSエアバッグが作動したとき、強い衝撃を受け、命にかかるような重大な傷害につながるおそれがあります。
- チャイルドシートはお子さまを乗せていない時でもしっかりとシートに固定しておいてください。荷室に収納する場合でもロープなどを利用して固定してください。固定しないまま客室または荷室に放置すると、ブレーキをかけた時などにチャイルドシートが動き乗員や物にあたるなどして、思わぬ事故につながるおそれがあります。



お子さまにも 必ずシートベルトを

- お子さまにもシートベルトを適正な位置に調整し着用してください。
- 後席のある車ではお子さまは後席に乗せてください。
- ひざの上でお子さまを抱いていても、衝突したとき充分に支えることができず、重大な傷害につながるおそれがあります。
- シートベルトは一人用です。お子さまを抱いたままシートベルトの着用は絶対にしないでください。
- お子さまを SRS エアバッグの前やシートの上に立たせたりした状態では走行しないでください。



ドアの開閉に注意して

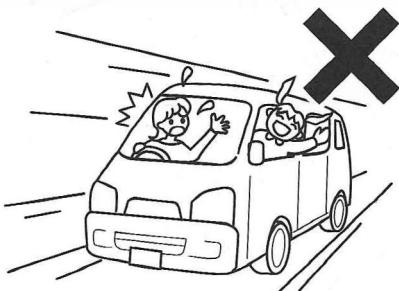
開閉、施錠は必ず大人が行ってください。開閉するときはお子さまの手や足などを挟まないように注意してください。また、安全のため、チャイルドプルーフをご利用ください。

☆2-2ページ参照



窓から顔や手を出さないで

走行中、車外のものなどに当たったり、急ブレーキ時に思わず手がをするおそれがあり危険です。



パワーウィンドウに 気をつけて

- ・パワーウィンドウが閉まるときには大きな力が働きます。挟まれると危険ですので、閉める前に窓から顔や手を出していないことを確認してください。
- ・挟まれると危険ですので小さなお子さまには開閉操作をさせないでください。
- ・お子さまを乗せるときにはパワーウィンドウのロックスイッチをロックにしておいてください。

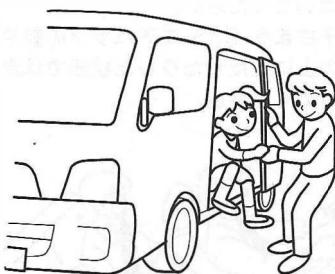
お子さまがウインドウスイッチをいたずらして手や首を挟むことを防止します。

☆2-7ページ参照



車から離れるときは一緒に

- ・とくに乳児など小さなお子さまや介護を必要とする方は車内に残さないでください。炎天下の車内は高温となり熱射病などにつながるおそれがあります。
- ・エアコンを作動させていても途中で止まることがあります、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ・駐車ブレーキ等運転装置のいたずらにより思わぬ事故につながるおそれがあります。



オートマチック車の特徴と運転上の注意

重要

☆3-23 ページの「オートマチック車の運転」も併せてお読みください。

クリープ現象があります

- エンジンがかかっているとき、セレクトレバーをP、N以外の位置にするとアクセルペダルを踏まなくても、ゆっくりと車が動き出す現象をクリープ現象といいます。
- 停車中は車が動かないようにブレーキペダルを踏み、必要に応じて駐車ブレーキをかけてください。
- エンジン始動直後やエアコン作動時などは、自動的にエンジン回転数が上がるため、(アイドルアップ)、クリープ現象が強くなることがありますのでブレーキペダルをしっかり踏んでください。
必要に応じて駐車ブレーキをかけてください。

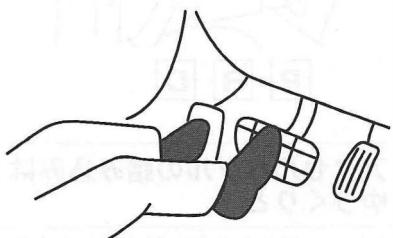


強い加速を必要とするとき キックダウンができます

走行中にアクセルペダルをいっぱいに踏み込むと自動的に低速ギヤに切り替わります。これを「キックダウン」といい、強い加速力を必要とするときに使用します。

ブレーキペダルは右足で

- エンジンをかける前にペダルの位置を確認してください。ペダルの踏み間違いは思わぬ事故につながります。
- アクセルペダルとブレーキペダルは右足で操作してください。慣れない左足でのブレーキ操作は緊急時の反応がおくれることがあり危険です。



セレクトレバーの操作は確実に

- 発進時はアクセルペダルを踏まずにブレーキペダルを踏み、セレクトレバーを操作してください。
- エンジン始動後、セレクトレバーはブレーキペダルを踏まないとPレンジから動かないようになっております。また、アクセルペダルを踏んだまま操作すると急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 後退した後は、すぐRから一度Nに戻す習慣をつけてください。
(誤発進防止のため)

オートマチック車の特徴と運転上の注意



重要

セレクトレバー位置は目で確認

エンジンをかけるときは[P]、前進するときは[D](後退は[R])の位置にあることを目で確認してください。

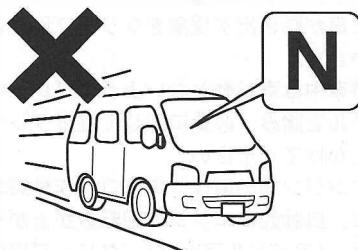


アクセルペダルの踏み込みはゆっくりと

アクセルペダルを急激に踏み込むと急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。ゆっくりとアクセルペダルを踏み込んでください。

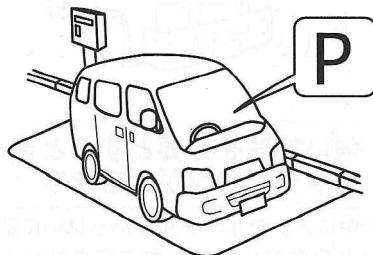
走行中はセレクトレバーを[N]にしないで

エンジンブレーキがまったく効かなくなり思わぬ事故につながるおそれがあります。



駐車するときは[P]にして、駐車ブレーキを確実に

セレクトレバーが[D]、[R]、[P]に入っていると、クリープ現象で車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏むと急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。セレクトレバーを[P]にし、駐車ブレーキも必ずかけてください。



オートマチック車の特徴と運転上の注意

重要

停車中は空吹かしをしないで

セレクトレバーが[P]、[N]以外に入っていると急発進の原因となり、思わぬ事故につながるおそれがあります。



シフトロックシステムがついています

- [P]からのレバー操作は、エンジンスイッチがONでブレーキペダルを踏んだ状態でなければできません。
- セレクトレバーを手前に引いたままブレーキペダルを踏むとレバー操作ができないことがあります。先にブレーキペダルを踏み、レバー操作をしてください。
- [P]以外ではエンジンスイッチからキーは抜けません。
- エンジンスイッチからキーを抜くときは、セレクトレバーを[P]にしてください。
([P]以外ではキーをACCからLOCKに回せません)
- [R]に入れるとブザーが鳴ります。
- ブザーが鳴り、[R]であることを運転者に知らせます。車外の人に音は聞こえませんのでご注意ください。

車から離れるときは エンジンを止めて

クリープ現象で車がひとりでに動いたり、乗り込むとき誤って急発進し思わぬ事故につながるおそれがあります。

エンジンを切り、セレクトレバーを[P]にして駐車ブレーキも必ずかけてください。

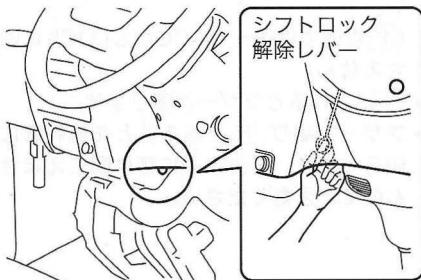


Pからのレバー操作ができないとき

エンジンスイッチがONでブレーキペダルを踏んだ状態でも操作できないときは、次の手順で操作してください。

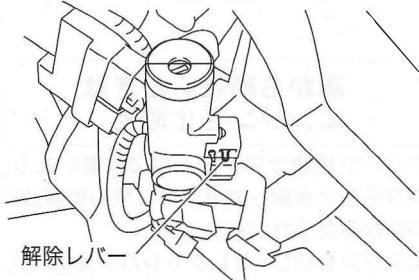
- ①ブレーキペダルを踏んだまま
- ②シフトロック解除レバーを引きながら
- ③シフトレバーを操作する

エンジンスイッチがONでブレーキペダルを踏んだ状態でも操作できないときは、シフトロックシステムの故障が考えられますので、直ちにスバル販売店で点検を受けてください。



キーが抜けなくなったとき

- ①セレクトレバーをPに入れます。
- ②ハンドブレーキを引き、ブレーキペダルから足を放します。
- ③ステアリングコラムロアカバーのビス(5本)を外し、取り外します。
- ④エンジンスイッチ下側にある解除レバーを助手席側に動かして
- ⑤キーをLOCKまで回して抜いてください。シフトロックシステム等の故障が考えられますので、直ちにスバル販売店で点検を受けてください。



タイヤ交換のときは

4輪のうち1輪でも異なるタイヤを装着していると、車両の駆動系の損傷につながるおそれや、操縦性・ブレーキ性能を危険なものにし、事故につながる可能性がありますので、下記事項をお守りください。

- 4輪とも必ず、指定サイズ、同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。
- 著しく摩耗したタイヤは使用しないでください。
- 摩耗差の著しいタイヤを混せて使用しないでください。
- タイヤの空気圧を指定空気圧に保ってください。
- 応急用スペアタイヤは、指定されたサイズを、指定した位置に装着してください。なお、冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）を装着するときも同様です。

走行中異常があったら

- 警告灯が点灯したら、ただちに安全な場所に停車し、スバル販売店に連絡してください。そのまま走行すると思わぬ事故につながるおそれがあります。

走行直後にチェックするときには高温部（排気管など）に触れないでください。やけどをすることがあります。

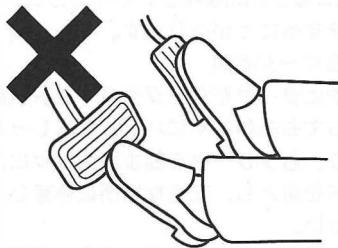
☆3-15ページ参照

- 走行中にタイヤがパンクやバースト（破裂）してもあわてずにハンドルをしっかりと握り、急ブレーキを踏まずに徐々にスピードを落とし、安全な場所に停車してください。
- 床下に衝撃を受けたときは安全な場所にただちに車を止め、ブレーキ液や燃料のものれ、オイルもれ、各部に損傷がないかを確認してください。損傷や異常がある場合は、スバル販売店に連絡してください。



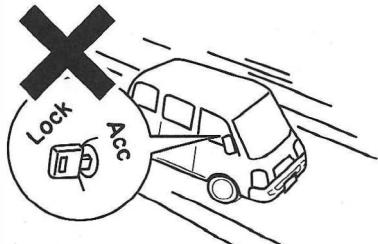
ペダルに足をのせたまま運転しないで

ブレーキペダルやクラッチペダルに足をのせたまま運転しないでください。ブレーキやクラッチの部品が早く摩耗したり、ブレーキが過熱して効きが悪くなるおそれがあります



走行中はエンジンスイッチを切らないで

- エンジンを止めるとブレーキブースター（制動力倍力装置）が効かなくなり、ペダルを踏むときに通常より強い力が必要となります。また、パワーステアリング機能が働かずハンドル操作が重くなったりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 「LOCK」位置ではキーが抜けることがあります。万一、キーが抜けるとハンドルがロックしてハンドルが動かなくなり、重大な事故につながるおそれがあります。
- 走行中エンジンを止めると触媒が過熱して焼損することがあります。



ABSを過信しないで

ABSは必ずしも制動距離を短くするものではありません。

下記の道路などではABSが作動した場合、ABSが付いてない車よりも制動距離が長くなることがあります。

ABSが付いてない車と同様、充分な車間距離をとって安全運転に心がけてください。

- マンホール、工事現場の鉄板などの滑りやすい路面
- 道路のつなぎ目などの段差
- 凹凸路、石畳などの悪路
- 下り坂での旋回
- 路肩に草や砂利が多い道路
- 砂利道
- 雪道（新雪路、圧雪路、アイスバーンなど）

☆3-36ページ参照

洗車後や水たまりを走行したあとはブレーキの効き確認を

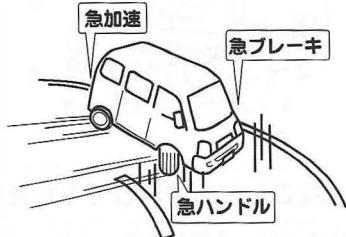
水たまり走行後や洗車後は、ブレーキの効きが悪くなることがあります。ブレーキペダルを軽く踏んで効きを確認してください。ブレーキの効きが悪い場合は前後の車に充分注意して低速で走行しながら効きが回復するまで、ブレーキペダルを数回踏んでください。



ぬれた路面や滑りやすい路面での走行は慎重に

とくに雨の降り始めは注意してください。また、急ブレーキ、急ハンドルなどやエンジン回転が急上昇するようなシフトダウンは避けてください。タイヤがスリップして思わぬ事故につながるおそれがあります。

☆1-18ページ参照



雨天の走行は速度を落として

- 路面がぬれると滑りやすくなります。通常より注意して安全運転に心がけてください。
- わだちなどにできた水たまりに高速で進入すると、タイヤが水に乗った状態（ハイドロブレーニング現象）になり、ハンドルやブレーキが効かなくなり危険です。スピードを落として走行してください。とくに摩耗したタイヤは、ハイドロブレーニング現象が起りやすいので注意してください。
- 冠水路など深い水たまりは走行しないでください。エンジン損傷や車両事故につながるおそれがあります。

下り坂ではエンジンブレーキの併用を

- ブレーキペダルを踏み続けるとブレーキが過熱してブレーキが効かなくなるおそれがあります。シフトダウンしてエンジンブレーキを併用してください。
- シフトダウンせずにエンジンの低回転領域でブレーキを使用し続けると、ブレーキブースター（制動力倍力装置）のアシスト力（補助力）が弱くなり、ブレーキペダルを踏むとき通常より強い力が必要となる場合があります。

〈エンジンブレーキとは〉

走行中にアクセルペダルを戻したときに起こるブレーキ効果のことをいいます。低速ギヤに入れるほどよく効きますが、エンジン回転数がタコメーターのレッドゾーンに入らないようにしてください。

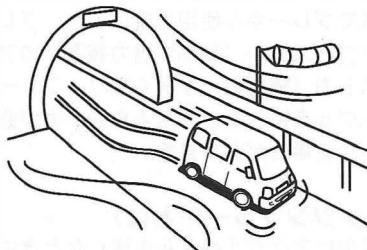
〈シフトダウンとは〉

マニュアル車では5→4、4→3、3→2、2→1のように低速ギヤへ変速すること。オートマチック車ではセレクトレバーを [D]→[2]、[2]→[1] にすると低速ギヤに切り替わります。

横風に注意して

ハンドルをしっかりと握り、安全な速度で運転しましょう。

走行速度が速過ぎると、ハンドルをしっかりと握っていても不意の突風で車の進路が乱され、事故の原因になるおそれがあります。



燃えやすいものの上は走らないで

排気管や排気ガスの熱により着火するおそれがあります。



高速道路に入る前には

- 燃料は充分補給してください。高速道路上での燃料切れは危険です。
- タイヤ空気圧を確認してください。空気圧不足の状態で高速走行するとタイヤがバースト（破裂）するおそれがあり大変危険です。

☆9-5ページ参照

- 万一のために停止表示板（停止表示灯）を車に備えておいてください。

停止表示板（停止表示灯）の設置は法律で義務づけられています。（別売り）

こんなことにも注意してください

- 夏用タイヤ、冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）ともに、急発進、急加速、急ブレーキ、急ハンドルは避けてください。
- 車間距離は充分とってください。
- スタック（立ち往生）したときなどはタイヤを高速で回転させないでください。タイヤがバースト（破裂）したり、異常過熱により思わぬ事故につながるおそれがあります。

走行するときには



重要

適切なエンジン回転数で運転を

新車の慣らし運転中（約1,000kmまで）はエンジン回転をなるべく抑えてご使用ください。慣らし運転後はタコメーターのレッドゾーン未満でご使用ください。
タコメーターの付いていないお車はスピードメーターに表示してある各変速ギヤ位置の上限速度を超えないよう運転してください。

〈マニュアル車〉

変速位置	速度範囲
1速	0~25 km/h
2速	10~45 km/h
3速	20~70 km/h
4速	30 km/h~
5速	40 km/h~

〈オートマチック車〉

0から最高速度まで自動的に変速します。

ブレーキパッドの摩耗警報

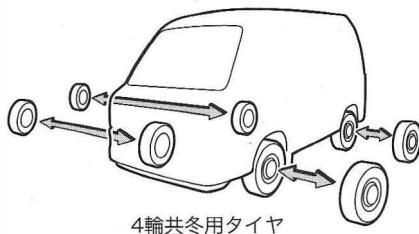
パッドが摩耗して交換時期になるとブレーキペダルを踏むたびに金属的な摩擦音（キーキー音）がします。
音が発生したときはすみやかにスバル販売店で交換してください。

雪道走行するときには

!
重要

四輪とも冬用タイヤで

- 雪道走行が予想される場合はスタッドレスタイヤを用意してください。
一般タイヤでは、雪道、凍結路でスリップし危険です。
- スタッドレスタイヤは、4輪とも必ず指定空気圧指定サイズで、同一サイズ・同一メーカー・同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。



控え目な運転に心がけて

- スタッドレスタイヤを装着していても、急発進、急加速、急ブレーキ、急ハンドルは、避けてください。タイヤのグリップ力が失われ、車の進路をコントロールできなくなる場合があります。
- 発進時は、マニュアル車では2速ギアの使用をお奨めします。

☆5-5ページ参照

タイヤチェーンは 非常のときのみ後輪に

- タイヤチェーンは4WD車を含め後輪に取り付けてください。

☆5-7ページ参照

- タイヤチェーンを取り付けると、前後のバランスが変わるために、前輪が滑りやすくなります。前輪が滑り出すと、ハンドルで車の進路をコントロールすることが難しくなります。

急発進、急加速、急ブレーキ、急ハンドルなどを避けて路面の状況に合った安全な速度（30km/h以下）で慎重に運転してください。



駐・停車するときには



重要

燃えやすいものの近くに車を止めないで

- 枯れ草、紙、油、木材など燃えやすいものがあるところには、車を止めないでください。排気管や排気ガスの熱により火災につながるおそれがあります。
- 車の後ろに木材、ベニヤ板など燃えやすいものがあるときは、30 cm以上離して止めてください。すき間が少ないと排気ガスにより変色や変形を起こしたり、火災につながるおそれがあります。

坂道に駐車するときは

無人で車が動き出すなど思わぬ事故につながるおそれがあります。安全のため次の処置をしてください。

- ①駐車ブレーキを充分にかけ、車が動き出さないことを確認します。
- ②チェンジレバーを“1”か“R”（オートマチック車はP）に入れます。
下り坂：“R”
登り坂：“1”
- ③輪止め（石やタイヤストッパー）をします。

なお、急な坂での駐車は避けてください。

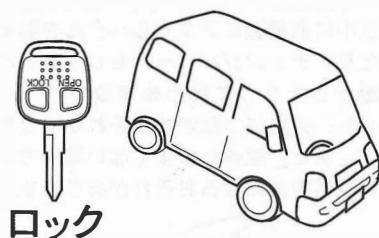


車の移動はエンジンをかけて

必ずエンジンをかけて移動してください。エンジンをかけないで坂道を利用した移動は、ブレーキの効きが悪かったり、ハンドル操作が重くなり思わぬ事故につながるおそれがあります。

車から離れるときは必ず駐車ブレーキをかけ、エンジンを切り、必ず施錠を

- 無人で車が動き出したり、車両盗難や貴重品盗難など思わぬ事故につながるおそれがあります
- お子さまや介護が必要な方を車内に残したままにしないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。



駐・停車するときには



重要

いきなりドアを開けないで

ドアを開けるときは、周囲の安全を確認してください。後ろから車、オートバイ、自転車などがきている場合があり思わぬ事故につながるおそれがあります。



仮眠するときは必ずエンジンを止めて

仮眠中に無意識にアクセルペダルを踏み続けたり、チェンジレバー、セレクトレバーを動かしたりして思わぬ事故やオーバーヒート、火災につながるおそれがあり危険です。また、風通しのよくない場所では一酸化炭素中毒になるおそれがあります。



雪が積もった場所や降雪時に駐車するときは、エンジンをかけたままにしないでください

エンジンをかけた状態でクルマのまわりに雪が積もると、排気ガスが車内に侵入して一酸化炭素中毒になるおそれがあり危険です。

エンジンルームファンがついでいます

エンジンルームの温度が高い状態では、エンジンを停止しても作動し続けます。エンジンルームが冷えると停止します。また、エンジン停止後でもエンジンルーム内の温度が上昇した場合は、ファンが自動的に回ることがあります。日常点検整備などでエンジンルーム内の点検を行う時は自動的に回るエンジンルームファンに充分ご注意ください。思わぬけがをする場合があります。

SRSエアバッグシステムとは

運転席、助手席 SRS エアバッグシステムは、エンジンスイッチが「ON」のとき車両が前方から強い衝撃を受けた場合のみ作動します。この装置は運転者および助手席同乗者の頭部への衝撃をやわらげるシートベルトの補助装置で、横方向や後部からの衝突、あるいは横転などの衝撃では作動しないよう設定されています。

シートベルトは必ず着用して

- SRS エアバッグシステムはシートベルトを補助する装置でシートベルトに代わるものではありません。SRS エアバッグシステムだけでは身体の飛びだしなどを防止できないばかりか、エアバッグ本体からの衝撃を直接受けてしまいます。SRS エアバッグシステムはシートベルトを着用している時だけ効果を充分発揮します。シートベルトを着用していないと命にかかるような重大な傷害につながるおそれがあります。
- 同乗者も必ずシートベルトを着用してください。

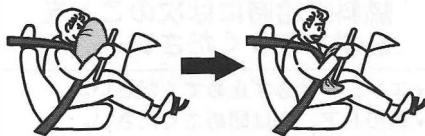
☆2-31ページ参照

お子さまを乗せる場合は

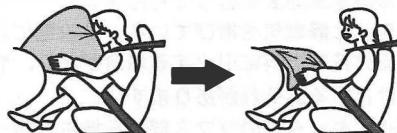
- 後席のある車では、お子さまは後席に乗せてください。
- チャイルドシートは後席に取り付けてください。
- 助手席用SRSエアバッグ付車は、助手席にチャイルドシートを絶対に取り付けないでください。
SRSエアバッグが作動したとき、強い衝撃を受け、命にかかるような重大な傷害につながるおそれがあります。

☆1-6、2-42ページ参照

<運転席SRSエアバッグ>



<助手席SRSエアバッグ>



燃料補給時の注意



重要

指定燃料を必ずご使用ください

- ・無鉛ガソリンを使用してください。有鉛ガソリンを使うと触媒を劣化させます。
- ・給油時に指定されている燃料であることを確認してください。
☆指定燃料の種類：1-5ページ参照
- ・指定以外の燃料（粗悪なガソリン、アルコール燃料など）を使用すると、エンジンの始動性が悪くなったり、ノックングが発生したり、出力が低下する場合があります。また、そのまま使うとエンジンや燃料系統部品を損傷するおそれがありますので、指定燃料以外は使用しないでください。

燃料補給時には次のことを必ずお守りください

- ・エンジンは必ず止めてください。
- ・車のドア、窓は閉めてください。
- ・タバコを吸うなど火気を絶対に近づけないでください。
- ・フューエルキャップを開ける前に車体または給油機などの金属部分に触れて身体の静電気除去を行ってください。
身体に静電気を帯びていると、放電による火花で燃料に引火する場合があり、やけどするおそれがあります。
- ・必ずキャップのツマミ部分を持ち、ゆっくり左に回して開けてください。
- ・フューエルキャップはゆっくり回し、燃料タンク内の圧力を下げるから外してください。急に開けると燃料補給口から燃料が吹き返すおそれがあります。

- ・フューエルリッド、フューエルキャップを開けるなど給油操作は必ずお一人で行ってください。給油中、ふたたび車内のシートに戻らないでください。(座ることで再帶電することがあります)
- ・給油口に他の人を近づけないでください。
- ・その他、ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を守ってください。
- ・燃料補給後はフューエルキャップを“カチッ、カチッ”と音がするまで右に回し、確実に締っていることを確認してください。
- ・車に合ったスバル純正のフューエルキャップ以外は使用しないでください。
- ・給油中に、燃料を車にこぼさないようにしてください。塗装面を侵すおそれがあります。こぼれた燃料は必ず拭き取ってください。

給油時に気化した燃料を吸わないようにしてください

燃料の成分には、有害な物質を含んでいるものもありますので、ご注意ください。

こんなことにも注意を

クラッチ・スタートシステムについて（マニュアル車）

マニュアル車にはエンジン始動時の誤操作防止機構が装着されています。マニュアル車にはクラッチ・スタートシステムが装着されています。クラッチペダルをいっぱいに踏み込まないとスターターが回らずエンジンがかかりません。

☆3-20ページ参照

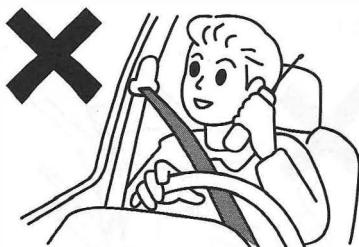
4WD車は万能車ではありません

2WD車に比べて滑りやすい路面、積雪路などではより安定した走行ができますが、急ブレーキ、急ハンドル時は差がありません。安全な速度で走行してください。

☆3-31ページ参照

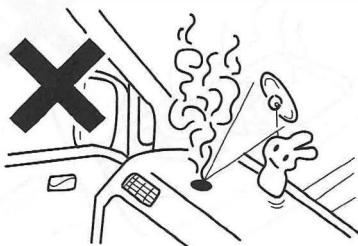
走行中は携帯電話を使わないで

法律により、運転しながらの自動車電話や携帯電話（ハンドフリーを除く）の使用は禁止されています。



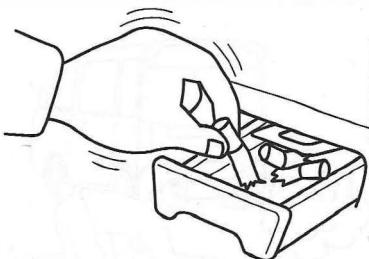
アクセサリーの取り付けに注意

ウインドウにアクセサリーを取り付けると、視界の妨げになったり、吸盤がレンズの働きをして火災を起こしたり、助手席SRSエアバッグが作動したときアクセサリーが飛んでけがをするなど思わぬ事故につながるおそれがあります。



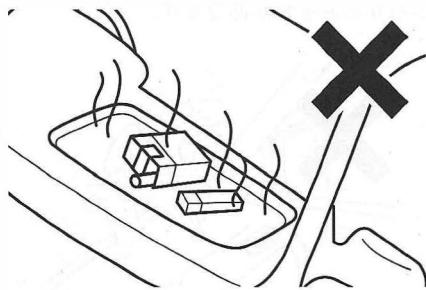
灰皿を使用したあとは

マッチ、タバコの火を確実に消し、必ず閉めておいてください。また、可燃物や多量の吸ガラを入れておかないでください。火災になるおそれがあります。



車内にガスライターを放置しないで

炎天下で駐車するときは車内にガスライターを放置しないでください。車室内が高温になるためライターが爆発するおそれがあります。



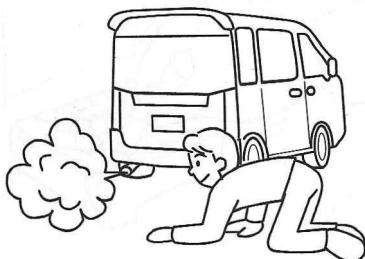
ラジエーターが熱いときキャップを外さないで

ラジエーターーやリザーブタンクが熱いときはキャップを外さないでください。蒸気や熱湯が吹き出すおそれがあり危険です。



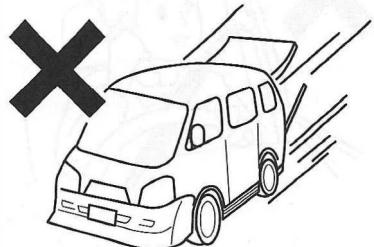
排気管をときどき点検して

排気管の腐食などによる穴や亀裂および継ぎ手部の損傷、また、排気管の異常などに気づいた場合は、必ずスバル販売店で点検整備を受けてください。そのまま使用すると排気ガスが車内に侵入し、一酸化炭素中毒になるおそれがあります。



不正改造は絶対にしないで

- 車の性能や機能に適さない部品を取り付けたり、自己流のエンジン調整や配線などを行わないでください。火災など思わぬ事故につながることがあります。
- スバルが国土交通省に届け出した部品以外のものを取り付けると不正改造になることがあります。スバル販売店にご相談ください。(タイヤ、ホイール、マフラーなど)



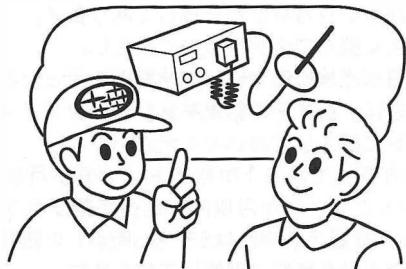
リヤゲートを確認して

リヤゲートが閉まっていることを確認してください。確実に閉まっていないまま走行すると排気ガスが車内に侵入し一酸化炭素中毒になるおそれがあります。

電装品、無線機を取り付ける ときには

取り付け、取り扱いを誤ったり、スバル純正以外の部品を使用すると、電子制御系統に異常が起きたり、火災など思わぬ事故につながるおそれがあります。

スバル販売店にご相談ください。



純正部品をお奨めします



• マフラー、エアクリーナーエレメント、オイル、冷却水、オイルフィルター、タイヤチェーンなどの部品は、スバル純正部品の使用をお奨めします。純正部品以外を使用すると保証を受けられない場合があるばかりか、故障の原因にもなります。

例えば、マフラー、エアクリーナーエレメントの変更はエンジン部品等の損傷を招きます。純正部品は、スバル車に合うよう厳しい検査を実施して作られています。

• 詳しくは「保証書・メンテナンスノート」をご覧ください。

点検整備をするときは

- スバル販売店はスバル車を点検整備するための設備、技術、知識の全てを兼ねそなえております。お客様が安心してお車をお乗り頂くためにも、点検整備はお近くのスバル販売店にご用命ください。
- 日常点検整備でエンジンルーム内の点検を行うときは、エンジン高温部、回転しているブーリーやベルト、自動的に回転する冷却ファンに充分ご注意ください。思わずけがをすることがあります。

保証書・メンテナンスノートについて

別冊の「メンテナンスノート」には、保証の内容および点検・整備について記載してあります。ご使用前に必ずお読みください。

保証について

保証書には、万一故障が起きたときに無料で修理が受けられる条件や範囲が記載しています。

一度お読みになり、条件や範囲などについてご確認ください。

点検・整備について

- 法律で使用者に点検・整備の義務が規定されており、使用者の保守管理責任が明確にうたわれております。
- メンテナンスノートには点検・整備の時期ややり方などが記載しております。よく読んで必ず行ってください。
- 日常点検整備や他の点検整備を行ったときは、必ずその結果をメンテナンスノートに記入しておいてください。
- 納車してから1か月後および6か月後（ただし、6か月以内に走行距離が5千kmを超える場合は5千km時点）に新車時点検を無料で実施しております。

保証期間と点検整備時期



保証期間

一般保証部品 3年 (またはその期間内)
でも6万kmまで)

(ただし、一部保証期間の違うものがありますので、詳しくは保証書をお読みください。)

特別保証部品 5年 (またはその期間内でも 10万kmまで)

日常点検整備

日常の自動車ご使用の中で、お客様が走行距離や運行時の状態などから判断した適切な時期に必要に応じて行います。

スバルでは、お客様の日常点検整備をお手伝いするために“スバル愛車チェックメニュー”を準備しましたのでご活用ください。

<乗用車（ワゴン）>

点検整備	1か月	6か月	12か月	12か月	24か月	定期点検	12か月	24か月	定期点検	12か月	24か月	定期点検	12か月	12か月
	(または 5千km)	無料点検	無料点検	定期点検	(1か月前から 受けられます)	定期点検								

<軽貨物車（ワゴン除く）>

点検整備	1か月	12か月	24か月	12か月	24か月	定期点検	車検	12か月	24か月	定期点検	車検	12か月	24か月	定期点検	車検
	無料点検	定期点検	(1か月前から 受けられます)												

MEMO

MEMO

2

運転する前に

- ・各部の開閉 2-2

 - ・キー ・ドア ・パワーウィンドウ
 - ・燃料補給口 ・リヤゲート ・トラックのゲート
 - ・トラップドア ・エンジンフード

- ・シート 2-17

 - ・正しい運転姿勢 ・フロントシート
 - ・リヤシート

- ・シートベルト 2-31

 - ・シートベルトの正しい着用
 - ・フロントシートベルト ・リヤシートベルト

- ・SRSエアバッグシステム 2-38

 - ・SRSエアバッグシステム
 - ・シートベルトは必ず正しく着用してください
 - ・乗員とSRSエアバッグの間に物を置かないでください
 - ・運転席SRSエアバッグに関しては、次の事項をお守りください
 - ・助手席SRSエアバッグに関しては、次の事項をお守りください
 - ・お子さまを乗せるときには、次の事項をお守りください
 - ・SRSエアバッグが作動すると
 - ・車両の整備やカー用品を装着するときは、次の事項をお守りください
 - ・運転席、助手席SRSエアバッグが作動するとき、しないとき
 - ・エアバッグ警告灯

- ・ミラーの調整 2-48

 - ・ルームミラー ・アウターミラー
 - ・リヤアンダーミラー

各部の開閉

キー

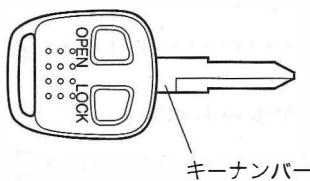
キーはドアの施錠・解錠、エンジンの始動・停止に使います。

<キー>



キーナンバー

<リモコンキー>



キーナンバー

- リモコンキーはドアやリヤゲートの施錠・解錠がボタン操作でできます。



アドバイス

- 万一の場合に備えてキーナンバーをメモしておいてください。キーを注文するときにはスバル販売店にご相談ください。
- リモコンキーを紛失したときは、スバル販売店にご相談ください。

ドア

注意

- ドアを開けるときは周囲の安全を充分に確認してください。不用意に開けると後続車、自転車、オートバイなどにぶつかることがありますので危険です。
- ドアは確実に閉めてください。ドアが確実に閉まっていないと走行中にドアが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

- 乗車中の施錠・解錠についてはそれぞれ次のような効果がありますのでご選択ください。

<乗車中、施錠している場合>

- 同乗者が誤ってドアを開けることを防ぎます。
- 車外からの侵入者を防ぎます。
- シートベルトの着用と併せて事故時に車外に投げ出される可能性が少くなります。

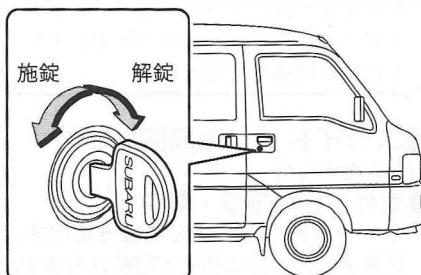
<乗車中、解錠している場合>

- 万一の事故の場合、車外からの救援活動が受けやすくなります。

- 車から離れるときは、エンジンを止めドアを必ず施錠してください。ドアを施錠する前にキーを持っていることを確認してください。
- 施錠しても車内に貴重品などを置かないようにしてください。

■車外から行う施錠と解錠

キーを前方に回すと解錠、後方に回すと施錠されます。

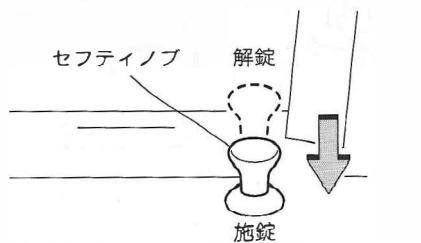


アドバイス

車外から施錠・解錠できるのはフロントドアとリヤゲートです。スライドドアはセフティノブで施錠・解錠してください。

■車内から行う施錠と解錠

セフティノブを押し込むと施錠、引き出すと解錠されます。



■キーを使わずに施錠するには

●フロントドア

①セフティノブを施錠側にします。

②アウターハンドルを引き上げたままドアを閉めます。



注意

②の操作時に、アウターハンドルの手掛け部から指が離れないようにしてください。指を挟むことがあります。

●スライドドア

セフティノブを施錠状態にしてドアを閉めます。

■集中ドアロック

運転席ドアを施錠・解錠すると全てのドアも同時に作動します。

リヤゲートも同時に作動します。

■キー抜き忘れ警報

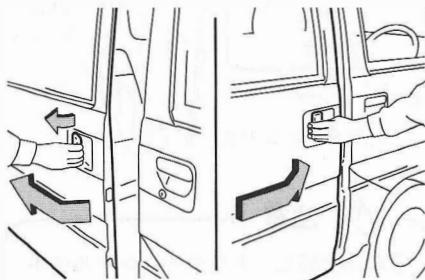
キーの抜き忘れを防止するための装置です。キーをエンジンスイッチに差し込んだまま運転席ドアを開けるとブザーが鳴ります。

■スライドドアの開閉

(ワゴン、バン)

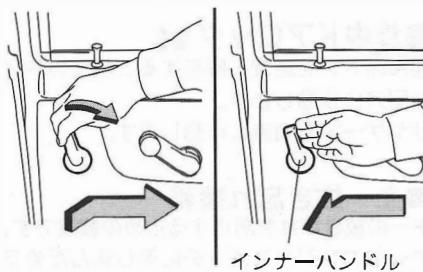
●車外からは

- 開けるときは、セフティノブを解錠にします。アウターハンドルを引き、ドアを開けます。
- 閉めるときは、アウターハンドルを持ち完全に閉まるまで前にスライドさせます。



●室内からは

- 開けるときは、インナーハンドルを引いたままスライドさせます。
- 閉めるときは、インナーハンドルを押して閉まるまで前にスライドさせます。



注意

ドアを閉める場合は、指を挟まれけがをするおそれがありますので、スライドドアのふち、およびその周辺に手をかけずに閉めてください。

■スライドドアの開閉

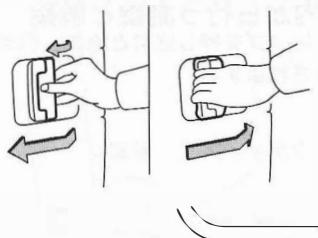
(パネルバン)

●車外からの施錠・解錠

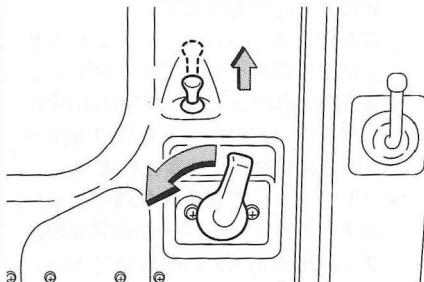
キーを確実に差し込んで後方に回すと解錠され、前方に回すと施錠されます。

●車外からの開閉

- 開けるときは、解錠してアウターハンドルを引き、後方にスライドさせます。
- 閉めるときは、アウターハンドルを持ち完全に閉まるまで前方にスライドさせます。



- 車外から施錠されているとき
荷室内に閉じ込められたときなどは、荷室側のセフティノブを引き上げます。インナーハンドルを後方に引き、スライドさせれば開けることができます。



■チャイルドプルーフ

レバーを「LOCK」側にしてからドアを閉めるとセフティノブの位置に関係なく、室内のインナーハンドルではスライドドアを開けることができません。

後席にお子さまを乗せたときにご使用ください。解除するときは「FREE」側にしてください。

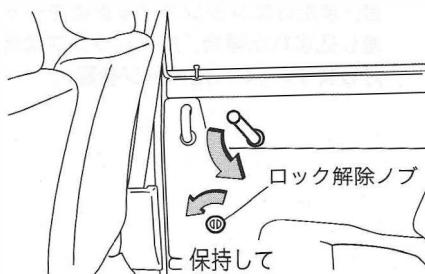


- チャイルドプルーフが働いているときのドアの開けかた
セフティノブを解錠状態にします。車外からドアハンドルを引くとドアが開きます。

- 万一のときの車内からの開けかた
窓ガラスを下げ、セフティノブが施錠されている場合はセフティノブを解錠状態にします。手を外に出し、ドアハンドルを引くとドアが開きます。

■スライドドアのウインドウを全開にする方法

ロック解除ノブを矢印方向に回して保持しながらレギュレーターhandleを回すと全開になります。



アドバイス

ウインドウを開ける場合ノブが回せないときは、ウインドウを一度少し閉めて（レギュレーターhandleを半分くらい逆に回す）からノブを回してください。

■電波式リモコンドアロック 26

電波により、車から離れたところ(約1m)から全ドア(リヤゲートを含む)の施錠・解錠ができます。

車のまわりからキーの「OPEN」ボタンを押すと解錠します。

「LOCK」ボタンを押すと施錠します。

●施錠・解錠の作動確認

解錠時：非常点滅灯(ハザードランプ)
が2回点滅します。

施錠時：非常点滅灯(ハザードランプ)
が1回点滅します。

- ルームランプスイッチをドア連動(中間)位置にしておくと、解錠時はルームランプが約15秒間点灯します。点灯中、「LOCK」ボタンが押された場合、またはエンジンスイッチにキーが差し込まれた場合、ルームランプは消灯します。(4-32ページ参照)

アドバイス

- 車のまわりより約1m以内で作動しますが、近くにTV塔や発電所、放送局などがあると周囲の状況により変わることがあります。
車を離れるときは、ドアハンドルを引いて施錠を確認してください。
- 送信機で解除してから約30秒以内にドアまたはリヤゲートを開けなかつた場合は自動的に施錠されます。
- リモコンキーを紛失した場合、またはスペアリモコンキーが必要な場合はスバル販売店にご相談ください。
- エンジンスイッチにキーが差し込まれているときやドアまたはリヤゲートが開いているときは作動しません。
- キーには電子部品が組み込まれています。故障を防ぐため、次のことをお守りください。
 - ダッシュボードの上など直射日光が当たったり高温になる場所には絶対に放置しないでください。バッテリーが上がり、回路故障の原因になります。
 - 強い衝撃を与えないでください。
 - 電池(CR-1620:市販品)交換時以外は分解しないでください。電池交換の際はバッテリーのショートおよび \oplus 、 \ominus の方向に注意してください。
 - 水にぬらさないでください。水にぬれた場合はすみやかに拭き取ってください。

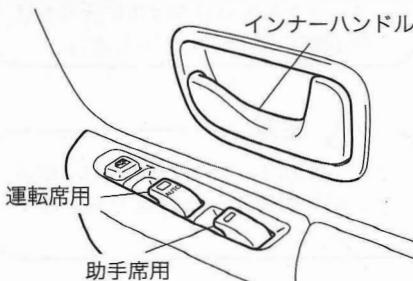
パワーウィンドウ

エンジンスイッチがON位置のときスイッチ操作で窓ガラスの開閉ができます。

警告

- パワーウィンドウが閉まるときは大きな力が働きます。挟まれると危険ですので閉める前に窓から顔や手を出していないことを確認してください。
- 挟まれると危険ですので小さなお子さまには開閉操作をさせないでください。
- お子さまを乗せるときにはウィンドウロックスイッチをロックにしておいてください。お子さまがウィンドウスイッチをいたずらして手や首を挟むことを防ぎます。

■運転席スイッチ



●運転席ウィンドウの開閉

スイッチを軽く操作している間、作動します。強く操作すると、自動で全開（全閉）します。

開けるとき：スイッチを押します。

閉めるとき：スイッチを引き上げます。



- 自動開閉中にウィンドウの開閉を停止させるときは、スイッチを作動方向とは逆方向に軽く操作します。

●助手席ウィンドウの開閉

スイッチを操作している間、作動します。

アドバイス

ウィンドウロックスイッチがONになっているときは、スイッチを操作しても作動しません。

燃料補給口

■ウインドウ反転機能

運転席のウインドウを閉じるときに、窓枠とウインドウとの間に異物の挟み込みを感じると、ウインドウの上昇が停止し、自動で少し下降し止まります。



注意

ウインドウを確実に閉めるため、閉める直前の部分では、挟み込みを感じない領域があります。指など挟まないようにしてください。



アドバイス

環境、走行条件により異物を挟んだときと同じ衝撃がウインドウに加わるとウインドウ反転機能が作動することがあります。

■パワーウィンドウの ロックスイッチ

ウインドウロックスイッチをONにすると助手席のパワーウィンドウは作動しません。お子さまを乗せるときなどにご使用ください。スイッチを押すごとにONとOFFに切り替わります。



警告

燃料補給時には必ず次のことをお守りください。

- ・ガソリンは非常に着火しやすいため、燃料補給時は火気厳禁です。
- ・エンジンは必ず止めてください。
また、タバコなど一切の火気は厳禁です。
- ・フューエルキャップを開けるときはゆっくり回し、燃料タンク内の圧力を下げてから外してください。急に開けると燃料が補給口から吹き返すおそれがあります。
- ・フューエルキャップは確実に閉めてください。閉まっていないと走行中に燃料が漏れて火災につながるおそれがあります。
- ・導電対応キャップを採用しています。
フューエルキャップは車に合ったスバル純正品を使用してください。



注意

セルフ補給のときの燃料補給は、給油ガンが自動停止した時点でお止めください。

■ フューエルリッドの開閉 (オープナーレバー付)

開けるときは、運転席左下（センターコンソール取付部前方右下）にあるフューエルリッドオープナーレバーを引き上げます。閉めるときは、フューエルリッドがロックするまで手で押さえつけてください。



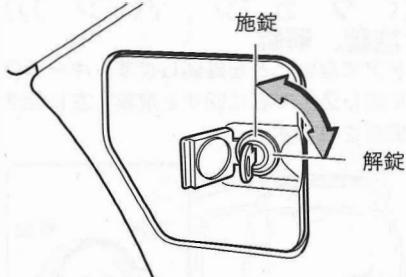
■ フューエルリッドの開閉 (キー開閉式)

● 開けるとき

- ①キーロックのキャップを手前に引いて開けます。
- ②キーを確実に差し込んで後方に回し、解錠します。
- ③そのまま手前に引いてフューエルリッドを開けます。

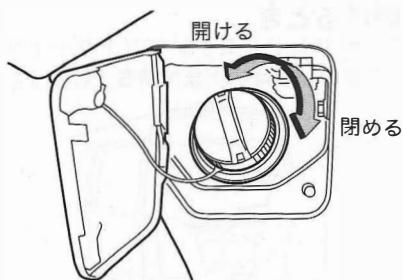
● 閉めるとき

- ①フューエルリッドを確実に閉じ、キーを元に戻して施錠します。
- ②キーを抜いてキャップを確実に閉めます。



■ フューエルキャップの開閉

フューエルキャップを左に回して開けます。燃料補給後は、「カチッ、カチッ」と2回以上音がして、空回りするまで右に回して閉めます。

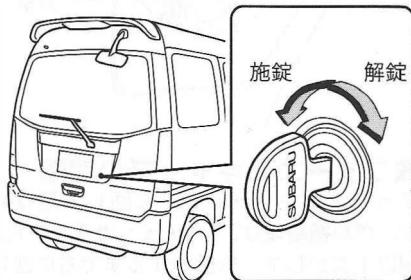


リヤゲート

《《 ワゴン、バン 》》

■施錠、解錠

半ドアでないことを確認します。キーを確実に差し込んで右に回すと解錠、左に回すと施錠されます。



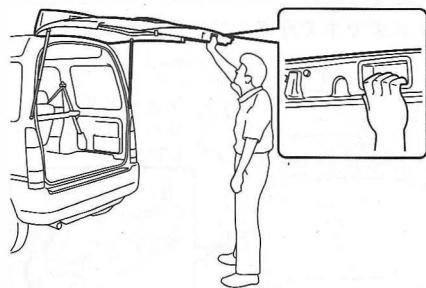
■開けるとき

アウターハンドルを引いてリヤゲートをゆっくりといっぱい上まで持ち上げます。



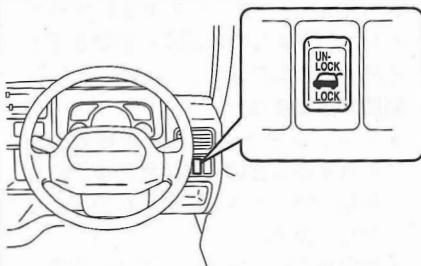
■閉めるとき

リヤゲートをゆっくり下げ（ワゴンはインナーハンドルに手をかけてリヤゲートをゆっくり下げ）上から手で押さえつけるように閉めます。半ドアでないことを確認してください。



■電気式リヤゲートロック

スイッチのUN LOCK側を押すと解錠、LOCK側を押すと施錠されます。



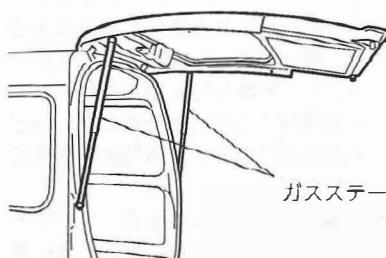
注意

走行するときは

走行中はリヤゲートを完全に閉めてください。走行中に開くと荷物が落ちるおそれがあります。また、車内に排気ガスが侵入し、一酸化炭素中毒になるおそれがあります。

閉めるときは

- 荷物や手足を挟まないように注意してください。周囲にお子さまがいる場合にはとくに注意してください。
- リヤゲートを閉めるときはステーを持って閉めないでください。故障の原因になったり、手を挟んだりして危険です。



- 薄いビニール袋、テープなどをステーに噛み込ませないように注意してください。ステーのガス抜けにより、ゲートが自然に閉じてしまう場合があります。

アドバイス

リヤゲートを開閉するとき

- キャリアなどに積んだ荷物に当たらないように注意してください。
- キーを差し込んだ状態でキーを持ち、リヤゲートを開閉しないでください。キーシリンダーが損傷したり、キーが折れる場合があります。
- 荷物の積み降ろしのときリヤゲートに頭をぶつけないように注意してください。

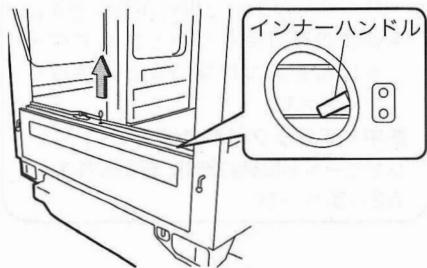
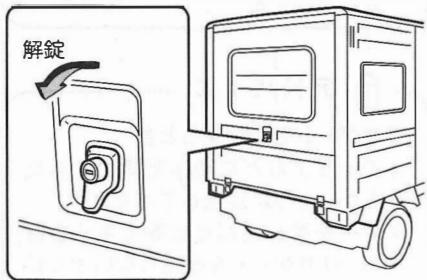
集中ドアロック付車では

リヤゲートも同時に施錠、解錠されます。
☆2-3 ページ

《《 パネルパン 》》

■施錠、解錠

キーを確実に差し込んで左に90度回すと解錠、元に戻すと施錠します。



■開閉

●開けるとき

- ①上側ゲートのプッシュボタンを押し、上側ゲートをゆっくり、いっぱいまで引き上げます。
- ②下側ゲートのインナーハンドルを引き上げてロックを外し、下側ゲートを持って静かに降ろします。

●閉めるとき

- ①下側ゲートを持ち上げ、押しつけて確実にロックします。
- ②上側ゲートをゆっくり下げて、上から手で押さえつけるように確実に閉めます。

△注意

走行するときは

走行中はリヤゲートを完全に閉めてください。走行中に開くと荷物が落ちるおそれがあります。

開閉するときは

- エンジンをかけたまま荷物の出し入れするときは、排気管の後方に立たないでください。足元を汚すことがあります。
- 荷物や手足を挟まないように注意してください。周囲にお子さまがいる場合は、とくに注意してください。
- リヤゲートを閉めるときはステーを持って閉めないでください。故障の原因になったり、手を挟んだりして危険です。
- 薄いビニール袋、テープなどをステーに噛み込ませないよう注意してください。ステーのガス抜けにより、自然に閉じてしまう場合があります。

▲アドバイス

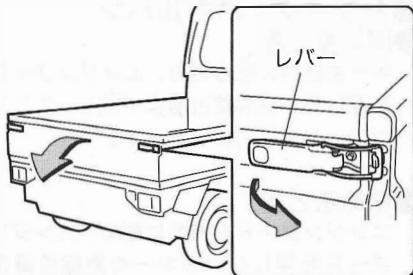
リヤゲートを開閉するとき

- キーを差し込んだ状態でキーを持ちリヤゲートを開閉しないでください。キーシリンダーが損傷したり、キーが折れる場合がありますので、キーを抜いて開閉してください。キーを差し込んだままリヤゲートを開閉すると、キーホールダーなどで塗装面が傷つき、錆発生の原因になります。
- 荷物の積み降ろしのとき、リヤゲートに頭をぶつけないよう注意してください。

トラックのゲート

■ゲートの倒しかた

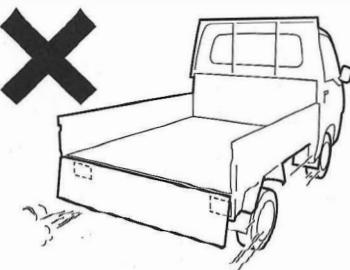
ゲートロックのレバーを引いてロックを外し、ゲートを持って静かに倒します。



△ 注意

ゲートを倒すとき

- ・開けるとき、エンジンフードに当たらないようにゲートを持って静かに倒してください。ゲートやエンジンフードを損傷することがあります。
- ・ゲートを倒したまま走行しないでください。尾灯、制動灯が後方から見えないので追突されるおそれがあります。



■ゲートの脱着

●取り外すとき

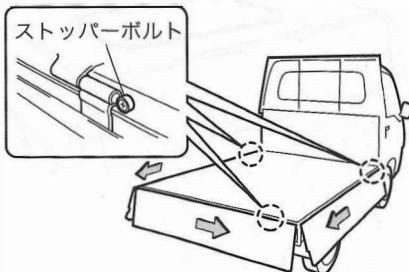
①ストッパーboltを外します。

②ゲートを開いて水平にしっかりと持ち、矢印方向にずらして外します。

●取り付けるとき

①リヤゲートは右端、サイドゲートは前から1番目のヒンジピンが他より長くなっています。これをガイドにして確実に差し込みます。

②ゲートを閉め、ストッパーboltを取り付けます。



△ 注意

ストッパーboltを外したまま走行すると、ゲートの脱落など思わぬ事故につながります。ゲート取り付け後は確実にストッパーboltを取り付けてください。

トラップドア

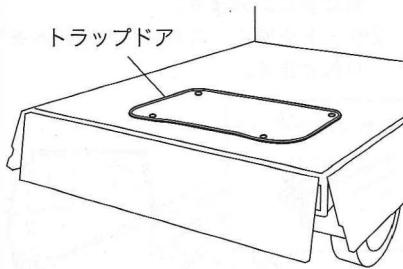
エンジン上部の点検・整備をするときなどに開けます。

■開けるとき

4本のスクリューを外して取り外します。バンでは荷物室のマットをめくってください。

■閉めるとき

4か所のネジ穴を合わせてから4本のスクリューで締め付けます。



エンジンフード

エンジン後部の点検・整備をするときなどに開けます。

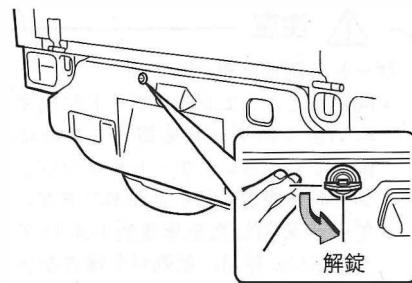
■トラック、パネルバン

●開けるとき

キーを確実に差し込み、エンジンフードを押しながら解錠位置まで回し、エンジンフードを手前に引きます。

●閉めるとき

エンジンフードを確実に閉め、エンジンフードを押しながらキーを施錠位置まで回し、抜きます。



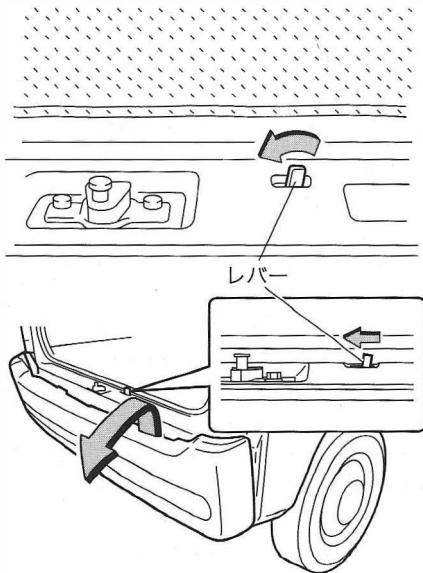
■ワゴン、バン

●開けるとき

- ①リヤゲートを開けます。
- ②図のレバーを左に押すと少し開きます。
- ③リヤバンパーの右側を少し（約1cm）持ち上げ、両手で持って引き下げます。

●閉めるとき

リヤバンパーを両手で持って回転させ、押し付けるとロックします。



注意

- ・バンバー下端は排気管が近いので熱くなることがあります。注意してください。

開閉するとき

- ・やけどしないように手袋をはめてください。排気管が近いので、走行直後や停車中にエンジンをかけていると、下面が熱くなっていることがあります。
- ・確実にロックしていることを確認後、走行してください。

MEMO

シート

正しい運転姿勢

無理のない、正しい運転（乗車）姿勢がとれるようにシートを調整します。ミラーも調整します。正しい運転姿勢でシートベルトを正しく装着してください。

ハンドル操作が
楽にできること
(運転席)

ねじれがなく肩に
充分かかること

ヘッドレスト（ピロー）の
中央が耳の後方にくること



ペダルが充分に
踏み込めるこ
と
(運転席)

腰骨のできるだけ
低い位置に密着さ
せること

背当てはできるだけ立てて背中を
離さず、深くこしかけるこ
と
(ハンドルに近づき過ぎないこと)



警告

シートなどの調整は、次の事項を必ず守ってください。お守りいただかないと重大な傷害につながるおそれがあります。

- ・シート調整は必ず走行を始める前にしてください。とくに運転席は運転中に行わないでください。加速、減速でシートが動いてペダルに足が届かなくなったり、背当てが倒れてハンドルに手が届かなくなったりして重大な事故や傷害につながるおそれがあります。シートを調整した後はシートを軽くゆすり「しっかりと固定されていること」を確認してください。不完全なままではシートが動いたり、シートベルトの機能が充分に働かないことがあります。
- ・走行中は助手席も含めて必要以上に倒さないでください。万一のとき、シートベルト本来の機能が発揮されないことがあります。
- ・背当てと背中の間にクッションなどを入れないでください。正しい運転姿勢がとれないと危険です。
- ・ヘッドレスト付車は、ヘッドレストを確実に取り付けてください。外したり、固定できる高さを超えての使用は、万一のとき頭や首を保護できず重大な傷害につながるおそれがあります。ヘッドレスト中央が耳の後方になるように高さを調整してください。



注意

シートの調整は必ず大人が行い、シートや動いている部分に手を近づけないでください。また、同乗者や荷物にも注意してください。挟まれたり、荷物を損傷することがあります。



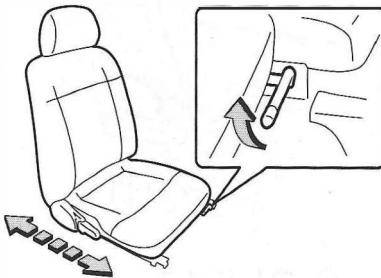
アドバイス

シートのダストカバー（シート汚れ防止用のポリエチレン製カバー）は必ず取り外してから使用してください。

フロントシート

■前後調整

レバーを完全に引き上げた状態で前後に動かして調整します。レバーを下ろし、ロックを確認します。



⚠ 注意

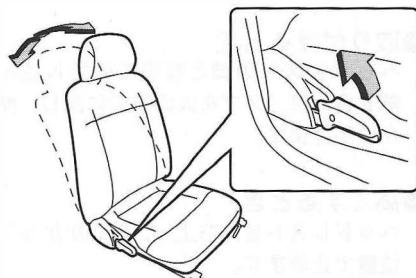
- スライドレバーを操作する際にはフロア面とのすき間で手を挟まないように注意してください。
- トラックおよびパネルバンでは背当ての後ろに物を置かないでください。
- 後方にスライドする際には、後席乗員の足が挟まれないように注意してください。
- VC-PLUS、ワゴンには最前方にスライドさせるとロックしない位置があります。ロックしない位置はソフトフラット時に使用します。ロックしない位置は走行中は使用しないでください。

↑ アドバイス

トラック、パネルバンの運転席は背当ての角度によっては背当てが車体に当たり、後方にスライドしない場合があります。その際は、一度背当てを起こしてください。

■リクライニング調整

レバーを完全に引き上げた状態で背当ての角度を調整します。レバーを下ろし、ロックを確認します。



⚠ 注意

- 調整するとき、リクライニングヒンジカバー内へ手を入れないようにしてください。

■ヘッドレストの脱着と調整

●取り外すとき

ノブを矢印方向に回し、ヘッドレストを引き上げます。

●取り付けるとき

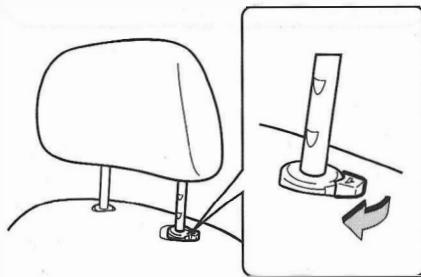
ヘッドレストの脚と背当ての差し込み部を合わせ、ノブを矢印方向に回し、静かに下げます。

●高くするとき

ヘッドレストを持ち上げ、爪のかかった位置で止めます。

●下げるとき

ノブを矢印方向に回し、ヘッドレストを押し下げ、ノブを戻し、爪のかかった位置で止めます。



■センターームレスト

前に倒して使用します。



アドバイス

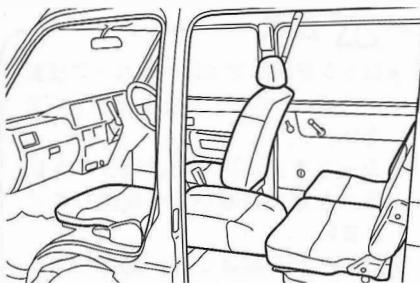
アームレストを使用するとき

上に乗ったり、重い物を置かないでください。アームレストが損傷することがあります。

■ソフトフラットにするとき

シートをリクライニングするとリヤシートとつながってソフトフラットになります。

- ①安全な場所に駐車し、しっかりとパーキングブレーキを引きます。
- ②ヘッドレストを取り外します。
- ③シートがロックしない最前方位置までスライドさせます。
- ④背当てをいっぱいまで倒してリヤシートとつなげます。



⚠ 注意

- フロントシートの背当てを戻すときは、背当てを押さえながらリクライニングレバーを操作してください。背当てを押さえずにレバーを操作すると背当てが急に戻り、けがをするおそれがあります。
- ソフトフラットにした状態でシートの上を走り回らないでください。また、シートの上を移動するときは、シートの中央を踏んで、ゆっくりと移動してください。シートを踏み外したり、シートの間に足を挟むなどして、けがをするおそれがあります。
- 助手席および後席に人が乗っているときは、ソフトフラットにしないでください。シートが当たるなどしてけがをするおそれがあります。

⚠ 警告

走行中はソフトフラットにして使用しないでください。万一のときシートベルトの効果が得られず重大な傷害につながるおそれがあります。

■ ウィンドウウォッシャー液などを点検するとき

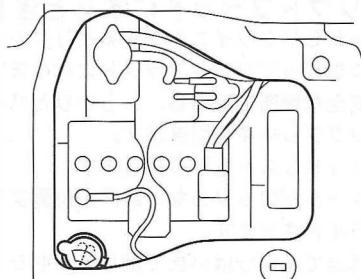
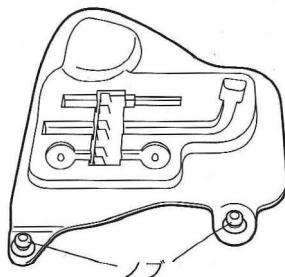
助手席シート床下のバッテリー、ラジエーター、ウィンドウウォッシャー液などを点検するとき助手席のクッションを起こして行います。

● VC-PLUS、ワゴン

- ①助手席シートを後方にスライドさせます。
- ②リクライニングレバーを引き上げ、背当てを前に倒します。
- ③クッション下側のロックを両側とも解除します。
- ④シート全体を後ろに倒します。



- ⑤ノブを引き上げカバーを手前に引き、取り外します。



△ 注意

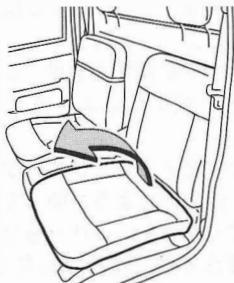
- ロックを解除する際、レバーの反動に注意し、ゆっくりと操作してください。
- シートを元に戻すときはシートに手など挟まれないよう注意してください。
- ロックする際はレバー部をつかまらず、押し込むようにゆっくりと操作してください。レバーをつかんだまま操作すると指を挟むなどして、けがをするおそれがあります。

▲ アドバイス

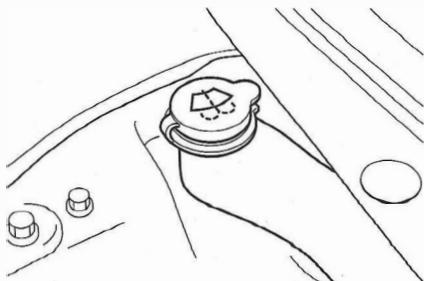
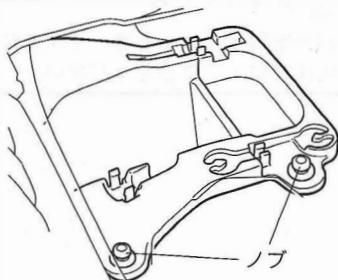
カバーを取り付けるとき、マットを挟み込まないようにしてください。

● トラック、パネルパン

①クッション後方に手をかけて起こします。



②ノブを引き上げカバーを手前に引き、取り外します。



注意

シートを元に戻すときは、シートに指などを挟まないよう注意してください。

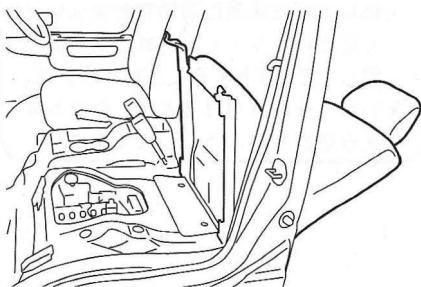
アドバイス

- 跳ね上げた床面に荷物をのせないでください。シートが倒れて荷物を損傷したり、落下することがあります。
- カバーを取り付けるとき、マットを挟み込まないようにしてください。

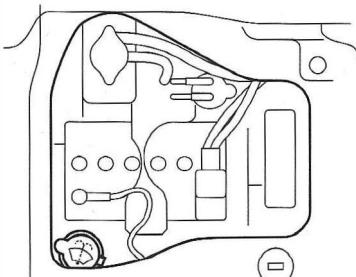
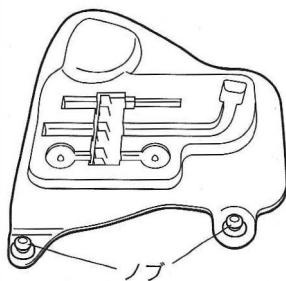
●バン2シーター

(助手席ドアを開けて作業してください)

- ①リクライニングレバーを引き上げ、背当てを前に倒します。
- ②クッション下側のロックを両側（左右）とも解除します。
- ③シート全体を後ろに倒します。



- ④ノブを引き上げカバーを手前に引き、カバーを取り外します。



注意

- ロックを解除するときは、レバーの反動に注意し、ゆっくりと操作してください。
- シートを元に戻すときは、シートに指などを挟まないよう注意してください。
- ロックするときは、レバー部をつかまず、押し込むようにゆっくりと操作してください。レバーをつかんだまま操作すると指を挟むなどして、けがをするおそれがあります。

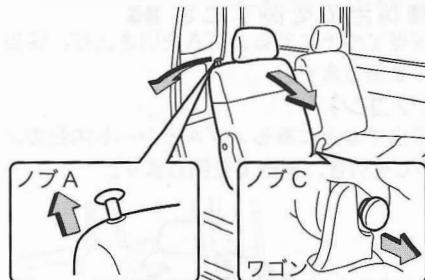
アドバイス

カバーを取り付けるとき、マットを挟み込まないようにしてください。

リヤシート

⚠ 警告

- リヤシートを折りたたんで荷室として使用する場合は、お子さまも含めて走行中、人を乗せないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに重大な傷害を受けることがあります。
- 荷物や長い物をのせたときは、荷物を固定してください。急ブレーキをかけたときなどに荷物が飛び出し重大な傷害を受けることがあります。
- 背当てを元に戻したときは、背当てを軽く前後にゆすり確実に固定されていることを確認してください。固定されていないと急ブレーキ時などに背当てが倒れたり、荷室内の物が飛び出すなど思わぬ事故につながり重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



⚠ 注意

- リクライニング操作は走行中には行わないでください。
- 背当てを倒してフラットにした状態では走行しないでください。
- リクライニング操作後は、背当てを前後にゆすり、シートが「確実に固定されていること」を確認してください。

笔 アドバイス

- 前席のような背当てを戻すスプリングはついていません。
- ノブCを引かない状態で無理に10段目以上に調整しないでください。

■リクライニング調整

背当ての上にあるノブAを引き上げ、背当ての角度を調整します。左右は別々に調整できます。

(ワゴン)

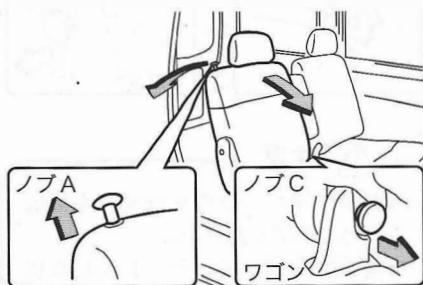
1段目から9段目までは背当ての上にあるノブAを引き上げ、背当て角度を調整します。10段目からは背当ての上のノブAとシート内側のノブCを引き角度を調整します。左右は別々に調整できます。

■背当てを倒すとき

背当ての上にあるノブAを引き上げ、背当てを倒します。

(ワゴン)

背当ての上にあるノブAとシート内側のノブCを引き、背当てを倒します。



アドバイス

ワゴン以外は背当ては中間で止まりません。固定するまで倒してください。

■背当てを起こすとき

背当てに手をそえたまま、ノブAを引き上げて操作します。

■ピローの脱着、調整

フロントシートと同様に行います。

☆2-20ページ参照

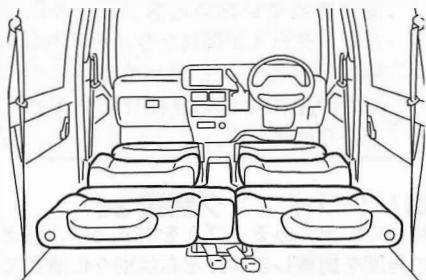
■ソフトフラットにするとき

①フロントシートのヘッドレストを外します。

②フロントシートをロックしない一番前までスライドさせます。

③フロントシートの背当てを倒します。

④リヤシートの背当てを倒します。



■アームレスト 36

前に倒して使用します。



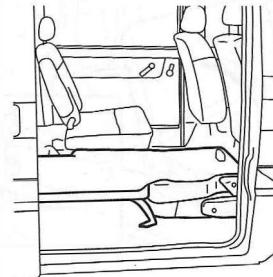
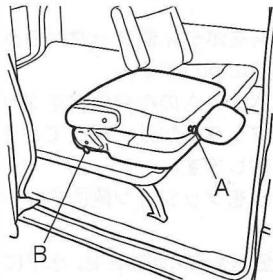
注意

アームレストを使うとき、上に乗ったり、重い物をのせたりしないでください。アームレストが損傷するおそれがあります。

☆2-36 ページ

■フラットフロアにするとき (VC-PLUS、ワゴン)

- ①フロントシートを前方にスライドさせます。
- ②アームレストを元に戻します。
- ③ピローを最下段にします。
- ④前倒しノブAを引きながら背当てを前に倒します。
- ⑤シート固定解除ノブBを引き、シート後方を持ち全体を前に回転させて水平にします。



注意

シート固定解除ノブBを持ってシートを回転させないでください。ノブが損傷するおそれがあります。



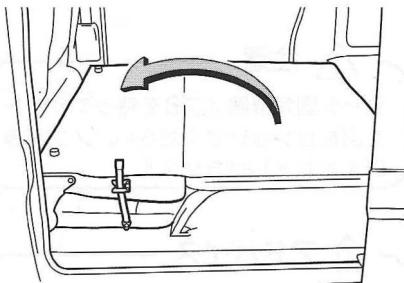
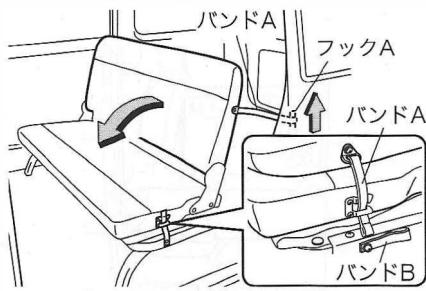
アドバイス

- 前に回転させるとき、フロントシートの背当てと干渉しないよう注意してください。
- リヤシートベルトのバックルはデッキに設けた格納ボックスに入れてください。

☆2-36 ページ

(バン)

- ① バンドAをボディ側フックから外し、背当てを前に倒します。
- ② 外したバンドAの中央の輪をクッション側面のフックにかけ、背当てとクッションを固定します。
- ③ バンドBをクッション側面のフックから外します。
- ④ シート全体を前に回転させ、水平にします。



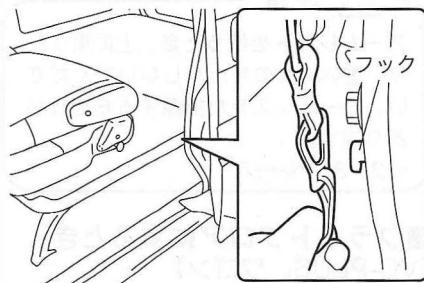
アドバイス

- ・ バンドAが外しづらいときは、背当て上部を後ろに押しながら外します。
- ・ 前に回転させるとき、フロントシートの背当てに干渉しないように注意してください。

■低床フロアにするとき

(VC-PLUS、ワゴン)

- ① ピローを外します。
- ② 背当ての上にあるノブを引きながら背当てを前に倒します。
- ③ シートベルトのバックルをデッキの下に置きます。
- ④ デッキを固定しているバンドをフックから外し、デッキ全体を前に立てます。
- ※ワゴンは左右の固定バンドを外してください。
- ⑤ バンドをボディ側フックに確実にかけ、固定します。





⚠ 注意

危険防止のためデッキが後ろに倒れないことを確認してください。

●元に戻すとき

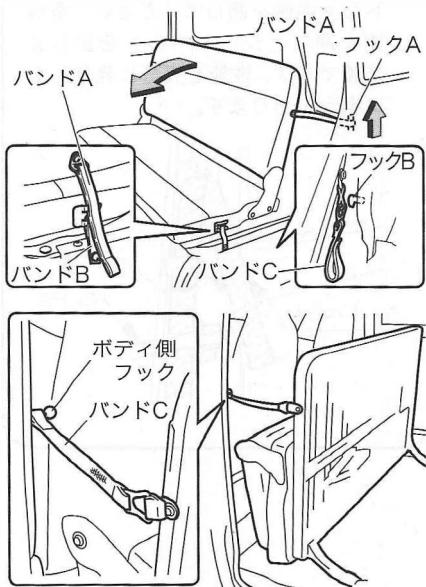
逆の手順で元に戻します。

⚠ 注意

- シート固定解除ノブを持ってシートを元に戻さないでください。指などを挟むなどがをするおそれがあります。
- シートが確実に固定（ロック）していることを確認してください。

(パン)

- バンドAをボディ側フックから外し、背当てを前に倒します。
- 外したバンドAの中央の輪をクッション側面のフックにかけ、背当てとクッションを固定します。
〔バンドBはクッションのフックに固定したまま次の操作をします。〕
- デッキを固定しているバンドCをボディ側フックから外し、デッキ全体を起こします。
- バンドCをボディ側フックにかけ、固定します。



↑ アドバイス

- バンドAが外しづらいときは、背当て上部を後ろに押しながら外します。
- バンドCがボディ側フックにかけづらいときはデッキを前へ押しながらフックに挿入してください。

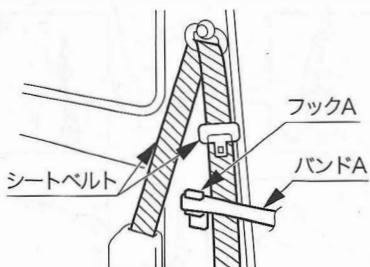
●元に戻すとき

たたむときの逆の手順で元に戻します。



注意

- ・デッキ、背当て、クッションが固定されていることを確認後、走行してください。
デッキが固定されていないと、デッキが倒れることができます。
- ・各バンドは必ず所定のフックにかけてください。
- ・バンの背当て固定用バンドAをフックAにかけるとき、必ずシートベルトの室内側を通してください。室外側を通すとシートベルトを正しく装着できず、性能を充分に発揮しない場合があります。

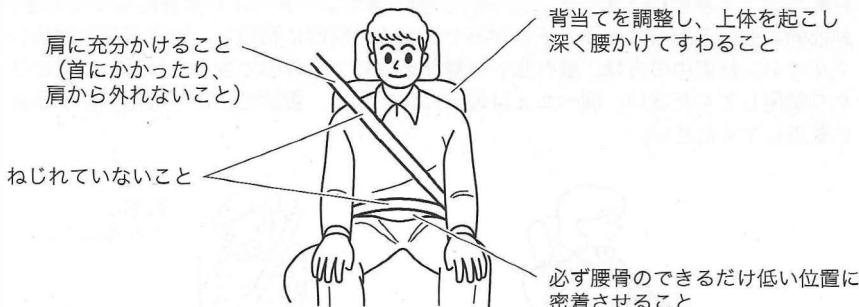


シートベルト

シートベルトの正しい着用

シートベルトは正しく装着しないと効果が半減したり、危険な場合もあります。

次の使用方法にしたがって走行前に運転者は必ず着用し、同乗者にも必ず着用させてください。



警告

シートベルトの装着は、次の事項を必ず守ってください。お守りいただかないと重大な傷害につながるおそれがあります。

- ・走行する前に全員が必ずシートベルトを着用してください。
- ・シートベルトは一人用です。二人以上で一本のベルトを使用しないでください。
- ・シートベルトはねじれたり、裏返しにならないように使用してください。ねじれたり裏返しになっているとベルトの幅が狭くなったり、局部的に強い力を受けて万一のとき危険です。
- ・シートベルトは腰骨のできるだけ低い位置に密着させて装着してください。柔らかい腹部にかけた場合は万一のとき強い圧迫を受け、重大な傷害につながるおそれがあります。
- ・肩ベルトは脇の下を通さずに確実に肩にかけてください。肩に充分にかかっていないと上半身が拘束されず充分な機能を発揮しません。
- ・シートベルトは上体を起こし、シートに深く腰掛けた状態で着用してください。正しい姿勢については「正しい運転姿勢」(2-17 ページ)をご覧ください。
- ・シートの背当てを必要以上に倒して走行しないでください。衝突したときなどに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受け、重大な傷害につながるおそれがあります。
- ・ハンドルやインストルメントパネルに必要以上に近づいて運転しないでください。
- ・シートベルトを洗濯バサミやクリップなどでたるみをつけないでください。充分な効果を発揮しません。



警告

- 妊娠中の方や疾患のある方も、万一のときに備えシートベルトを着用してください。局部的に強い圧迫を受けるおそれがありますので医師に相談し、注意事項を確認してください。妊娠中の方は、腰ベルトは腹部を避けて腰骨のできるだけ低い位置にぴったり着用してください。肩ベルトは確実に肩を通し、腹部を避けて胸部にかかるように着用してください。



腰骨のできるだけ低い位置



胸部にかかるように

- シートベルトのバックルに異物が入らないようにしてください。異物が入るとブレーキがバックルに完全にはまらなく、外れる場合があります。
- お子さまもシートベルトを必ず着用させてください。ひざの上でお子さまを抱いていても、急ブレーキや衝突したときなどに充分支えることができず、お子さまが重大な傷害につながるおそれがあります。
- 6歳未満のお子さまはチャイルドシートをご使用ください。

6歳以上のお子さまでもシートベルトを着用したときベルトが首、あご、顔などに当たるお子さまはスバル純正チャイルドシートを使用してください。万一のとき、ベルトによる負傷を防ぎます。

なお、スバル純正チャイルドシートの使用方法は添付されている専用の取扱説明書をご覧ください。

<選択の目安>

	ベビーシート	チャイルドシート	ジュニアシート
体重 (目安)	9 kg以下	7~18 kg	18~36 kg
身長 (目安)	70 cm未満	100 cm未満	145 cm未満
年齢 (目安)	0か月~ 9か月頃まで	4か月~ 4歳頃まで	4歳~ 12歳頃まで

**警告**

- お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。とくにチャイルドシート固定機構付シートベルトの場合は、シートベルトを体に巻きつけたりして遊んでいるときに、誤ってチャイルドシート固定機構が作動すると、ベルトが引き出せなくなり、窒息などの重大な傷害につながるおそれがあります。万一、誤ってチャイルドシート固定機構を作動させてしまい、シートベルトを外せなくなった場合は、はさみなどでベルトを切断してください。
- シートベルトにほつれや切り傷ができたり、金具部などが正常に動かなくなったときは、シートベルトを交換してください。また、装着した状態で万一事故にあった場合は、外観に異常がなくても必ずスバル販売店で交換してください。そのまま使用すると正常に働くはず、充分な効果を発揮しません。
- シートベルトの改造や取り外しなどはしないでください。衝突などのとき充分な効果を発揮せず重大な傷害を受けるおそれがあります。
- シートベルトが汚れた場合は、中性洗剤を溶かしたぬるま湯を使用してください。ベンジンやガソリンなどの有機溶剤や漂白剤はシートベルトを弱めるため絶対に使用しないでください。

**注意**

炎天下に長時間駐車し、室内が高温になっている場合は、金属部分を持たずに、樹脂部分を持ってシートベルトを着用してください。シートベルトの金属部が熱くなっている場合があり、やけどにつながるおそれがあります。

フロントシートベルト

身体の動きに合わせて自由に巻き取り、引き出しができます。強い衝撃を受けたときやベルトを急激に引き出そうとするとベルトが自動的にロックします。(ELR機構)

■ 3点式シートベルトの着用のしかた

● 着用のしかた

- ① タングプレートをつかみ、ゆっくり引き出します。



- ② ベルトがねじれないようにし、タングプレートをバックルの中へ、“カチッ”と音がするまで差し込みます。



- ③ 正しい姿勢で腰掛け、腰のベルトを腰骨のできるだけ低い位置に密着させます。



● 外すとき

外すときはバックルの“PRESS”ボタンを押します。

ベルトが自動的に収納されるので、ひつかかったり、ねじれたりしていないか確認します。

アドバイス

ベルトが引き出せないときはベルトをゆるめてもう一度ゆっくり引き出してください。

それでも引き出せないときは、一度ベルトを強く引いてからベルトをゆるめ、再度ゆっくりと引き出します。

■ シートベルト警告灯

エンジンスイッチがONのときに、シートベルトを装着していないとメーター内の警告灯が点灯します。運転席シートベルトのタングプレートをバックルに差し込むと消灯します。



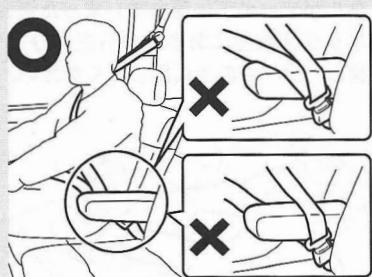
■アームレスト使用時の3点式シートベルト着用のしかた

⚠ 警告

- アームレストを使用するときは、シートベルトの効果を発揮させるため、次の手順を必ず守り、正しく装着してください。

 - ①シートベルトを装着する。
 - ②アームレストを下ろす。

アームレストの上にシートベルトがかかると衝突時に腹部に当たり重大な傷害につながるおそれがあります。



⚠ 注意

プリテンショナー付シートベルトの効果を発揮させるため次の事項を必ず守ってください。

- シートを正しい位置に調整する。
☆2-17 ページ
- シートベルトを正しく着用する。
- 次のような作業するときは、必ずスバル販売店にご相談ください。
 - シートベルトを取り外すとき
 - シートベルトを破棄するとき
 - 廃車するとき

■プリテンショナー付シートベルト



プリテンショナー付シートベルトは、前方から強い衝撃を受けると作動し、シートベルトを瞬間に引き込んで運転席乗員をシートにしっかりと固定してシートベルトの効果をいっそう高めます。

プリテンショナー付シートベルトは運転席（ワゴン）または、運転席と助手席（バン&セーター）に装着されており、シートベルトを着用していないくとも作動します。

💡 アドバイス

- プリテンショナー付シートベルトは一度作動すると、ベルトの引き出し、巻き取りができなくなります。プリテンショナー付シートベルトが作動したときは、スバル販売店で交換してください。
- プリテンショナー付シートベルトはSRSエアバッグシステムと同時に作動します。

リヤシートベルト

フロントシートベルトと同じ3点式シートベルトが装備されています。バンはシートベルトの引き回しに注意してください。
☆2-30ページ参照

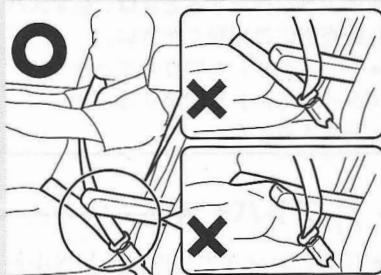
■アームレスト使用時の3点式シートベルト着用のしかた

⚠ 警告

アームレストを使用するとき

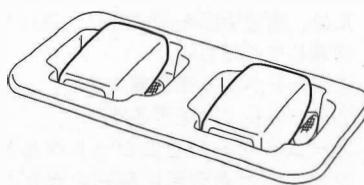
シートベルトの効果を発揮させるため、次の手順を必ず守り、正しく装着してください。

- ①シートベルトを装着する。
 - ②アームレストを前に倒す。
- アームレストの上にシートベルトがかかると、衝突時に腹部に当たり重大な傷害につながるおそれがあります。

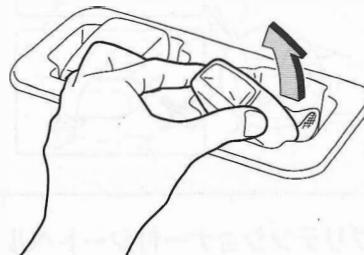


■バックルの格納

後席をデッキとして使用する場合
リヤシートベルトのバックルはデッキに設けた格納ボックスに格納してください。



バックルがデッキ下に落ちてしまった場合、
格納ボックス底面にある穴から左右ひとつずつ通し、デッキの上に戻してください。



⚠ 注意

- ・右席用は右側、左席用は左側の穴を通してください。
- ・デッキの下に物を入れているときはシートベルトを傷つけないよう注意してください。

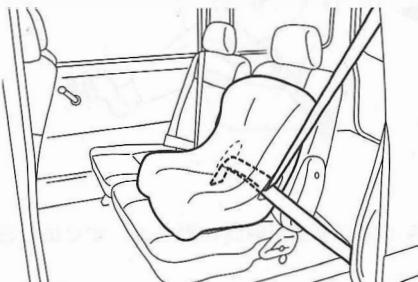
■チャイルドシート固定機構付 シートベルト

シートベルト

後席にチャイルドシート（別売）を簡単に、また、しっかりと固定できるシートベルトを装備しています。

ベルトを全部引き出してから巻き取らせた長さの間では、引き出そうとしてもロックされ、引き出せなくなります。

この機能を利用すると、チャイルドシート（別売）を取り付けるときに、ロッキングクリップを使用しないで簡単に固定できます。



●固定のしかた

①チャイルドシートを取り付けます。

〔チャイルドシートの取り付けかたはそれぞれの商品に添付されている取扱説明書にしたがってください。〕

②タングプレートを持ってベルトをゆっくり引き出し、タングプレートをバックルに差し込みます。

③肩ベルトをゆっくりと全部引き出します。

〔自動的にチャイルドシート固定機構が作動します。〕

④ベルトのたるみがなくなるまで肩ベルトを巻き取らせ、チャイルドシートをしっかりと固定し、ロックさせます。

⑤チャイルドシートをゆさぶり固定されていることを確認します。

■解除のしかた

①バックルのボタンを押してベルトを外します。

②ベルトを全部巻き取らせるとチャイルドシート固定機構が解除されます。



警告

- ・チャイルドシートは確実に固定してください。確実に固定されていないと、衝突時や急ブレーキ時にお子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。
- ・チャイルドシート固定機構のない車にチャイルドシートを取り付けるときは、ベルトがたるまないよう、ロッキングクリップを使用してください。

〔詳しくは、チャイルドシートに添付されている取扱説明書をご覧ください。〕

アドバイス

- ・シートベルトを全て引き出し、巻き取らせていくときに作動音がします。
- ・ベルトを全部引き出してから巻き取らせた長さの間では、ベルトの巻き取りのみ可能です。とくにお子さまのいたずらなどに注意してください。

SRSエアバッグシステム

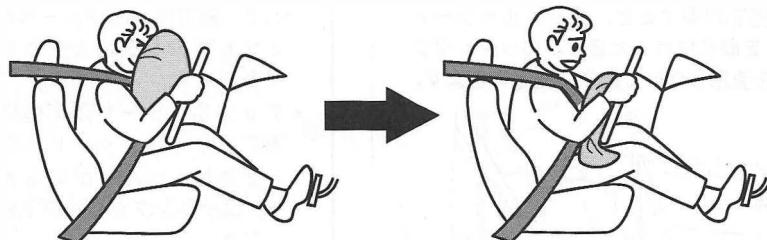
SRSエアバッグシステム

SRSエアバッグシステムのSRSとはSupplemental Restraint Systemの略で、乗員補助拘束装置の意味です。

運転席と助手席のSRSエアバッグはエンジンスイッチがONのとき車両が前方向から強い衝撃を受けた場合のみ作動します。この装置は運転席および助手席同乗者の頭部への衝撃を和らげるシートベルトの補助装置です。

運転席SRSエアバッグ

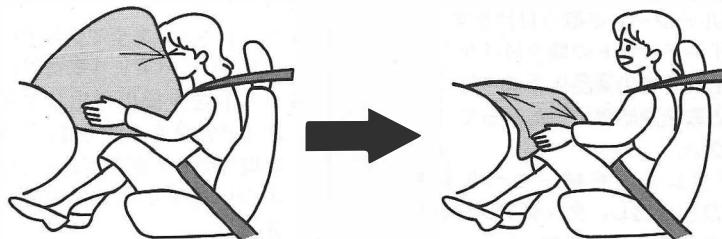
ハンドル部に格納されたSRSエアバッグが瞬時に膨らみ、すぐにしばみます。



助手席SRSエアバッグ

助手席インストルメントパネル部に格納されたSRSエアバッグが瞬時に膨らみ、すぐにしばみます。

助手席に同乗者がいなくても運転席SRSエアバッグと同時に作動します。



シートベルトは必ず正しく着用してください



警告

- SRS エアバッグシステムはシートベルトを補助する装置でシートベルトに代わるものではありません。SRS エアバッグシステムだけでは身体の飛びだしなどを防止できないばかりか、エアバッグ本体からの衝撃を受けてしまいます。

SRS エアバッグシステムはシートベルトを装着しているときだけ、効果を充分発揮します。シートベルトを着用しないと命にかかるような重大な傷害につながるおそれがあります。

☆2-31ページ参照

- 正しい乗車姿勢になるようシート位置を調整してください。不適切な乗車姿勢では SRS エアバッグシステムの効果を発揮させることができず命にかかるような重大な傷害につながるおそれがあります。

☆2-17ページ参照

乗員とSRSエアバッグの間に物を置かないでください



警告

ひざの上に物をかかえるなど乗員とSRSエアバッグの間に物を置いた状態で走行しないでください。SRSエアバッグが膨らんだときに物が飛ばされたり、SRSエアバッグの正常な作動を妨げたりして、命にかかるような重大な傷害につながるおそれがあります。

運転席SRSエアバッグに関しては、次の事項をお守りください



警告

- ハンドルを交換したり、センターパッド部にステッカーなどを貼らないでください。SRSエアバッグシステムが正常に作動しなくなります。
- ハンドルの SRS エアバッグ格納部に手を置いたり、パッド部を強打したり、衝撃を加えたりしないでください。また、顔や胸などを近づけないでください。
SRS エアバッグが作動したとき衝撃を受け、命にかかるような重大な傷害につながるおそれがあります。



ステッカー

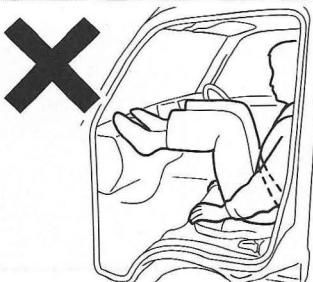
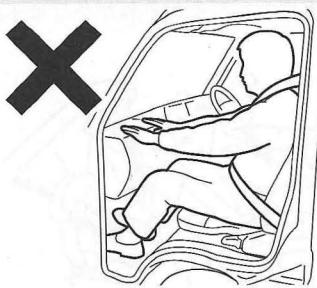


助手席SRSエアバッグに関しては、次の事項をお守りください

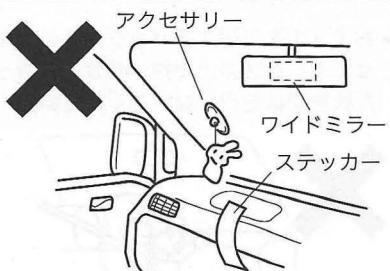


警告

- インストルメントパネルのSRSエアバッグ格納部に手や足を置いたり、顔や胸を近づけたり、もたれかからないでください。SRSエアバッグが作動したとき強い衝撃を受け、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。



- インストルメントパネルのSRSエアバッグ格納部にステッカーやアクセサリーなどを貼つたり、芳香剤などを置かないでください。また、フロントガラスにアクセサリーなどを取り付けたり、ルームミラーにワイドミラーを取り付けたりしないでください。SRSエアバッグが正常に作動しなくなったり、作動時にこれらの物が飛び、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。



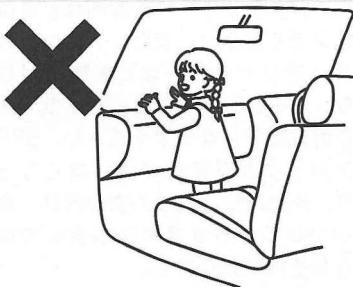
- スバル純正のテレビやナビゲーションシステム以外は取り付けないでください。助手席SRSエアバッグが作動しなくなったり、作動時にこれらが飛び、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。なお、スバル純正品でも助手席SRSエアバッグ付車には取り付けられないものもありますので、必ずスバル販売店にご相談ください。

お子さまを乗せるときには、次の事項をお守りください

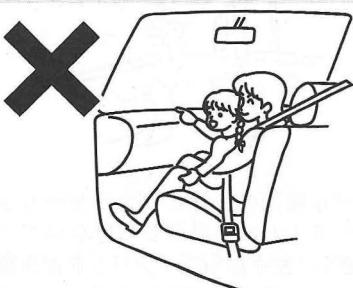


警告

- ・後席のある車ではお子さまを後席に乗せてください。



- ・お子さまをSRSエアバッグの前に立たせたり、ひざの上で抱いたり、背負った状態では走行しないでください。



- ・後席のある車ではチャイルドシートは後席に取り付けてください。
- ・助手席用 SRS エアバッグ付車は助手席にチャイルドシートは絶対に取り付けないでください。
SRSエアバッグが作動したとき、強い衝撃を受け、命にかかるような重大な傷害につながるおそれがあります。



SRSエアバッグが作動すると



警告

- SRSエアバッグが展開すると、ガス排出穴からガスが抜けて直ちにしぼみ始めます。排出穴からガスに直接触れた場合に、やけどをすることがあります。
- SRSエアバッグが膨らんだ直後は、SRSエアバッグの構成部品に触れないでください。構成部品が大変熱くなっていますので、触るとやけどをするおそれがあります。



アドバイス

- SRSエアバッグは膨らんだ後、直ちにしぼんで視界を妨げません。
- SRSエアバッグは一度だけ膨らみ、一度作動すると、2回目以降の衝突では再作動しません。
- SRSエアバッグは効果を発揮するために非常に速く膨らみます。このため、展開中のエアバッグと接触して打撲やすり傷を受けることがあります。
- SRSエアバッグが作動すると、作動音とともに白い煙のようなガスが発生しますが、火災ではありません。また、人体への影響はありません。
- SRSエアバッグは一度膨らむと再使用はできません。スバル販売店で交換してください。

車両の整備やカー用品を装着するときは、次の事項をお守りください



警告

- ・サスペンションを改造したり、指定サイズ以外のタイヤへの交換はしないでください。車高が変わったり、サスペンションの硬さが変わるとSRSエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤作動になり思わぬ傷害につながるおそれがあります。
- ・車両前部にスバル純正品以外の部品などは装着しないでください。車両前部を改造するとSRSエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤作動を起こして重大な傷害につながるおそれがあります。
- ・ハンドル周りやインストルメントパネル、センターコンソール付近の修理、オーディオシステム、ナビゲーションシステムを交換する場合は、必ずスバル販売店にご相談ください。SRSエアバッグシステムに悪影響をおよぼし、重大な傷害につながるおそれがあります。
- ・車体前部（車体側面）の板金塗装および修理をする場合は、必ずスバル販売店にご相談ください。SRSエアバッグに影響をおよぼし、重大な傷害につながるおそれがあります。
- ・無線機などを取り付けるときはスバル販売店にご相談ください。無線機の電波などはSRSエアバッグを作動させるコンピューターに悪影響を与えるおそれがあります。
- ・車やSRSエアバッグを破棄するときは必ずスバル販売店にご相談ください。SRSエアバッグが思いがけなく作動して重大な傷害につながるおそれがあります。

運転席、助手席SRSエアバッグが作動するとき、しないとき

運転席、助手席SRSエアバッグは正面衝突時において、乗員が重大な傷害を受けるおそれのある大きな衝撃を受けたとき作動し、シートベルトの働きと併せて前席乗員の頭部や胸部などへの衝撃を和らげる装置です。

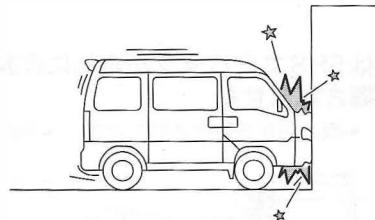
車体の衝撃吸収構造により、衝突時のエネルギーは車体がつぶれることで、吸収または分散され、車体の損傷が大きくても乗員への衝撃は大きくならない場合もあります。

したがって、車体の損傷が大きくてもSRSエアバッグが必ずしも作動するとは限りません。

<作動するとき>

■次のようなときに作動します

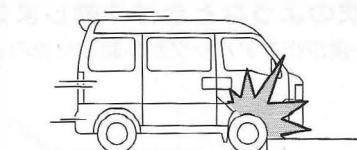
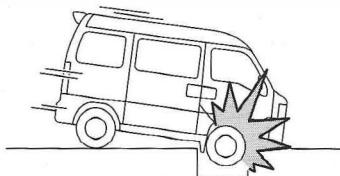
- 20~30 km/hの速度で厚いコンクリートのような壁に正面衝突したとき、また、これと同等の衝撃を受けたとき



●走行中路面などから車両下部に強い衝撃を受けたときも作動することがあります

〔深い穴や溝に落ちたり、ジャンプして地面にボディ下部を強くぶつけたとき〕

〔縁石に衝突したときや、道路上の突起物にボディ下面を強くぶつけたとき〕

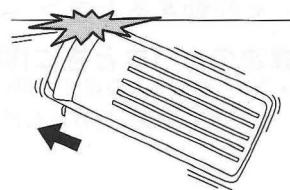
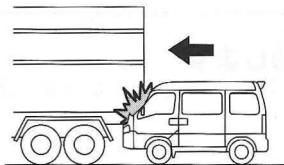
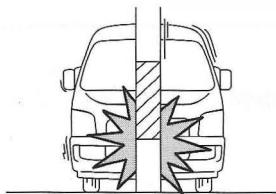


<作動しにくいとき>

■次のように、部分的に衝撃を受けたときや車両前方から衝撃が加わらなかつたとき

- ・電柱などに衝突したとき

- ・トラックの荷台にもぐり
込んだとき
- ・斜め前方への衝突のとき

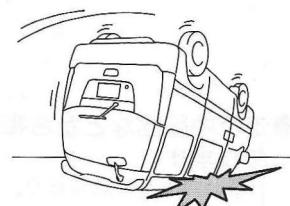
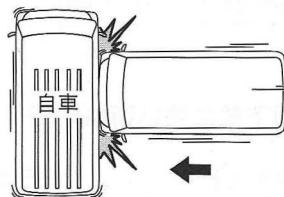
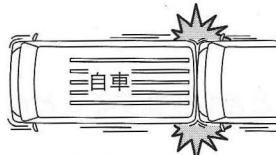


●また、次のような場合はSRSエアバッグがまれに作動することもありますが、本来の効果は発揮されません

- ・後ろから衝突されたとき

- ・横方向から衝突されたとき

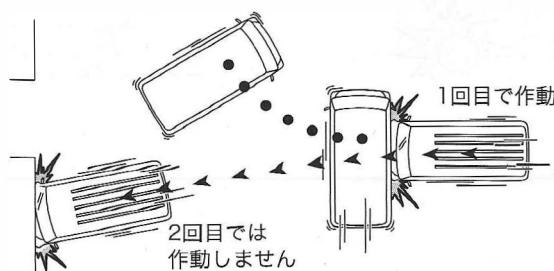
- ・横転や転覆したとき



<作動しないとき>

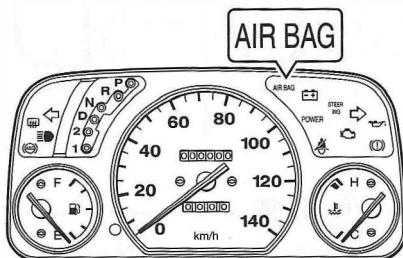
■次のようなときは作動しません

- ・一度SRSエアバッグが作動した後の衝突



エアバッグ警告灯

警告灯はメーター内に組み込まれており、運転席、助手席の各SRSエアバッグおよびシートベルトプリテンショナーと兼用になっています。エンジンスイッチをONにすると点灯し、約6秒後に消灯すれば正常です。



⚠ 警告

エンジン回転中に点灯したとき、またはエンジンスイッチをONにして約6秒間の点灯がないときは異常が考えられますので走行しないでください。衝突したときなどにSRSエアバッグまたはプリテンショナー付シートベルトが正常に作動せず、重大な傷害につながるおそれがあります。直ちにスバル販売店で点検を受けてください。

⚠ 注意

警告灯がシステム異常を示している場合、軽微な衝撃でSRSエアバッグが作動する場合があります。

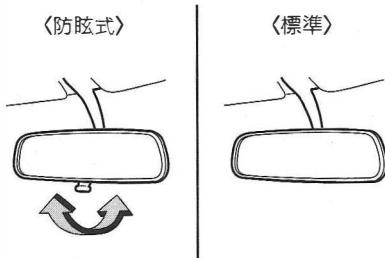
ミラーの調整

ルームミラー

運転席に正しく座り、ミラー本体を動かして後方視界が充分確認できるように調整します。

■防眩ミラー

夜間走行時、後続車のヘッドライトがまぶしいときは、レバーを引きます。

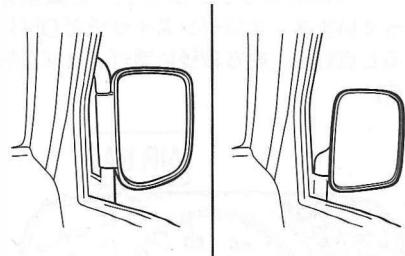


注意

調整は必ず走行前に行ってください。

アウターミラー

可倒式ドアミラーが備えられています。走行する前に戻し、視界を確認してください。



注意

- ・調整は必ず走行前に行ってください。
- ・ミラーを倒したまま走行しないでください。

リヤアンダーミラー ✪

固定式のミラーが備えられています。



MEMO

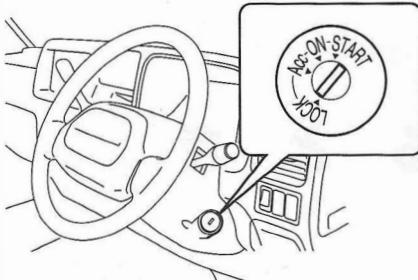
3

運転するとき

- ・スイッチの使いかた 3-2
 - ・エンジンスイッチ
 - ・ライトスイッチ
 - ・方向指示灯レバー
 - ・ワイパー&ウォッシャースイッチ
 - ・リヤウインドウデフォッガースイッチ
 - ・非常点滅灯(ハザードランプ)スイッチ
 - ・作業灯スイッチ
- ・メーター、表示灯、警告灯の見かた 3-9
 - ・メーター
 - ・表示灯
 - ・警告灯
- ・運転装置の使いかた 3-19
 - ・エンジンの始動と停止
 - ・ハンドブレーキレバー
 - ・ホーンスイッチ
- ・エンジレバーの操作 3-22
 - ・エンジレバーの操作
- ・オートマチック車の運転 3-23
 - ・セレクトレバーの操作
 - ・運転手順
 - ・ATパワーモードスイッチ
- ・4WD車の運転 3-31
 - ・運転するとき
 - ・取り扱いについて
 - ・セレクティブ4WD
 - ・フルタイム4WD
- ・ブレーキ 3-36
 - ・ABS:アンチロックブレーキシステム
 - ・ブレーキブースター(制動力倍力装置)

スイッチの使いかた

エンジンスイッチ



■各位置の働き

LOCK (ロック)	キーの抜き差しができる位置 キーを抜くとハンドルがロックされます
ACC (アクセサリー)	エンジン停止時、次のものが使用できる位置 ワイパー、ウォッシャー、オーディオ、シガーライター、アクセサリーソケット
ON (オン)	エンジン回転中の位置 全ての電装品に作動電源が供給されます
START (スタート)	エンジンを始動する位置



警告

走行中「LOCK」にしないでください。
キーが抜けるとハンドルが固定され、操作できなくなり、重大な事故につながるおそれがあります。



アドバイス

- エンジンを止めているときスイッチを「LOCK」にしてください。長時間「ON」にしたり、「ACC」にして電装品を使うとバッテリー上がりの原因になります。

- キーが「LOCK」から「ACC」に回らないときはハンドルを左右に回しながらキーを操作してください。
- キーholdderを多数付けていると、車の動きにより遠心力が働き、キーを回してしまうおそれがあります。また、大きなキーholdderを取り付けると、holdderに膝や手などが当たり、キーを回してしまうおそれがあります。ご注意ください。

■キーを抜くとき

オートマチック車は、セレクトレバーをPにしてキーを「LOCK」に回してください。

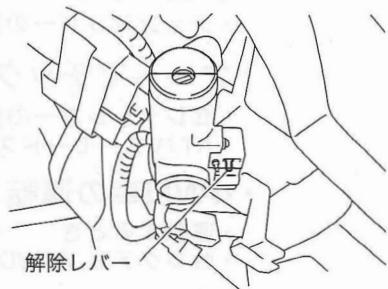


アドバイス

オートマチック車でキーが抜けないとき

万一、システムの故障などでキーが抜けなくなったときは、ステアリングロアカバーを外し、中にある解除レバーを助手席側に引いてキーを抜いてください。

☆1-12ページ参照



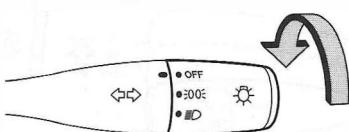
■キー抜き忘れ警報

キーの抜き忘れを防止するための装置です。キーをエンジンスイッチに差し込んだまま運転席ドアを開けるとブザーが鳴ります。

ライトスイッチ

スイッチを回すと、次のようにランプが点灯します。

スイッチの位置	ヘッドランプ	車幅灯、尾灯、番号灯、メーター照明
OFF	消灯	
300 <small>点</small>	消灯	点灯
3D	点灯	



注意

ヘッドライトに触らないでください。
ヘッドライトを長時間点灯させると
ランプが熱くなり、手で触れるとやけ
どすることがあります。

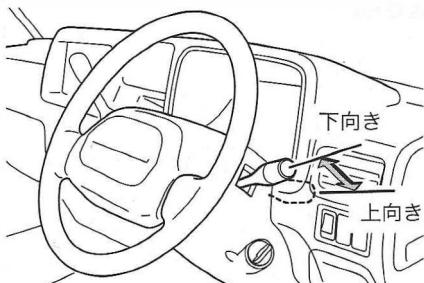


アドバイス

- エンジン停止時、ランプ類を長時間点灯したままにしないでください。
バッテリー上がりを起こします。
- 停止時、または極低速走行時、ハンドルを操作するとヘッドライトが一瞬暗くなることがあります
が異常ではありません。

■ヘッドライトの上向き、下向きの切り替え

ヘッドライトが点灯しているとき、レバーを前方に倒すと上向きになります。
元に戻すと下向きになります。



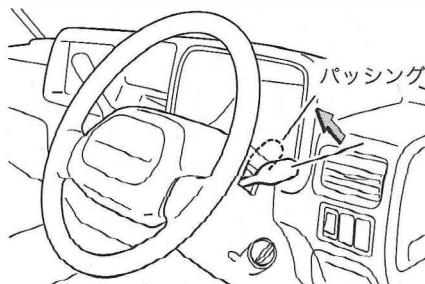
アドバイス

ヘッドライトが上向きのときはメーター内のハイビーム／パッシング表示灯が点灯します。

☆3-14ページ参照

■パッシング（合図）のしかた

ヘッドライト下向き位置よりさらにレバーを手前に引くと、レバーを引いている間ヘッドライトの上向きが点灯します。



方向指示灯レバー

■ライト消し忘れウォーニング ブザー

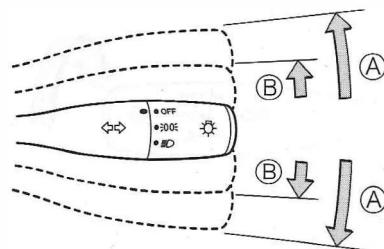
ライトを点灯させたまま運転席のドアを開けるとブザー（連続音）が鳴ります。ただし、エンジンスイッチがONのときは鳴りません。

エンジンスイッチがONのとき、レバーを「Ⓐ」の位置まで動かすと方向指示器とメーター内の表示灯が点滅します。ハンドルを戻すと自動的にレバーは戻ります。戻らないときは手で戻してください。

☆3-14ページ参照

レバーを「Ⓑ」の位置で軽く押さえていると方向指示器と表示灯が点滅します。手を放すと消灯します。

車線変更などのとき使用します。



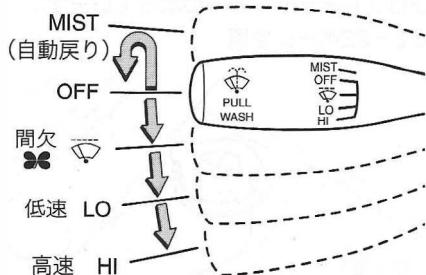
ワイパー＆ウォッシャースイッチ

エンジンスイッチがACCまたはONのとき使用できます。

■フロントワイパー

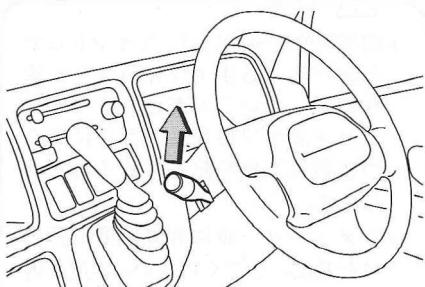
●ワイパーの作動

レバーを図のように操作すると作動します。



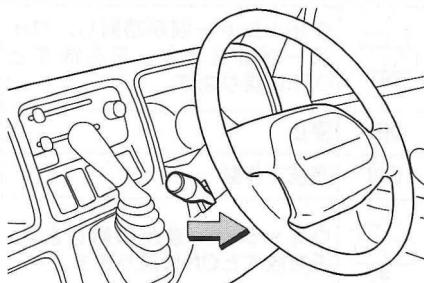
●ミストスイッチ

スイッチを上げている間、ワイパーが作動します。



●フロントウォッシャーの作動

レバーを手前に引いている間、ウォッシャー液が噴射します。



注意

寒冷地で使用する場合、次のことをお守りください。

- ・ウインドウガラスが暖まるまでウォッシャー液を噴射しないでください。ウォッシャー液が凍りつき視界不良を起こすことがあります。
- ・ウォッシャー液は外気温度に合わせた濃度にしてください。濃度が薄いと液がタンク内で凍りつくおそれがあります。

☆5-2ページ参照

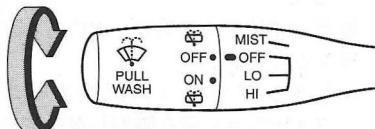
アドバイス

間欠ワイパー付車はウォッシャーを噴射するとワイパーが連動して動きます。☒

■リヤワイパー・ウォッシャー

エンジンスイッチがACCまたはONのとき、レバー先端を回して使用します。

	ウォッシャー液が噴射し、ワイパーが動きます。手を放すとOFFに戻ります。
OFF	停止
ON	連続で作動
	ウォッシャー液が噴射します。手を放すとONに戻ります。



■ウォッシャー液の補充

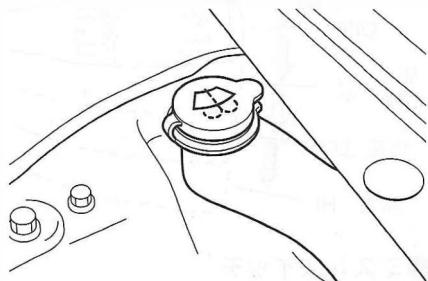
運転前に量を点検してください。

ウォッシャータンクは助手席シートの床下にあります。

補充するときは、助手席シートのクッションを跳ね上げ、カバー（パーソナルポックス）を取り外してください。

フロントとリヤの兼用になっています。

☆2-22ページ参照



注意

- 降雪時や寒冷時には、ウインドウガラスが暖まるまでウォッシャー液を使用しないでください。ウォッシャー液がフロントガラスに凍りつき視界不良を起こすおそれがあります。

- ウォッシャー液は外気温度に合わせた濃度にしてください。濃度が薄いとタンク内で凍りつくことがあります。

☆5-2ページ参照

- ワイパーブレードがガラスに凍りついている場合に、ワイパーを作動し続けるとワイパーモーターが故障するおそれがあります。ワイパーがガラスに凍りついたときには、デフロスターまたはリヤデフオッガーでガラスを暖めてください。

リヤウインドウデフォッガースイッチ

アドバイス

- ガラスが乾いているときにはワイパーを使わないでください。ガラスに傷をつけることがあります。また、ワイパープレードに傷がつき、拭き残しの原因になります。
- ウォッシャー液が出ないとき、ウォッシャースイッチを押しつづけるとポンプが故障するおそれがあります。ウォッシャー液量やノズルの詰まりを点検してください。
- 拭き残りができるときはプレードのラバーを交換してください。

☆7-5ページ参照

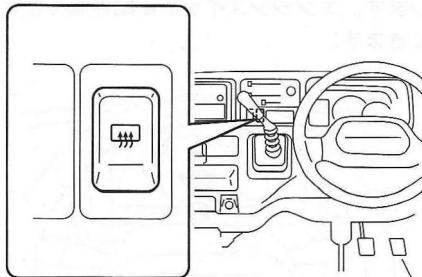
- とくに寒冷地で屋外に駐車するときにはワイパーを立てておいてください。ワイパープレードがガラスに張り付くことがあります。
- ワイパーがフロントガラスに凍りついたときには、デフロスターでガラスを暖めてください。

☆4-5ページ参照

- 積雪などにより、ワイパーが途中で止まったときは、車を安全な場所に止めてワイパースイッチをOFFにして、エンジンスイッチをLOCKの位置にして、ワイパーが作動できるように積雪などの障害物を取り除いてください。

リヤウインドウガラスを熱線で暖めて曇りを取ります。

エンジンスイッチがONのとき使用できます。作動中はメーター内に表示灯が点灯します。



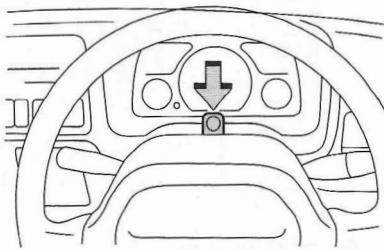
アドバイス

- 消費電力が大きいので長時間使うことや雪を溶かすような使いかたは避けてください。
- ガラスの内側の清掃は熱線を切らないよう、水を含ませた柔らかい布で熱線に沿って軽く拭いてください。ガラスクリーナー、洗剤は使用しないでください。

非常点滅灯（ハザードランプ）スイッチ

故障や非常時などのやむを得ず路上駐車するときに、他の車へ自分の車の存在を知らせるために使用します。

スイッチを押すと全ての方向指示器が点滅します。エンジンスイッチに関係なく使用できます。

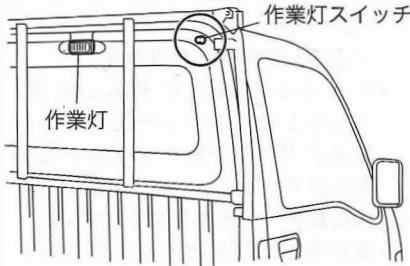


アドバイス

長時間点灯したままにすると、バッテリー上がりの原因になります。

作業灯スイッチ

トラックで夜間、荷物の積み降ろしをするときに使用します。エンジンスイッチがACCかONのとき、ハンドブレーキを引いてからスイッチを引くと点灯します。



注意

- 走行するときはスイッチを切ってください。ONのままですると、交差点などでハンドブレーキレバーを引いたとき作業灯が点灯し、後続車に迷惑をかけることになります。
- 作業灯のON、OFFは必ず作業灯のスイッチで行ってください。ハンドブレーキレバーで繰り返しON-OFFすると、ハンドブレーキスイッチの故障の原因になります。

アドバイス

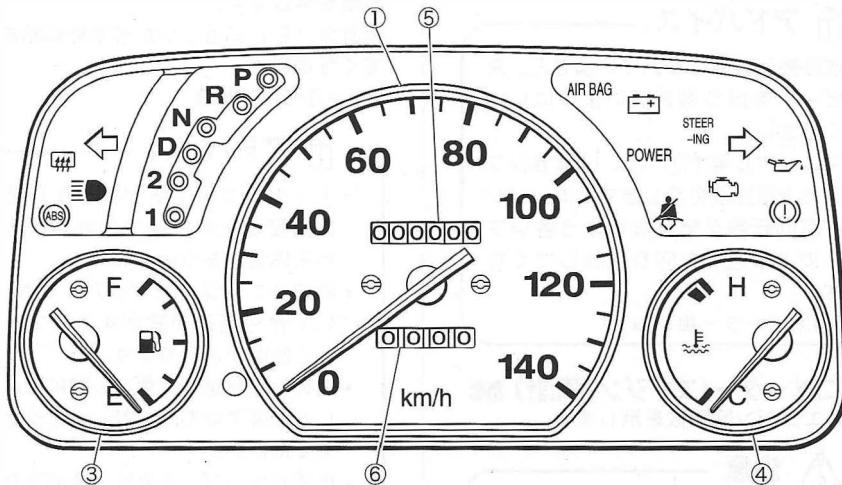
上記以外の操作では点灯しません。

メーター、表示灯、警告灯の見かた

メーター

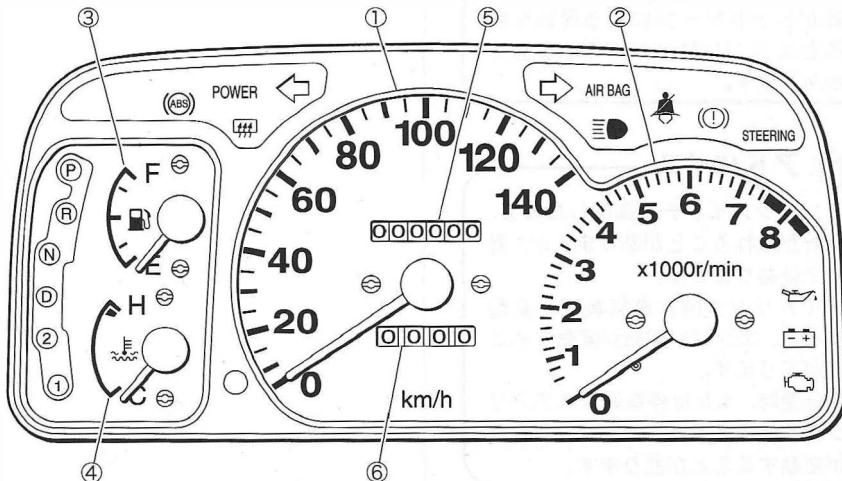
<標準>

※メーター内の装備、デザインは車種、グレードなどの違いにより異なります。



<タコメーター付>

※メーター内の装備、デザインは車種、グレードなどの違いにより異なります。



①スピードメーター

②タコメーター

③燃料計

④水温計

⑤オドメーター

⑥トリップカウンター

①スピードメーター

車の走行速度を示します。



アドバイス

- 速度警告装置はついていません。スピードを出し過ぎないようにしてください。
- マニュアル車で①、②、③は各シフトの上限速度を示します。エンジン許容回転数を超えないよう各シフトの上限速度を守り運転してください。
(標準メーター車のみ)

②タコメーター(エンジン回転計)

毎分のエンジン回転数を示します。



注意

指針がレッドゾーン（エンジンの許容回転数を超えてる範囲）に入らないように運転してください。

指針がレッドゾーンに入る運転を続けるとエンジンなどが損傷するおそれがあります。



アドバイス

- エンジンスイッチを操作したとき、指針が触れることがあります。異常ではありません。
- アイドリング時に電気負荷が変動すると、エンジン回転が変動することがあります。
- 極低速時、または停車時にステアリングを操作すると、エンジン回転数が変動することがあります。

③燃料計

エンジンスイッチの位置に関係なく燃料の残量を示します。

指針が「E」に近づいたら早めに給油をしてください。

☆2-8ページ参照

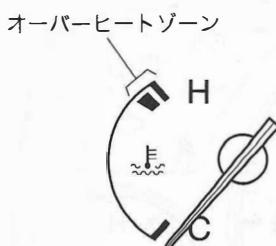


アドバイス

- エンジンスイッチが切れているとき温度変化や振動で指針が少し変わることがあります。
- 給油後エンジンスイッチを「ON」にしてから指針が安定するまでしばらく時間がかかります。
- 指針と消費量（残量）の関係は必ずしも正確ではありません。目安としてください。
- 坂道やカーブ、急発進、急停車などではタンク内の燃料が移動するため指針が振れることがあります。

④水温計

エンジンスイッチがONのとき、エンジン冷却水の温度を示します。
走行中はオーバーヒートゾーンより下側を指すのが正常です。

**注意**

指針がオーバーヒートゾーンを指したまま下がらないときは、オーバーヒートのおそれがあります。直ちに安全な場所に停車し、必要な処置（エンジンを冷やす）をしてください。そのまま走行を続けるとエンジン故障の原因になります。

⑤オドメーター（積算距離計）

走った総距離をkmで示します。
トリップカウンターの装備がない場合は100m単位で示します。

**⑥トリップカウンター
(区間距離計) **

ある区間に走った距離を知りたいときに使います。右端の数字は100m単位です。

●0に戻すときは

リセットノブを押してください。

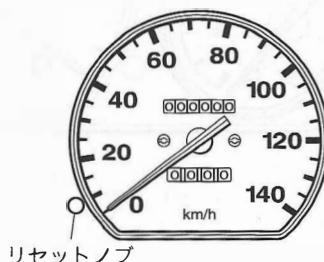
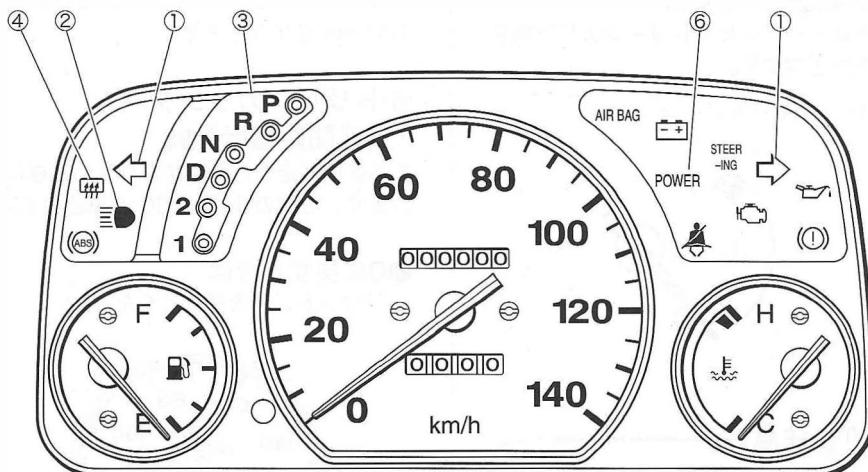
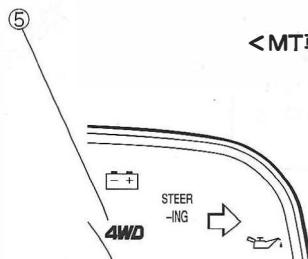


表 示 灯

<標準>



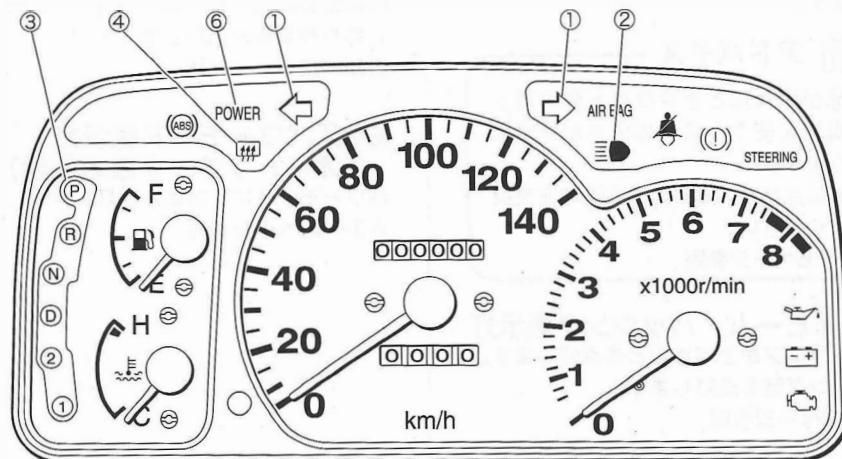
<MT車の場合>



- ① 方向指示表示灯
- ② ハイビーム/パッシング表示灯
- ③ セレクトポジション表示灯
(オートマチック車の装備)

- ④ リヤウインドウデフォッガーアクション表示灯
- ⑤ 4WD表示灯
(セレクティブ4WD車の装備)
- ⑥ ATパワーモード表示灯
(オートマチック車の装備)

<タコメーター付>



- ① 方向指示表示灯
② ハイビーム/パッシング表示灯
③ セレクトポジション表示灯
(オートマチック車の装備)

- ④ リヤウインドウデフォッガー
作動表示灯
⑤ ABS 表示灯
⑥ ATパワーモード表示灯
(オートマチック車の装備)

①方向指示表示灯

方向指示器、非常点滅灯を作動させると点滅します。

アドバイス

電球が切れたときやワット数の違った電球を使うと点滅の早さが異常になります。
直ちに点検し、異常のある電球を交換してください。
☆3-8ページ参照

②ハイビーム／パッシング表示灯

ヘッドランプが上向きのとき点灯します。
パッシング時も点灯します。
☆3-3ページ参照

③セレクトポジション表示灯

(オートマチック車の装備)

現在選択しているセレクトレバー位置を表示します。

☆3-23ページ参照

④リヤウインドウデフォッガー 作動表示灯

リヤウインドウデフォッガーが作動しているとき点灯します。

☆3-7ページ参照

⑤4WD表示灯

(セレクティブ4WD車の装備)

四輪駆動に切り替えると点灯し、二輪駆動に切り替えると消灯します。

☆3-32ページ参照

⑥ATパワーモード表示灯

(オートマチック車の装備)

パワーモードにしたとき点灯します。

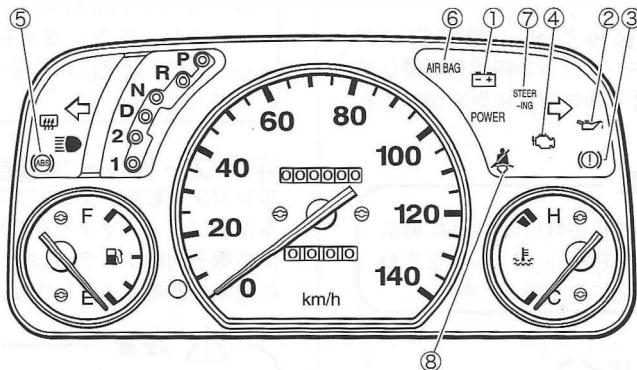
☆3-30ページ参照

警 告 灯

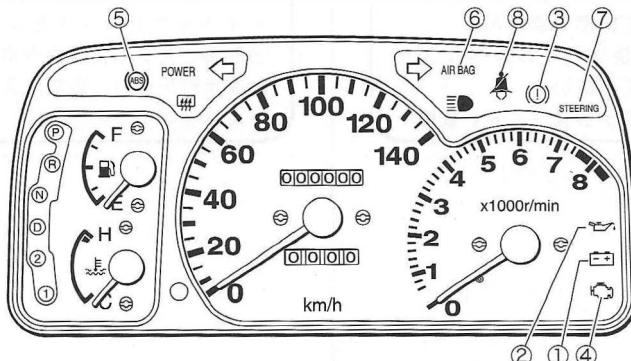
エンジン回転中に警告灯が点灯したままのときは、異常を知らせていますのでスバル販売店にご連絡ください。

- ・①充電警告灯、②オイルプレッシャー警告灯、③ブレーキ警告灯はエンジンスイッチONで点灯し、エンジン始動後消灯すれば正常です。
- ・⑤ABS警告灯は、エンジンスイッチをONにしてから約1秒間点灯後消灯すれば正常です。
- ・⑦ステアリング制御警告灯はエンジン始動後、約1秒間点灯し、消灯するのが正常です。
- ・⑥エアバッグ警告灯は、エンジンスイッチをONにしてから約6秒間点灯後消灯すれば正常です。

<標準>



<タコメーター付>



- ①充電警告灯
- ②オイルプレッシャー警告灯
- ③ブレーキ警告灯
- ④パワートレイン警告灯

- ⑤ABS警告灯
- ⑥エアバッグ警告灯
- ⑦ステアリング制御警告灯
(パワーステアリング車)
- ⑧シートベルト警告灯

①充電警告灯

エンジン回転中、充電系統に異常があると点灯します。



注意

エンジン回転中に点灯したときは、ベルトの切れなどが考えられます。直ちに安全な場所に停車し、スバル販売店にご連絡ください。

②オイルプレッシャー警告灯

エンジン回転中、エンジン内部を潤滑しているエンジンオイルの圧力に異常があると点灯します。



注意

エンジン回転中に点灯したときは、直ちに安全な場所に停車し、エンジンを止めてスバル販売店にご連絡ください。



アドバイス

オイルプレッシャー警告灯はオイル量を示すものではありません。

オイル量の点検はオイルレベルゲージで点検してください。

☆別冊「メンテナンスノート」参照

③ブレーキ警告灯

エンジン回転中、次の場合に点灯します。

1.ハンドブレーキを引いたとき（戻すと消えます）

2.ブレーキ液が著しく不足しているとき



注意

エンジン回転中にハンドブレーキバーを戻しても消灯しないとき、またはブレーキ液を補充しても消灯しないときは、直ちに安全な場所に停車し、スバル販売店に連絡して点検を受けてください。

④パワートレイン警告灯

エンジン回転中、エンジン電子制御システムまたはオートマチックトランスマッションの電子制御システム（オートマチック車）に異常があると点灯します。



注意

エンジン回転中に点灯したときは、エンジン電子制御システムまたはオートマチックトランスマッションの電子制御システムに異常があります。

高速走行を避け、直ちにスバル販売店で点検を受けてください。

⑤ABS警告灯

ABS（アンチロックブレーキシステム）の電子制御システムに異常があると点灯します。ABS警告灯は、エンジンスイッチをONにしたとき、約1秒間点灯し消灯するのが正常です。

☆3-36ページ参照



注意

ABS警告灯が点灯したままのときは、ABSは作動せず通常のブレーキとして作動します。走行上支障はありませんが、気をつけて運転し、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。



アドバイス

ABS警告灯が次のように变成了場合は正常です。

- 1.エンジン始動後に警告灯が点灯してすぐに消灯し、その後再び点灯しない。
- 2.走行中点灯してもその後消灯し、再度点灯しない。

⑥エアバッグ警告灯

エンジンスイッチをONにしたときから約6秒間点灯後消灯します。



警告

エンジン回転中に点灯したとき、またはエンジンスイッチをONにして約6秒間の点灯がないときは異常が考えられますので走行しないでください。衝突したときなどにSRSエアバッグまたはプリテンショナー付シートベルトが正常に作動せず、重大な傷害につながるおそれがあります。直ちにスバル販売店で点検を受けてください。



注意

警告灯がシステム異常を示している場合、軽微な衝撃でSRSエアバッグが作動する場合があります。

⑦ステアリング制御警告灯 (パワーステアリング車)

エンジン回転中、パワーステアリングの電子制御システムに異常があると点灯します。エンジン始動後、約1秒間点灯し、消灯するのが正常です。



注意

ステアリング制御警告灯が点灯しているときは、ハンドル操作が重くなる場合があります。気をつけて運転し、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。



アドバイス

次の場合に警告灯が点灯することがあります。

- 停車中に必要以上の空吹かしを続けた時、または外気温度が冷えている場合（0 °C以下が目安ですが若干の差があります）で、約10分間の暖機運転後に、必要以上エンジン回転数を上げると点灯することがあります。（点灯している状態ではハンドル操作力は重くなります）しかし、走行を開始すると（車速5 km/h以上）、警告灯は消え、正常の操作力になります。

次の場合にハンドル操作が重くなることがあります。

- 雪道などの、滑りやすい路面を走行中、後輪をロックさせた時。
- エンジン始動直後10分間、車両停止状態で、必要以上にエンジン回転数を上げた時。

いずれの場合も、走行を開始すると（車速5 km/h以上）、正常の操作力になります。

⑧シートベルト警告灯

エンジンスイッチがONのとき、運転者がシートベルトを装着していないときに点灯します。

運転席シートベルトのタングプレートをバックルに差し込むと消えます。

☆2-34ページ参照

運転装置の使いかた

エンジンの始動と停止

<< エンジン始動 >>

エンジンをかける前に安全を確かめます。



警告

車庫や屋内などの換気の悪いところではエンジンをかけたままにしないでください。

車内や屋内などに排気ガスが侵入し、一酸化炭素中毒を起こすおそれがあります。



注意

- 窓越しからのエンジン始動は思わず事故につながるおそれがあり危険です。

必ず運転席に座って行ってください。

- 10秒間以上スターターを回し続けないでください。

スターターの故障の原因になります。かかるときは10秒位休んでからもう一度スターターを回します。

- エンジンのかかった後は水温計の指針が中央付近になるまでの間、アイドリング回転が高めに保たれます。



アドバイス

エンジンがかかりにくいときは以下の処置を行ってください。

- エンジンが冷えているときの始動はアクセルペダルを踏まずにエンジンが始動するまで長めにスターターを回します。(10秒以内)
- エンジンが暖まっているときの始動はアクセルペダルを踏まずにエンジンが始動するまで長めにスターターを回します。(10秒以内)かかるときは、ハンドブレーキを再確認後アクセルペダルをわずかに踏み込んでスターターを回します。
- エンジンがかかった後はエンジン回転が高めに保たれます。暖機が終わると自動的に下がります。
- ライティングスイッチ、ファンスイッチ、リヤウインドウデフォッガースイッチは“OFF”にした方が始動しやすくなります。
- 寒い日または数日間以上運転しなかったときは、必ず暖機を完了してから走行してください。
- 使用するガソリンによってはエンジンがかかりにくい場合があり、始動後の回転が変動することがあります。その場合、他ブランドのガソリンに切り替えることをお奨めします。
- 純正品以外のリモコンスターターを使用すると、スターターの故障やスパークプラグのくすぶりを引き起こす場合があります。必ず純正のリモコンスターターをご使用ください。

■マニュアル車

●エンジンをかける前に

- ①ハンドブレーキをかけます。
- ②チェンジレバーがニュートラル位置であることを確認します。

●エンジンのかけかた

- ①運転席に座り、ブレーキペダルを踏みます。
- ②クラッチペダルをいっぱいに踏みます。
- ③アクセルペダルを踏まずに、エンジンが始動するまでスターターを回します。(10秒以内)

〈クラッチスタートシステム〉

マニュアル車には誤操作防止のため、クラッチペダルをいっぱいに踏み込まないとスターターが回らずエンジンがかからないようになっています。

■オートマチック車

●エンジンをかける前に

- ①ハンドブレーキをかけます。
- ②セレクトレバーがパーキング位置であることを確認します。

〔ニュートラルでも始動できますが、安全のためパーキングで始動してください。〕

●エンジンのかけかた

- ①運転席に座り、ブレーキペダルを踏みます。
- ②アクセルペダルから足を放した状態で、エンジンが始動するまでスターを回します。(10秒以内)

《《 エンジン停止 》》

アイドリング回転数に落としてからエンジンスイッチを切ります。



アドバイス

- エンジン回転を上げてからエンジンスイッチを切ったり、スイッチを切ってからアクセルペダルを踏み込むことはしないでください。未燃焼ガスが多量に排出され、触媒への悪影響や排気管より大きな音がすることがあります。
- 車両が停止した直後はエンジン回転がアイドリング回転数に戻るまで、時間が多少かかることがあります。

☆1-20ページ参照

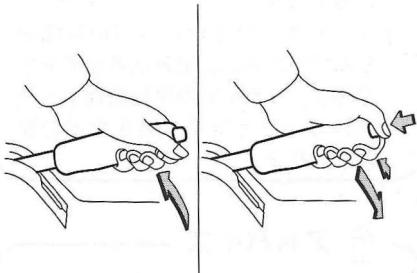
ハンドブレーキレバー

■使用するとき

ボタンを押さずにレバーをいっぱいに引きます。同時にメーター内の「ブレーキ警告灯」が点灯していることを確認してください。

■戻すとき

レバーを軽く引き上げ、ボタンを押しながら完全に下まで戻します。戻したとき「ブレーキ警告灯」が消灯していることを確認してください。



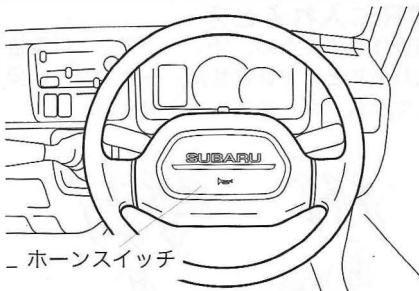
注意

- ・ハンドブレーキは後輪に装着されています。
- ・駐車するときは車が動き出さないように確実にハンドブレーキをかけてください。
- ・走行するときはレバーを完全に戻し、ブレーキ警告灯が消灯していることを確かめてください。
ブレーキをかけたまま走行すると、ブレーキ部品が早く摩耗したり、ブレーキが過熱して効かなくなることがあります。

☆3-16ページ参照

ホーンスイッチ

ハンドル中央のラッパマークのあるパッド面を押すとホーンが鳴ります。



注意

精密機械が入っているので強い衝撃などを加えないでください。

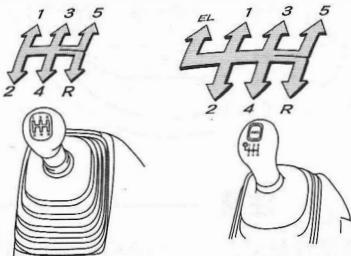
チェンジレバーの操作

チェンジレバーの操作

変速するときは、クラッチペダルをいっぱいに踏み込んで確実に操作してください。

■Rに入るとき

誤操作を防ぐため、「5」→「R」へは直接入れることはできません。一度「N」に戻してから「R」に入れてください。



注意

- “R”に入るときは、車が完全に止まり、エンジン回転がアイドリング回転数まで下がってから入れてください。トランスミッションを損傷させることがあります。
- 半クラッチの連続使用はしないでください。クラッチ早期摩耗の原因になります。
- クラッチペダルはいっぱいに踏み込んでください。踏み込みが不十分の場合、クラッチの早期摩耗やトランスミッションギヤ鳴きなどの原因になります。



アドバイス

ギヤシフトが入りにくい場合は、一度クラッチを踏み直すと入りやすくなります。

オートマチック車の運転

セレクトレバーの操作

■各レバー位置での働き

 P パーキング (パーキング)	駐車およびエンジン始動位置	<ul style="list-style-type: none"> 車輪が固定されます。駐車のとき必ずハンドブレーキを引き、Pにしてください。 Pのみでエンジンスイッチより、キーを抜くことができます。
 R リバース (リバース)	後退位置	<ul style="list-style-type: none"> Rになるとブザーが鳴り、ドライバーにRであることを知らせます。
 N ニュートラル (ニュートラル)	中立位置	<ul style="list-style-type: none"> 動力が伝達されません。Nでもエンジンの始動はできますが、安全のためPで始動してください。
 D ドライブ (ドライブ)	通常走行位置	<ul style="list-style-type: none"> 車速およびアクセルペダルの踏み込みに応じて1速⇒2速⇒3速に自動的に変速します。 (登坂路走行時など走行負荷が多いときに不要な3速へのシフトアップを制限する制御を行っています。)
 2 セカンド (セカンド)	登・降坂路走行位置	<ul style="list-style-type: none"> エンジンブレーキが必要なとき、登り坂走行などで使います。 1速⇒2速に変速します。
 1 ファースト (ファースト)	登・降坂路走行位置	<ul style="list-style-type: none"> さらに強くエンジンブレーキが必要なとき、急な登り坂、湿った砂地などで使います。 1速に固定されます。

※オートマチック車の特徴と運転上の注意をご覧ください。(1-9 ページ)



警告

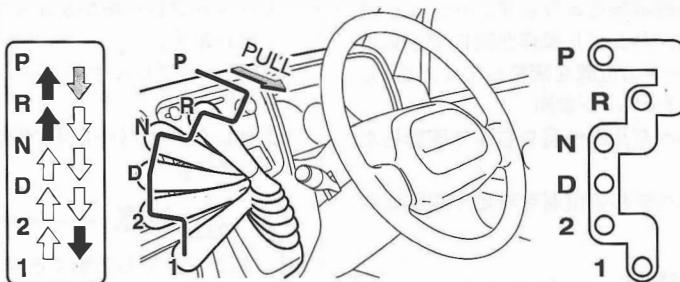
- 走行中のD⇒2⇒1シフト操作するとき以外では、必ずブレーキペダルを踏んでシフト操作を行ってください。
- 発進時は絶対にアクセルペダルを踏んだままセレクトレバーの操作をしないでください。急発進し、重大な事故につながるおそれがあります。



注意

- Pでエンジンをかけてください。Nでも始動できますが、安全のためPでかけてください。
- P・Rに入れるときや、前後進を繰り返すときは、その都度ブレーキペダルをしっかりと踏み、車が完全に止まってからセレクトレバーを操作してください。車が止まっているとトランスマッションを損傷させることができます。
- 後退した後は、すぐにRからNに戻す習慣をつけてください。

■セレクトレバーの操作方法



➡ は、ブレーキを踏んだまま、手前に引いて動かす。

➡ は、手前に引いて動かす。

➡ は、そのまま動かす。

注意

イラスト中の白抜き矢印（△）の場合は、レバーを引かずに動かす習慣をつけてください。
いつもレバーを引いて操作すると [P][R][1]に入れてしまうおそれがあります。

アドバイス

- セレクトレバーの操作は誤操作防止のため、各位置ごとに節度をつけています。確実に行ってください。
- [P]のときは、レバーを引いたままブレーキペダルを踏んだ場合、レバーの操作ができないことがあります。先にブレーキペダルを踏んでください。
- エンジンスイッチが LOCK のときは、ブレーキペダルを踏んでも [P]から他の位置に切り替えられません。
- [P]レンジから [R]レンジにセレクトするとき、急な操作をすると [D]レンジに入ることがあります。ゆっくり操作して、ブザー音およびメーター内のセレクトインジケーターの [R] 表示を確認してからアクセルペダルを踏んでください。

運転手順

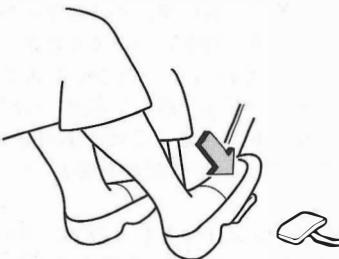
■エンジンをかける前に

- ①正しい運転姿勢をとります。ペダルが確実に踏め、ハンドル操作が楽にできるよう、シートの位置を調整してください。
☆2-17、19ページ参照
- ②アクセルペダルの位置を右足で確認します。
- ③ブレーキペダルの位置を右足で確認します。



注意

踏み間違いを防ぐため、アクセルペダルとブレーキペダルを右足で踏み、その位置を確認して足に覚えさせてください。(踏み間違いは事故につながるおそれがあります)



■エンジン始動

- ①ハンドブレーキがかかっていることを確認します。
(ハンドブレーキレバーが引いてあること)
- ②セレクトレバーが[P]であることを確認します。



注意

[N]レンジでも始動できますが、安全のため[P]レンジで行ってください。

- ③ブレーキペダルを右足で踏んだまま(アクセルペダルは踏まないこと)
- ④エンジンを始動します。



アドバイス

エンジンがかかりにくいときにアクセルペダルを踏む場合は、始動してからブレーキペダルに踏み替えてください。

■発進

①ブレーキペダルを右足で踏んだままにします。



警告

アクセルペダルを踏まないでブレーキペダルを踏んでセレクトレバーを操作してください。アクセルペダルを踏んだまま操作すると急発進して重大な事故につながるおそれがあります。

- ②セレクトレバーを[D]レンジ(前進)または[R]レンジ(後退)に入れます。
- ③セレクトレバーの位置を確認します。
- ④ハンドブレーキレバーを戻します。
- ⑤右足をブレーキペダルからアクセルペダルに踏み替えゆっくり加速します。



注意

- エンジン始動直後やエアコン作動時などはアイドリング回転が高くなりクリープ(車が動き出す)現象が強くなります。とくにしっかりブレーキペダルを踏んでください。
- 後退するときには車の後方に人や障害物がないことを確認してください。車内にブザーは鳴りますが、車外の人には聞こえません。



アドバイス

急な坂道での発進は、セレクトレバーの位置をメーター内のセレクトポジション表示灯で確認し

- ①ハンドブレーキレバーを引いたままブレーキペダルを放し
- ②アクセルペダルをゆっくり踏んで
- ③車が動き出す感覚を確認しながら
- ④ハンドブレーキレバーをゆっくりと解除して発進します。

■走行

通常の走行 :

□レンジで走行します。アクセルとブレーキの操作だけで自動的に変速され走行できます。

急加速 :

アクセルペダルをいっぱいまで踏み込みます。キックダウンして急加速できます。

☆1-9ページ参照

下り坂では :

エンジンブレーキを併用してください。

☆1-15ページ参照

急な下り坂では :

②または①レンジに入れます。さらに強いエンジンブレーキがかかります。

☆1-15ページ参照



警告

走行中はセレクトレバーを[N]にしないでください。エンジンブレーキが全く効かなくなり思わぬ事故につながるおそれがあります。



注意

- 走行中セレクトレバーに手をかけたままにしないでください。他のポジションに入り、エンジンブレーキが効いたりして思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 高速走行中はセレクトレバーを“1”または“2”に入れないでください。エンジンが過回転になるとエンジンが損傷することがあります。



アドバイス

- 急発進急加速など急なアクセル操作時、まれにエンジンからノックキングが聞こえることがあります、異常ではありません。
- 充分に暖機を行わずに走行を始めるときアクセル操作にエンジン回転が追いつかない場合があります。

■停車

①走行レンジのままブレーキペダルをしっかりと踏んでおきます。



注意

エンジン始動直後やエアコン作動時などはアイドリング回転が高くなり、クリープ現象が強くなります。とにかくしっかりとブレーキペダルを踏んでください。

②必要に応じてハンドブレーキレバーを引きります。

③長時間、停車するときは[N]または[P]レンジにし、ハンドブレーキレバーを引きます。

⚠ 注意

- エンジンの空吹かしをしないでください。P[N]以外に入っていると、思わぬ急発進の原因となります。
- エンジンをかけ、停車中にセレクトレバーを動かすときは、ブレーキペダルをしっかりと踏んでください。
- アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだり、登り坂でP[N]以外に入れた状態で、アクセルを踏みながら車を停止させたりしないでください。トランスミッションが過熱し、故障の原因になります。
- 急な登り坂での停車はクリープ現象で前へ進もうとする力よりも車が後退しようとする力の方が大きくなり、車が後退することがあります。ブレーキペダルを踏み、ハンドブレーキをかけてください。
- セレクトレバーがP[N]以外でエアコンスイッチが入っている場合などは、エンジン回転数が断続的に高くなりクリープ現象が強まります。ブレーキをしっかりと踏み込んでください。

■ 駐車

- ① 車を完全に止めます。
 - ② ブレーキペダルを踏んだまま
 - ③ ハンドブレーキレバーをしっかりと引きます。
 - ④ セレクトレバーをPレンジに入れます。
 - ⑤ エンジンを止めます。
- ☆1-19ページ参照



⚠ 注意

- エンジンをかけたままにしておくと、万一セレクトレバーがP[N]以外に入っていた場合、クリープ現象で車がひとりでに動いたり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだとき、急発進するおそれがあります。
- 車が完全に止まらないうちにPに入れないでください。トランスミッションが損傷する原因となります。

ATパワーモードスイッチ

運転条件に応じて走行モード（ノーマルモード、パワーモード）を選択するスイッチです。



アドバイス

- ・ノーマルモードとは燃費などの経済性を重視したモードです。
- ・パワーモードとは強い加速が必要なときや積載時の走行に適したモードです。

パワーモードでは変速点が高速側にセットされるため、高いエンジン回転数まで利用でき、パワフルな走行ができます。

■走行モードの切り替え

スイッチが「ON」にされていないときは「ノーマルモード」です。

スイッチを「ON」にすると「パワーモード」になり、メーター内の「ATパワーモード表示灯」が点灯します。

4WD車の運転

運転するとき

4WD車は、エンジンの動力を4輪すべてに伝え、ラフロード（悪路、砂地、泥地）や急坂などでたのもしい走りを発揮します。サンバーには2つのタイプの4WDシステムがあります。お客様の車の4WDシステムを充分理解してご使用ください。

- ①セレクティブ4WD
- ②フルタイム4WD

- タイヤが沈み込むような深い砂地、河川、海水中などに乗り入れないでください。やむを得ず走行したときは、走行後各部をていねいに洗ってください。砂、泥、塩分などがブレーキ内部に入って異常があるときは、直ちにスバル販売店で点検整備を受けてください。
- 過酷なオフロード走行はしないでください。この場合の故障は保証修理の対象にはなりませんのでご注意ください。
- 4WD車は滑りやすい路面、積雪路などで2WD車よりすぐれた性能を発揮しますが急ハンドル、急ブレーキでは2WD車と差がありません。カーブや下り坂、雪道や凍結路など滑りやすい路面は充分にスピードを落とし安全な速度と車間をとって慎重に運転してください。

取り扱いについて

- タイヤは4輪とも必ず、指定サイズ、同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着し、指定空気圧を保ってください。4本のタイヤに差があると、タイヤの回転に差が生じてタイヤがかたよって摩耗したり、駆動装置が故障する原因になります。
- 雪道走行が予測される場合、スタッドレスタイヤく必ず4輪とも同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄、同一トレッドパターン（溝模様）>を装着してください。一般タイヤでは雪道、凍結路でスリップしやすく危険です。また、乾燥路では一般タイヤに比べ、グリップ性能が低下します。
- タイヤチェーンは非常のときのみ、指定チェーンを後輪に取り付けてください。タイヤチェーンを取り付けると、前後のバランスが変わるために前輪が滑りやすくなります。急発進、急ブレーキ、急ハンドルなどを避けて、路面の状況に合った安全な速度（30 km/h以下）で慎重に運転してください。

セレクティブ4WD

必要に応じて四輪駆動に選択できる4WDです。通常は2WDで走行し、悪路、雪道、ぬれた路面の高速走行、山岳走行のときに4WDに切り替えます。四輪駆動にすると前後輪が直結になり、前後輪に等分に駆動力が配分されます。

⚠ 注意

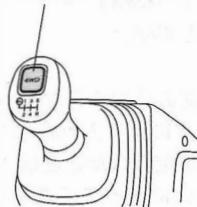
- 4WDへの切り替えは、タイヤが空転しているときは絶対に切り替えないでください。大きな力がクラッチ系や駆動系に加わり、悪影響を与えます。
- 切り替えは直進時にクラッチペダルを踏まないで、アクセルペダルを戻してからスイッチを押すと、スムーズに切り替わります。
- 走行するときは、4WDになると前後が直結になり、等分に駆動力が配分されます。同時に、直結状態のためタイトコーナーブレーキング現象が発生しますので、取り扱いには充分ご注意ください。

☆3-33ページ参照

■2WD-4WDの切り替え

チェンジレバーのノブ中央の「4WDセレクトスイッチ」で切り替えます。エンジンが回っていれば、いつでも切り替えられます。

4WDセレクトスイッチ



4WD

押し込み

4WD

もう一度押し込み



【4WD走行】

【2WD走行】

●4WD走行にするとき

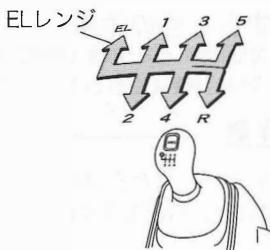
スイッチを押し込みます。スイッチ内部では押し込んだ位置に保持され（表面のカバーはスイッチ押し込み後、元の位置に戻ります）、同時にメーター内の「4WD表示灯」が点灯します。

●2WD走行にするとき

スイッチをもう一度押し込みます。スイッチは元に戻り、「4WD表示灯」も消灯します。

■4WD-ELレンジへの切り替え 26

砂地、悪路、急坂路などとくに大きな駆動力を必要とする場合に切り替えます。



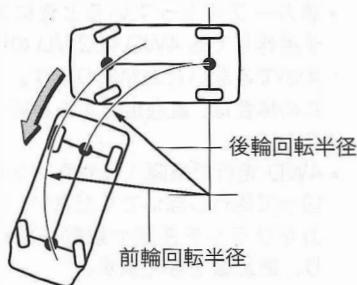
●2WD走行のとき

EL レンジに入れると自動的に 4WD 一 EL 走行に切り替わり、同時にメーター内の「4WD表示灯」も点灯します。EL レンジ以外にすると 2WD 走行になり、「4WD表示灯」も消灯します。

●4WD走行のとき

ELレンジ以外にしても4WDのままです。

■タイトコーナーブレーキング現象について



4WD 走行中に乾いた舗装路の急カーブを曲がろうとすると、ブレーキをかけたような状態になることがあります。この現象をタイトコーナーブレーキング現象と言います。

これは、前後タイヤの回転差をプロペラシャフトで強制的に抑えるために起こる現象で、滑りやすい路面では前後いずれかのタイヤがスリップするので、ほとんど発生しません。

フルタイム4WD

●タイトコーナーブレーキング現象を避けるために

- 急カーブを走っているときにスイッチ操作しても4WD ⇄ 2WDの切り替えができないことがあります。
この場合は、直進走行すると切り替えります。
- 4WD走行で車庫入れや急ハンドルを切って走行しないでください。大きな力がクラッチ系統や駆動系統に加わり、悪影響を与えます。
- 急加速中や急カーブを走っているとき切り替え操作をすると、切り替え遅れや軽いショックを感じます。
これは、切り替えクラッチに加わっている力が解除されるために生じるもので異常ではありません。
- 同じ理由で、前後タイヤのサイズが違う場合も切り替え遅れや切り替えショックが発生します。異なるサイズのタイヤは絶対に使用しないでください。
また、定期的にタイヤ空気圧を点検してください。
- タイヤチェーンを装着したときは四輪駆動が解除しにくくなることがあります。この場合は、スイッチ操作後少し走ると解除します。

ビスカスカップリング式4WDを採用していますので、前後輪に回転差が生じたとき適正に駆動力が配分され、雪道、ぬかるみ、滑りやすい路面で威力を発揮します。

■けん引するときの注意

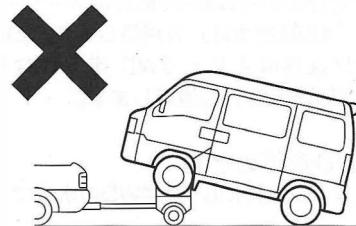
前輪（後輪）が回転すると後輪（前輪）が回されるため、けん引時は注意してください。

注意

前輪だけを上げたけん引は絶対にしないでください。飛びだす原因となり危険です。

また、ビスカスカップリングの劣化の原因にもなります。

☆6-13ページ参照

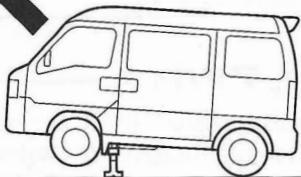


●整備時の注意

常時4輪に駆動力が伝達されるため整備時などには注意してください。

⚠ 注意

前輪または後輪だけを回転させることは絶対にしないでください。車が飛びだし非常に危険です。



ブレーキ

ABS:アンチロックブレーキシステム

ABSはブレーキ系統を電子制御し、車輪のロックを防止して滑りやすい路面の制動でも方向安定性を保ち、ハンドル操作性を確保する装置です。

危険時はブレーキをしっかり強く踏み続け、必要ならハンドル操作で危険を回避してください。

万一、ABSに異常が生じた場合は通常ブレーキとして作動します。

■ 制動距離やハンドル操作性について



注意

- ABSは必ずしも制動距離を短くする装置ではありません。
ABSが付いていない車両と同じように充分な車間距離をとって運転してください。
- ABSが作動した状態であっても車両の方向安定性、ハンドル操作性には限界があり、思わぬ事故につながるおそれがあります。常に安全運転を心がけてください。
- 下記の道路などでABSが作動した場合、ABSが付いていない車よりも制動距離が長くなることがあります。
 - ・マンホール、工事現場などの滑りやすい路面
 - ・道路のつなぎ目などの段差
 - ・凹凸路、石畳などの悪路
 - ・下り坂での旋回
 - ・路肩に草や砂利が多い道路
 - ・砂利道
 - ・雪道（新雪路、圧雪路、アイスバーンなど）

- タイヤチェーン装着時および冬用タイヤ（スタッドレストイヤ）装着時ではABSの付いていない車両に比べ制動距離が長くなることがあります、車間距離が不足していると事故につながるおそれがあります。とくに速度を控え目にして車間距離を充分にとって運転してください。
- ABSは車速が約10km/h以下になると作動せず、普通ブレーキと同じ作動になります。



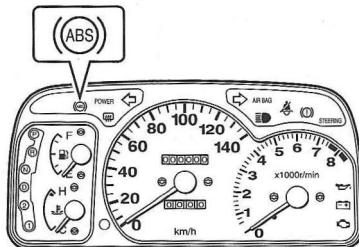
アドバイス

- ABSが作動したとき、ブレーキペダルが小刻みに動いたり、車体やハンドルなどに振動を感じことがあります。
これはABSが作動している状態で正常です。そのままブレーキペダルを強く踏み続けてください。
- ABS作動時、車両が停止する寸前でエンジン回転が一時に上昇することがあります。異常ではありません。
- エンジンをかけた直後発進すると、運転席床下付近から一時に作動音がします。これはABSの作動をチェックしている音で正常です。
- エンジンをかけて最初に走り始めたとき、ブレーキペダルを踏むタイミングによってはペダルに「コツン」と動きを感じことがあります。これはABSの作動をチェックしている動きで正常です。
- ABSが作動すると、ハンドル操作のフィーリングが若干変わります。

ブレーキブースター（制動力倍力装置）

■ABS警告灯

エンジンスイッチをONにしたとき約1秒間点灯し、その後に消灯するのが正常です。



アドバイス

ブレーキブースター（制動力倍力装置）はエンジンの吸入負圧を利用してブレーキペダルの踏む力を軽くする装置です。

エンジンが停止している状態であったり、ブレーキブースターの圧力が不足している場合、ブレーキペダルを踏むとき（減速、停止する場合）、通常よりも強い力が必要になります。



注意

ABS警告灯が次のようにになった場合はシステムの異常が考えられますので、直ちにスバル販売店で点検を受けてください。

- エンジンスイッチをONにしても点灯しない。
- 点灯したままのとき
なお、このような場合でも通常のブレーキとしての性能は確保されています。
(ABSとしての作動はしません)



アドバイス

ABS警告灯が次のようにになった場合でも正常です。

- エンジン始動時に点灯してもすぐに消灯し、その後再び点灯しない。
- 走行中に点灯してもその後消灯し、再度点灯しない。

MEMO

4

室内装備品の使いかた

- ・ヒーターとエアコン 4-2
 - ・吹き出し口の調整
 - ・吹き出し口表示と使用目的
 - ・フロントヒーターの使いかた
 - ・リヤヒーターの使いかた
 - ・エアコンの使いかた
- ・オーディオシステム 4-11
 - ・アンテナ
 - ・カセットテープについて
 - ・CDについて
 - ・AM電子チューナー
 - ・AM/FM電子チューナー・カセットデッキ
 - ・AM/FMマルチ電子チューナー・CDプレーヤー
- ・室内装備 4-25
 - ・シガーライター
 - ・灰皿
 - ・グローブボックス
 - ・センターコンソールボックス
 - ・オーバーヘッドラック
 - ・リヤトレー
 - ・小物入れ
 - ・パーソナルボックス
 - ・サンバイザー
 - ・フック
 - ・三角表示板の格納
 - ・カーゴソケット
 - ・ルームランプ
 - ・荷室ランプ

ヒーターとエアコン

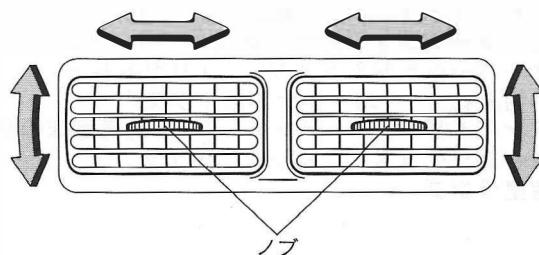
吹き出し口の調整

■フロントヒーター

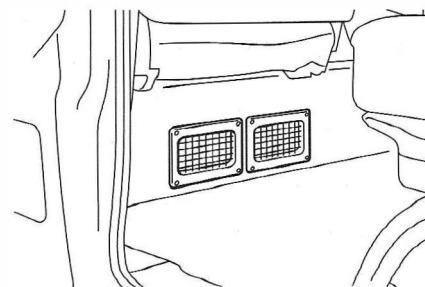


●吹き出し口の調整

- ・吹き出し口全体を回して上下方向の風向きを調整します。
- ・中央のノブを左右に動かして左右方向の風向きを調整します。
また、右にいっぱいに回すと、風の吹き出しが止まります。



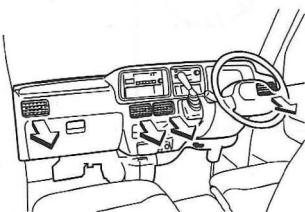
■リヤヒーター



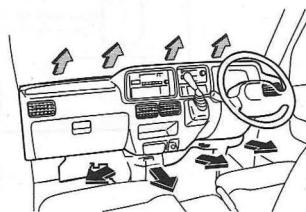
吹き出し口表示と使用目的

使用目的に合わせて吹き出し口を選択してください。

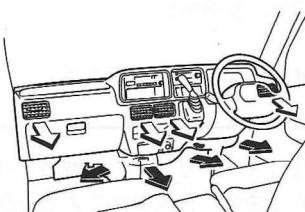
●上半身に送風したいとき



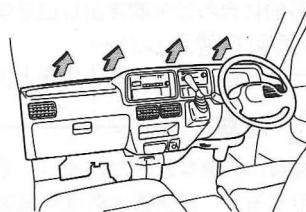
●足元への送風と窓ガラスの曇りを取りたいとき



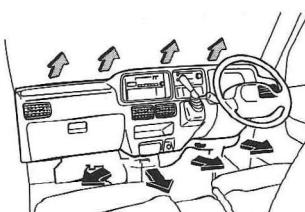
●上半身と足元に送風したいとき



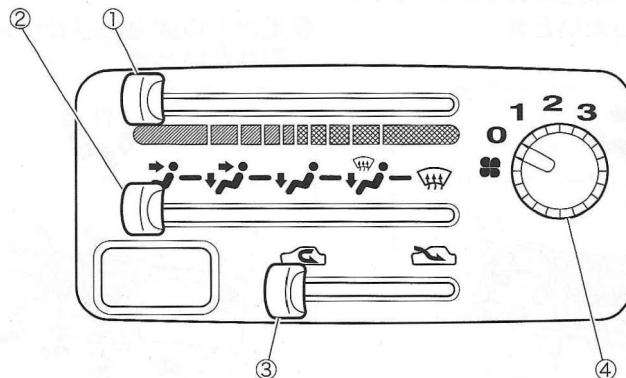
●窓ガラスの曇りを取りたいとき



●足元に送風したいとき



フロントヒーターの使いかた



■操作パネルの使いかた

①温度調整レバー

送風温度を調整します。

右に動かすと送風温度が高くなります。無段階に温度の調整ができます。

②吹き出し口切り替えレバー

使用目的に合わせて吹き出し口を切り替えます。(4-3ページ参照)

③内外気切り替えレバー

レバーを右側に動かすと外気導入になり、左側に動かすと内気循環になります。



注意

内気循環は必要なときだけ使い、通常は外気導入を使用してください。内気循環で長時間使用すると、排気管に腐食や損傷による穴や亀裂がある場合、排気ガスによる一酸化炭素中毒になるおそれがあります。

また、長時間内気循環にするとガラスが曇りやすくなります。

④ファンスイッチ

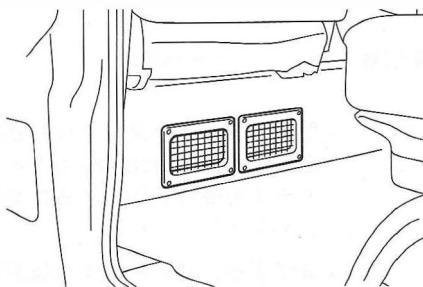
風の強さを3段階に調整できます。数字が大きくなるほど強くなり、「0」では止まります。

■フロントヒーターの使いかた

	② 吹き出し口 切替	⑤ 風量調整	① 温度調整	④ 内外気切替	アドバイス
暖房		希望位置	希望位置 (中間より右側)		・ウインドウガラスにも少し送風されます。これはウインドウガラスの曇りを防止するためのものです
頭寒 足熱		希望位置	希望位置 (中間)		・温度調整レバーを右または左いっぱいにすると頭寒足熱にはなりません。冷風または温風のみの吹き出しになります
曇り除去		希望位置	中間より 右側		・気温が高いとき(夏場)、曇り取りをする場合、温度調整レバーで適温に調整してください
換気		希望位置	希望位置		・顔部が熱い場合は、温度調整レバーで左に1~2クリック動かしてください

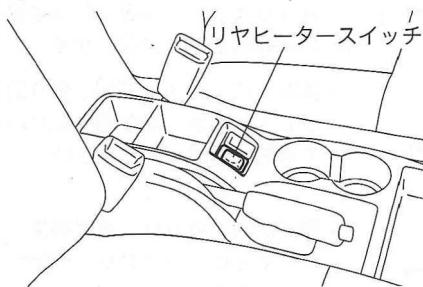
リヤヒーターの使いかた※

助手席シート下の吹き出し口から温風が吹き出し、後席を暖房します。

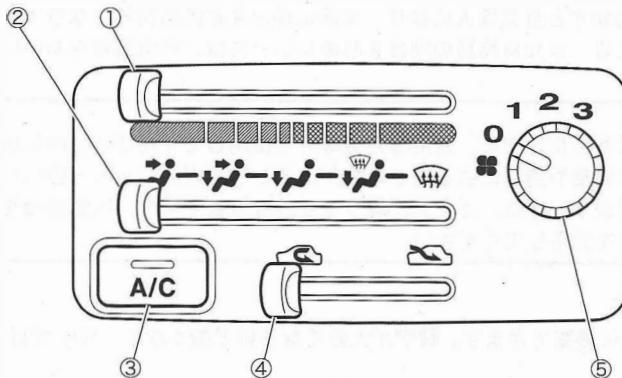


注意

リヤヒーターを使用しているときは、
リヤヒーターの空気吸い込み口、吹き
出し口をふさがないでください。
ファンモーターが過熱して焼損する
おそれがあります。



エアコンの使いかた ×



エンジン回転中、ファンスイッチが「0」以外のとき、エアコンスイッチを押すとエアコンが作動します。もう一度スイッチを押すか、ファンスイッチを「0」にすると止まります。

■操作パネルの使いかた

①温度調整レバー

送風温度を調整します。

右に動かすと温度が高くなります。無段階に温度の調整ができます。

②吹き出し口切り替えレバー

使用目的に合わせて吹き出し口を切り替えます。(4-3ページ参照)

③エアコンスイッチ

ファンスイッチが「0」以外のとき、スイッチを押すとエアコン（冷房、除湿機能）が作動し、スイッチ内のランプが点灯します。もう一度押すとエアコンは停止します。



アドバイス

- 次の場合、エアコンは作動しません。
 - ・室内的温度が低いとき
 - ・外気温度が低いとき（0 °C以下のとき）
 - ・急な坂道を登っているとき
 - ・急加速中
- 冷房中に吹き出し口から白煙が出ているように見えることがあります。これは湿度の高い空気が急激に冷やされて起こる現象で異常ではありません。
- 停車中の冷房効果を上げるためにアイドリング回転数が高くなります。オートマチック車はクリープ現象が強くなりますので、ブレーキペダルをしっかりと踏んでください。

④内外気切り替えレバー

レバーを右側に動かすと外気導入になり、左側に動かすと内気循環になります。

早く冷房したいとき、または冷房の効きを高めたいときは、内気循環をお使いください。



注意

内気循環は必要なときだけ使い、通常は外気導入を使用してください。内気循環で長時間使うと排気管に腐食や損傷による穴や亀裂があると排気ガスによる一酸化炭素中毒になるおそれがあります。また、ガラスが曇りやすくなりますので、内気循環を利用する場合は、エアコンを併用してください。

⑤ファンスイッチ

風の強さを3段階に調整できます。数字が大きくなるほど強くなり、「0」では止まります。

■使いかた

	② 吹き出し 口切替	⑤ 風量調整	③ エアコン ON・OFF	① 温度調整	④ 内外気切替	アドバイス
冷房		希望位置	ON	希望位置 (中間より左側)		<ul style="list-style-type: none"> 早く冷やしたいときは④を内気循環にしてください また、冷房の効きを高めたいときにも、内気循環をお使いください。
暖房		希望位置	ON または OFF	希望位置 (中間より右側)		<ul style="list-style-type: none"> ウインドウガラスにも少し送風されますが、これはガラスの曇りを防止するためのものです。そのため、温度調整レバーを右いっぱいにして使用すると、顔部が熱く感じる場合があります 顔部が熱い場合は、温度調整レバーを左側に1~2クリック動かし、適温に調整してください 足元の暖房感を損なうことなく快適に使用できます
除 ・湿 暖房		希望位置	ON	希望位置 (中間)		<ul style="list-style-type: none"> 温度調整レバーで室内温度を調整してください。このレバー位置によっては除湿機能が低下する場合があります
頭 寒 足 熱		希望位置	ON または OFF	希望位置 (中間)		<ul style="list-style-type: none"> 温度調整レバーを右または左いっぱいにすると頭寒足熱にはなりません。冷風または温風のみの吹き出しになります
曇 り 除 去		希望位置	ON	中間より右側		<ul style="list-style-type: none"> 夏期において曇りを除去する場合、①は中間より左側でご使用ください。また、外気温度と吹き出し風の温度差が大きいと窓の外側が曇る場合があります。このときは⑤を「0」にするか、温度調整レバーを右に動かしてください
換 気		希望位置	OFF	希望位置		

▲ アドバイス

上手にエアコンを使うため

- ・停車中の冷房効果を上げるためアイドリング回転数が高くなります。オートマチック車はクリープ現象が強くなりますので、ブレーキペダルをしっかり踏んでください。
- 駐車中はハンドブレーキ(オートマチック車はセレクトレバーを[P])を引いてください。
- ・炎天下に駐車したときは、エアコンを使う前にウインドウガラスを全開にして熱気を逃がしてください。
- ・室内のにおいは消臭剤を使って消してください。空気が汚れているときやタバコを吸うときは外気導入で窓を開けて換気してください。ホコリやタバコの煙が冷房装置に付着しておうことがあります。
- ・目が痛くなったときは、外気導入にしてください。冷房中に乾燥気味になり、タバコの煙で目が痛くなることがあります。
- ・適度に温度を調整してください。冷え過ぎは身体に害があります。健康上、外気温度と室内温度の差は5~6°Cが適温です。
- ・エアコンは各部を潤滑するため1か月に3回程度作動させてください。
- ・冷えない場合には冷媒不足も考えられますのでスバル販売店で点検を受けてください。

オーディオシステム

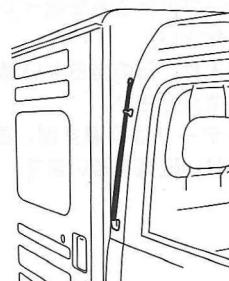
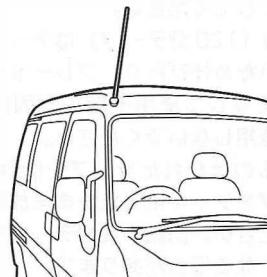
アンテナ

⚠ 注意

安全運転のために

- 車外の音が聞こえる程度の音量で聞いてください。車外の音が聞こえない状態で運転すると危険です。
- できるだけ車が止まっているときにラジオ・オーディオを操作してください。

ラジオを聞くときはアンテナの先端をいっぱいまで伸ばしてください。



⚠ 注意

自動洗車機や屋根の低いところに入るときは、アンテナを格納してください。伸ばしたままだとアンテナが折れる場合があります。

カセットテープについて

- ヘッド周辺は汚れやすいので1ヶ月に1回程度は、クリーニングテープでクリーニングしてください。
- C120（120分テープ）はテープが非常に薄いため伸びたり、プレーヤーに巻き付いたりして使用不能の原因になります。使用しないでください。
- ラベルのはがれたテープを使用したり、テープをデッキに入れたまま放置しないでください。回転不良やテープが取り出せなくなる場合があります。
- プレーヤーにテープが巻き込まれないように、テープのたるみを取ってから差し込んでください。
- ケースに入れ、日の当らない場所を選んで保管してください。
カセットテープは高温多湿、直射日光、ほこり、強い磁気を嫌います。

CDについて

CDは下図のマークがついているものを使つてください。

ただし、CD-RWは再生できません。また、CD-Rは一部再生できないものがあります。

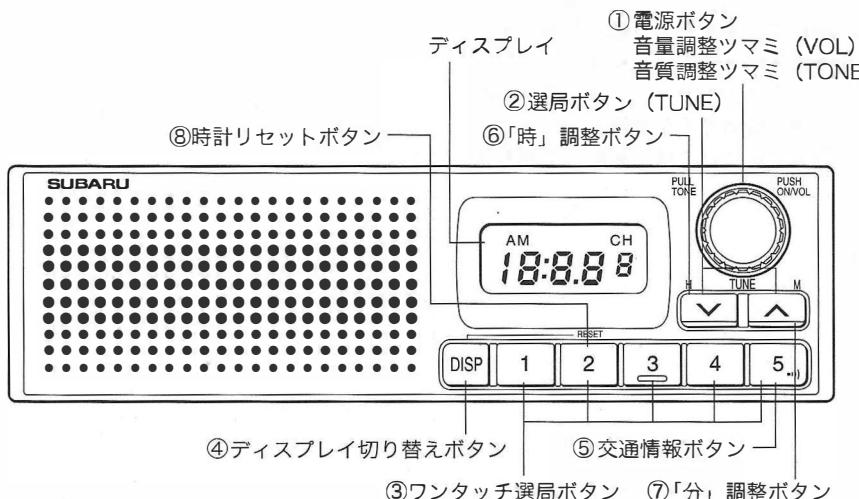


- 寒いときや雨降りのときは、プレーヤー内に露が生じ、正常に作動しないことがあります。この場合CDを取り出し、しばらくの間除湿や換気をしてから使ってください。
- 悪路走行などで激しく振動した場合、音とびすることがあります。
- 大きい傷、変形、ヒビ等のあるディスクやハート型などの特殊形状のCDは使用しないでください。誤作動や故障の原因となる場合があります。
- 8cm CD、12cm CDをご使用ください。
- 8cm CDを使用するときはアダプターを使用しないでください。
CDを取り出せなくなるおそれがあります。
- ケースからディスクを取り出す場合、ケース中心部を押し、ディスクの両端を持ってください。また、ディスク面に直接触れると音が悪くなる場合がありますので、手を触れないようにしてください。
- ディスクは熱に弱いので直射日光の当たる場所やヒーター等の近くに置かないでください。
- ディスク面にラベルを貼ったり、鉛筆やペン等で傷をつけたりしないでください。

- ディスクはきれいなものをご使用ください。汚れている場合は、乾いた布で中心から外に向かって拭いてください。堅い布やシンナー、ベンジン、アルコールなどは使用しないでください。
- CD-TEXTについては、対応しておりません。

AM電子チューナー

ラジオを聞くとき



■電源

①を押すごとに電源がON、OFFします。
(エンジンスイッチが“ACC”または“ON”のとき)

■音量調整 (VOL)

①を右に回す：大きくなる
①を左に回す：小さくなる

■音質調整 (TONE)

①のツマミを引き出して調整します。
右に回す：高音が強くなります
左に回す：高音が弱くなります

■選局 (TUNE)

選局には次の3つの方法があります。

「自動選局」「手動選局」「ワンタッチ選局」

●自動選局

- ②のボタンを0.5秒以上押し続けると、自動的に選局します。
- ②のボタンの右側を押すと、周波数が上がります。
- ②のボタンの左側を押すと、周波数が下がります。

●手動選局

- ②のボタンの左右いずれかを軽く触ると9kHzごとに周波数が切り替わります。

●ワンタッチ選局

- ③のボタンのいずれかを押すと、あらかじめセットしてある放送局を受信します。AM放送5局が記憶できます。

■放送局を記憶させるには

- 1.②のボタンで記憶させたい放送局を選びます。
- 2.ディスプレイが時計表示のときは、④のボタンを押して周波数表示にします。
- 3.③のボタンのうち一つを選び、2秒以上押し続けると記憶されます。
- 4.同じようにすべてのボタンに記憶させます。



アドバイス

バッテリーの端子を外したときやヒューズ切れのときは記憶が消えます。

■交通情報を聞くには

- (③のボタンの#5に交通情報局が記憶されているとき)
 ⑤のボタンを押すと交通情報(1620 kHz)を受信します。



アドバイス

- ⑤のボタンは5つ目のワンタッチ選局ボタンとしても使えます。
- 新車時には1620 kHzが記憶されています。
- バッテリーの端子を外したときやヒューズ切れのときには1620 kHzになります。

■時計を合わせるには

●時・分の調整

④のボタンを押しながら⑥のボタンまたは⑦のボタンを押して時・分を調整してください。

⑥のボタン：「時」の調整

⑦のボタン：「分」の調整

●時報に合わせます

④のボタンを押しながら⑧のボタンを押してください。

次のように時計の表示が調整されます。

11:30～12:29 → 12:00

12:30～1:29 → 1:00



アドバイス

電源が切れて再び接続したときは、表示が「12:00」で点滅します。正しい時刻に合わせてください。

■ディスプレイ表示の切り替え

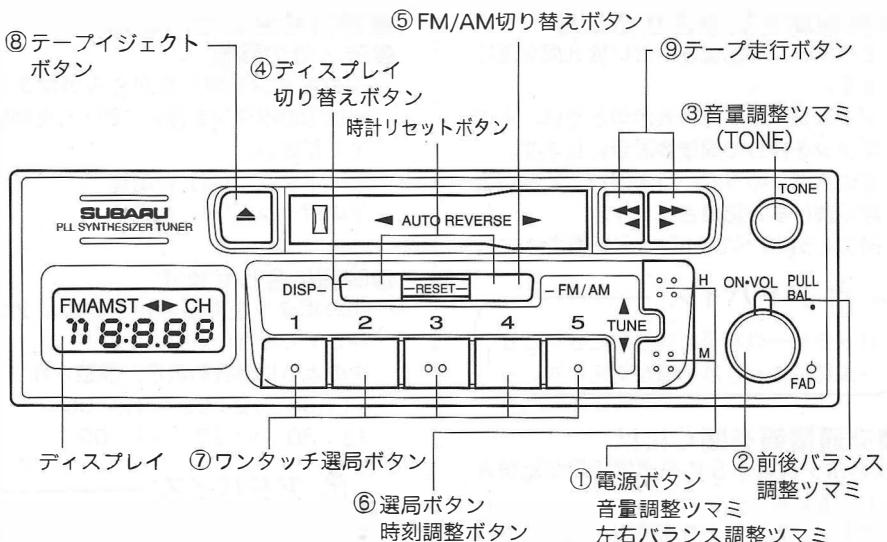
ディスプレイには時刻が表示されています。

- 電源を入れたときや選局ボタンを押すと5秒間周波数が表示されます。
- エンジンスイッチを“ACC”または“ON”にすると照明がつきます。

ラジオ電源ONのとき④のボタンを押すごとに時計表示優先モードと機能表示優先モードの切り替えができます。

AM/FM電子チューナー・カセットデッキ

共通操作



■電源を入れるとき

①を押すごとに電源がON・OFFします。

■音量を調整するとき

①を回して調整します。

右に回す：音が大きくなります

左に回す：音が小さくなります

■前後のバランスを調整するとき

(オプション部品のリヤスピーカーをついたときの機能です)

②のボタンを回して調整します。

通常は右いっぱいに回しておきます。

右に回す：後席スピーカーの音が小さくなります

左に回す：前席スピーカーの音が小さくなります

■左右バランスを調整するとき

①のボタンを引き出して調整します。

右に回す：左側スピーカーの音が小さくなります

左に回す：右側スピーカーの音が小さくなります

■音質を調整するとき

③のボタンを回して調整します。

右に回す：高音が強くなります

左に回す：高音が弱くなります

■時計合わせ

ラジオ電源ONのとき、④のボタンを押しながら⑥のボタンで調整します。

④のボタンと⑥のボタンのH側を押す



「時」を調整します

④のボタンと⑥のボタンのM側を押す



「分」を調整します

●時報に合わせるとき

時報と同時に④のボタンを押しながら

⑥のボタンを押します。

次のように調整されます。

11:30~12:29 →12:00

12:30~1:29 →1:00



アドバイス

バッテリーを再び接続したときは、表示が「12:00」で点滅します。正しい時刻に合わせてください。

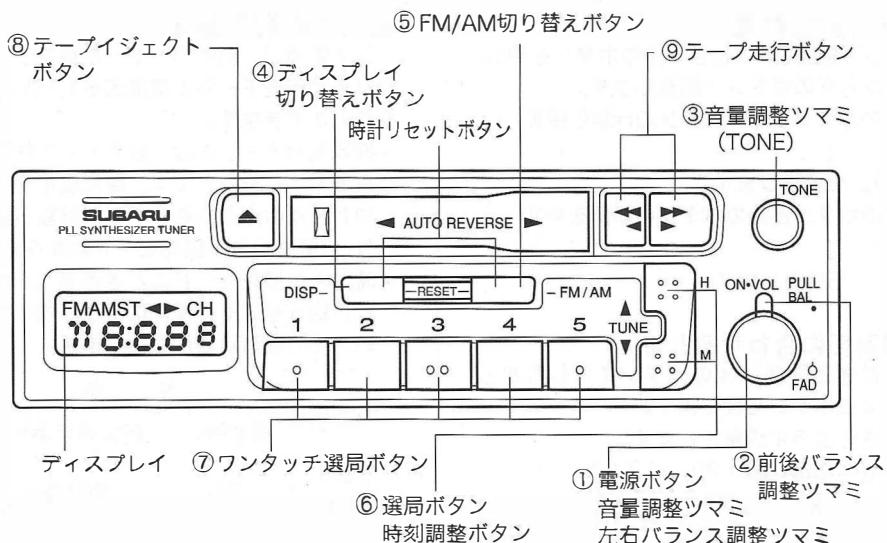
■表示の切り替え

ラジオ電源 ON 時④のボタンを押すごとに時計表示優先モードと機能表示モードの切り替えができます。

- 機能表示モードとは、各モードの状態のみ表示するモードです。機能表示モードのとき④のボタンを押すと時計表示になります、以降時計表示優先モードになります。
- 時計表示優先モードのとき各操作を行うと、約5秒間その操作に応じた表示を行い、その後時計表示に戻ります。

モード	表 示	
	機能表示	時計表示優先時
ラジオ 電源OFF	消灯	時計表示
ラジオ	周波数表示	時計表示
テープ	TAPE	時計表示

ラジオを聞くとき



■FM/AMを受信するとき

⑤を押します。

●バンドを切り替えるとき

⑤を押し、バンドを選択します。

⑤を押すごとに

FM ⇄ AM

と、切り替わり、ディスプレイに表示されます。

■チューニング

「自動選局」「手動選局」「ワンタッチ選局」の3つの方法があります。

●自動選局

⑥のボタンを0.5秒以上押し続けます。

自動的に選局します。

上側を押す：周波数が高くなります

下側を押す：周波数が低くなります

●手動選局

⑥のボタンを軽く押します。

一定のピッチで切り替わります。

●ワンタッチ選局

⑦のボタンのいずれかを押します。あらかじめセットしてある放送局を受信します。

■放送局の記憶方法

FM放送5局、AM放送5局が記憶できます。

1. 選局します。

2. ディスプレイを周波数表示にします。

3. ⑦のボタンのいずれかを選び、2秒以上

押し続けます。記憶されると、ディスプレイにチャンネル番号が表示されます。

4. 同じようにすべてのボタンに記憶させます。

アドバイス

バッテリーの端子を外したときやヒューズ切れのときは記憶が切れます。

カセットテープを聞くとき

■テープを聞くには

●再生

エンジンスイッチが“ACC”または“ON”的ときテープを差し込みます。自動的に電源が入り、再生が始まります。カセットデッキが作動するとラジオは自動的に切れます。

●再生を止めるには

⑧のボタンを押すと再生が止まり、テープが押し出されます。

テープが押し出されるとカセットデッキの電源は自動的に切れます。ただし、ラジオの電源がONのときはラジオに自動的に替わります。

●再生方向を切り替えるには

⑨のボタンの両方を同時に押します。押すごとに再生方向が切り替わります。

●早送り、巻き戻しをするには

⑩のボタンの右側を押すと早送り、左側を押すと巻き戻しになります。

早送り、巻き戻しを止めるときは、反対側を軽く押します。その位置から再生が始まります。

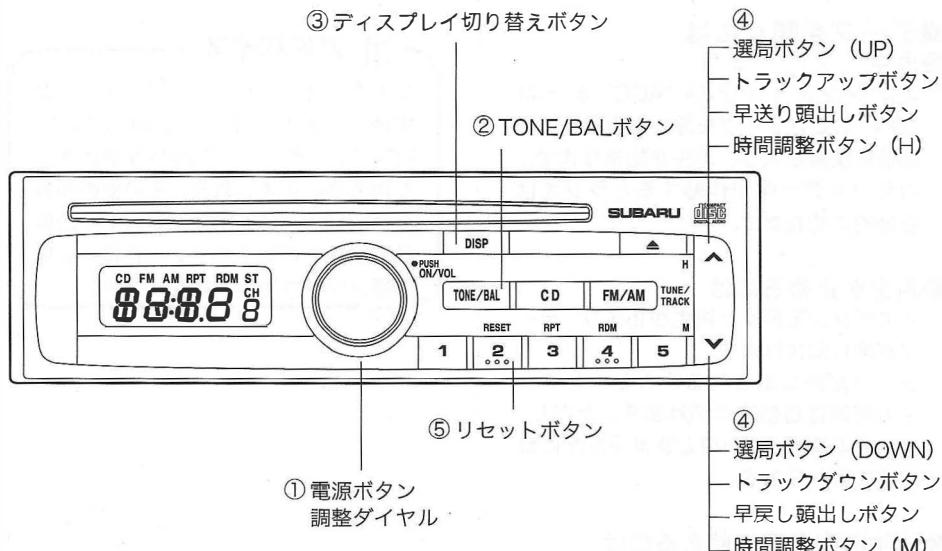


アドバイス

このラジオにはCD/MDプレーヤーが接続できます。(オプション部品) CD/MDプレーヤーにCD/MDを挿入すると再生されます。選曲、その他の操作については、CD/MDプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。音量、音質調整はラジオ本体で調整します。

AM/FMマルチ電子チューナー・CDプレーヤー

共通機能



■電源

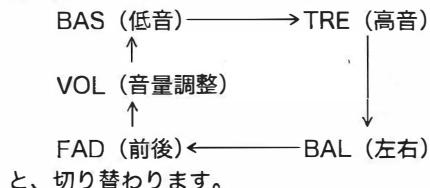
エンジンスイッチが「ACC」または「ON」のとき①のボタンを押すと電源が入り、もう一度押すと切れます。

■音量調整 (VOL)

①を右に回す：音が大きくなります。
①を左に回す：音が小さくなります。

■音質調整

②のボタンを押して調整モードを選択し、
①のダイヤルを回して調整します。
②を押すごとに



●低音調整 (BAS)

右に回す：低音が強くなります。
左に回す：低音が弱くなります。

●高音調整 (TRE)

右に回す：高音が強くなります。
左に回す：高音が弱くなります。

●左右バランス (BAL)

右に回す：左側のスピーカーの音が小さくなります。
左に回す：右側のスピーカーの音が小さくなります。

●前後バランス (FAD)

右に回す：後席のスピーカーの音が小さくなります。
左に回す：前席のスピーカーの音が小さくなります。

■時計合わせ

③のボタンを押しながら④のボタンを押し
て時刻を調整します。

上側を押す：時（H）の調整

下側を押す：分（M）の調整

●時報に合わせる

時報と同時に③のボタンを押しながら
⑤のボタンを押します。



アドバイス

次のように調整されます。

11:30～12:29→12:00

12:30～1:29→1:00

バッテリーを再び接続したとき

表示が12:00で点滅します。正しい
時刻に合せてください。

■表示の切り替え

ラジオ電源ONのとき③のボタンを押すご
とに時計表示優先モードと機能表示モード
の切り替えができます。

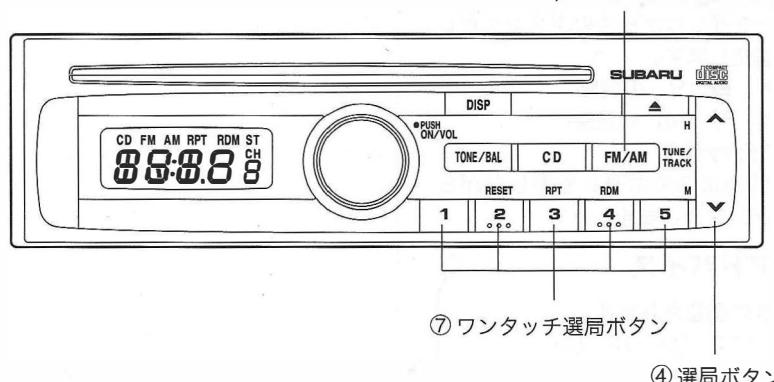
●機能表示モード

各モードの状態のみ表示するモードで
す。機能表示モードのとき③のボタンを
押すと、以降時計表示優先モードにな
ります。

●時計表示優先モード

各操作を行うと、約5秒間その操作に応
じた表示を行い、その後時計表示に戻り
ます。

ラジオを聞くには



■FM/AMを受信するとき

⑥を押します。

●バンドを切り替えるとき

⑥を押し、バンドを選択します。

⑥を押すごとに

FM↔AM

と、切り替わり、ディスプレイに表示されます。

■選局するとき

●自動的に放送局を探すとき

④のボタンを0.5秒以上押します。放送局が見つかると受信を始めます。

④の上側を押す：周波数の高い方へ放送局を探します

④の下側を押す：周波数の低い方へ放送局を探します

●手動で選局するとき

④のボタンを押します。

④の上側を押す：周波数の高い方へ1ステップずつ切り替わります

④の下側を押す：周波数の低い方へ1ステップずつ切り替わります

⑥ FM/AM切り替えボタン

⑦ ワンタッチ選局ボタン

④ 選局ボタン

アドバイス

- AM放送はモノラル受信のみです。
- FMステレオ放送受信中は“ST”インジケーターが点灯します。

■聞いている放送局をメモリーする

1. ⑥を押し、FM/AMを選択します。

2. メモリーしたい放送局を選局します。

3. ⑦（メモリーしたい番号を選ぶ）を2秒以上押します。

メモリーナンバーがディスプレイに表示されます。

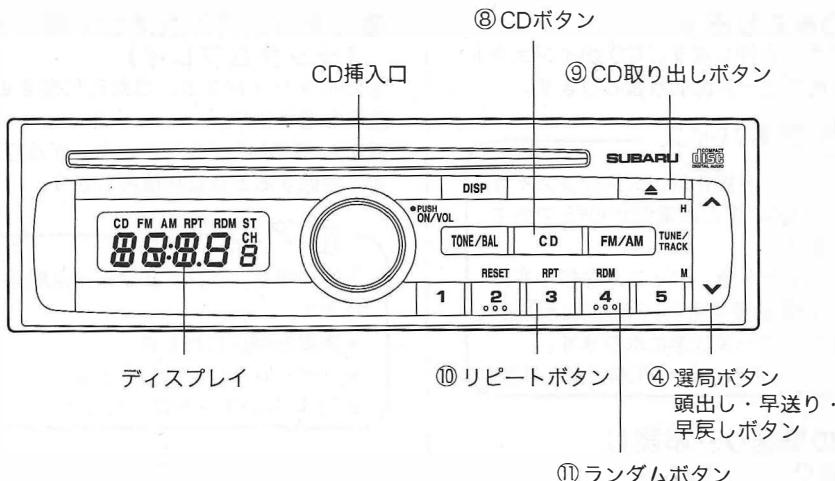
■メモリーの呼び出し

⑦のボタンのいずれかを押します。

アドバイス

バッテリーを交換したときなどはメモリーが消去されます。この場合、再度メモリーしてください。

CDを聞くには



■CDを聞くには

●CDが入っていないとき

CD のラベル面を上にして CD 挿入口に差し込みます。

CD インジケーターが点灯し、演奏が始まります。

●CDが入っているとき

⑧のボタンを押すと、演奏が始まります。

アドバイス

- CD 演奏中はトラック No. を表示します。
- 8 cm CD は 8 cm 用アダプターを使用せず、そのまま挿入してください。アダプターを使用すると、ディスクが取り出せないなど損傷の原因となります。

■曲の頭出しをするとき

●先の曲にするとき

④のボタンの上側を頭出ししたい曲数分押します。押すごとに先の曲の頭出します。

●手前の曲にするとき

④のボタンの下側を頭出ししたい曲数分押します。1 回押すと今聞いている曲の先頭になり、押すごとに手前の曲の頭出します。

■CDを取り出す

⑨のボタンを押します。CDがイジェクトされ、前のモードに切り替わります。

アドバイス

- ・イジェクト操作は、エンジンスイッチがACCまたは電源がOFFでもできます。
- ・イジェクト後、ディスクを抜かずには15秒間放置すると、自動的に引き込まれ、ポーズ状態になります。
(エンジンスイッチがONのときのみ)

■曲の早送り、早戻し

●早送り

④のボタンの上側を0.5秒以上押します。押している間早送りし、手を放したところから演奏を始めます。

●早戻し

④のボタンの下側を0.5秒以上押します。押している間早戻しし、手を放したところから演奏を始めます。

■同じ曲を繰り返し聞くとき (リピートプレイ)

繰り返し聴きたい曲の演奏中に⑩のボタンを押します。

押すと“RPT”インジケーターが点灯します。解除するときは再度押します。

アドバイス

下記の場合、リピートプレイは解除されます。

- ・演奏を停止したとき
- ・ランダムプレイにしたとき
- ・CD以外のモードにしたとき

■曲を自動的に選ばせて聞くとき (ランダムプレイ)

⑪のボタンを押すと、自動的に曲を選び、演奏を始めます。

押すと“RDM”インジケーターが点灯します。解除するときは再度押します。

アドバイス

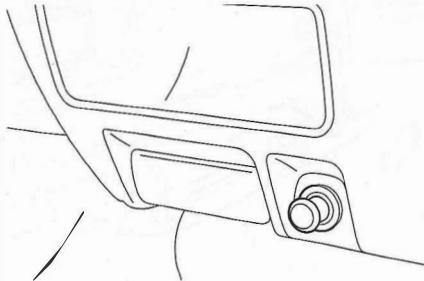
下記の場合、ランダムプレイは解除されます。

- ・演奏を停止したとき
- ・リピートプレイにしたとき
- ・CD以外のモードにしたとき

室内装備

シガーライター×

エンジンスイッチがACCまたはONのとき
シガーライターを押し込みます。
手を放し、自動的に戻るまで待ちます。



⚠ 注意

シガーライターとして使うとき

- ・シガーライターの金属部分に触れないでください。やけどをすることがあります。
- ・押さえつけたままにしないでください。シガーライターが過熱して危険です。
- ・30秒以上たっても戻らないときは手で引き出してください。
- ・他車のシガーライターを使用しないでください。戻らなくなることがあります。

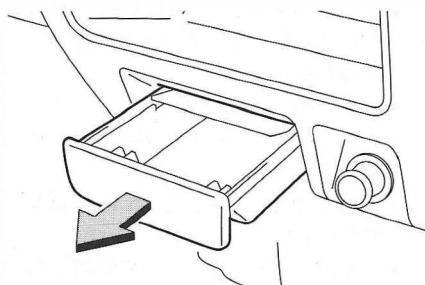
ソケットから電源を取るとき

- ・スバル純正品の使用をお奨めします。
 - ・タコ足配線はしないでください。発火することがあります。
 - ・銀紙、硬貨などの異物を入れないでください。
 - ・電源ソケットにプラグが合わない（ガタがあったり、きつくて入らない）場合は、接触不良や抜けなくなる原因となります。ソケットに合ったプラグをご使用ください。
 - ・エンジン停止状態またはアイドリング状態のまま電気製品を長時間使用すると、バッテリー上がりを起こすことがありますのでご注意ください。
- また、走行中の使用でも不要になら切るように心がけてください。

灰皿

■前席用灰皿

使うときは手前に引き出します。
外すときは遮熱板を下に押して引き出します。



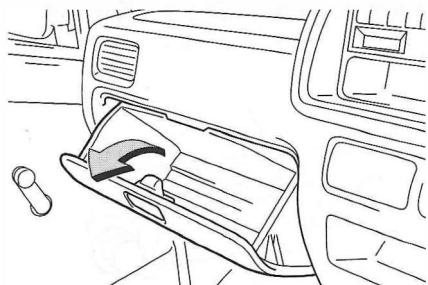
注意

灰皿を使うときは

- マッチ、タバコは完全に火を消してから入れ、確実に閉めてください。開けたままにするとタバコの火が他の吸ガラに燃え広がり、周囲をこがすことがあります。さらに火災になることがあります。
- 紙くずなど燃えやすいものを入れないでください。
- 吸ガラをため過ぎないでください。

グローブボックス

小物や書類を入れるのに使います。
取っ手を引いて開けます。



注意

走行中は

グローブボックスを必ず閉めてください。万一の場合、開いたフタに体が当たるなどして思わぬけがをすることがあります。



アドバイス

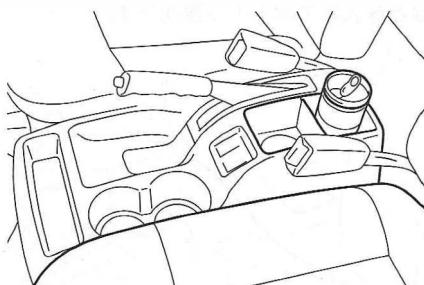
車から離れるときには

車から離れるときには盗難防止のためにも貴重品は持参してください。

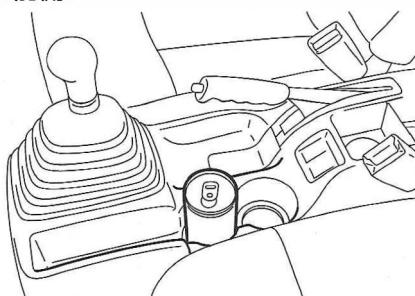
センターコンソールボックス

■カップホルダー

<後ろ側>



<前側>



⚠ 警告

飲み物の出し入れは信号待ちなどの停車中にしてください。走行中の使用は思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

飲み物をこぼさないように急発進急ブレーキに注意してください。
熱い飲み物がこぼれると、やけどをするおそれがあります。

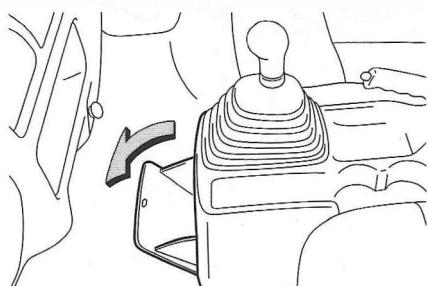
⚠ アドバイス

後ろ側のカップホルダー内の仕切板を外すと、物入れとして使えます。

■カンガルーポケット

センターコンソールボックスの前側にあります。

フタを押すと開きます。

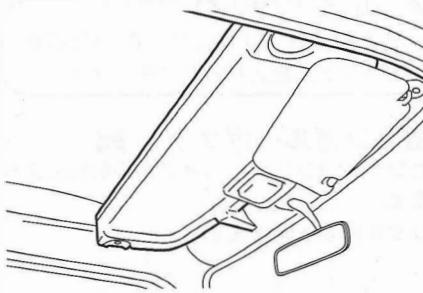


⚠ 注意

使わないときは閉じてください。

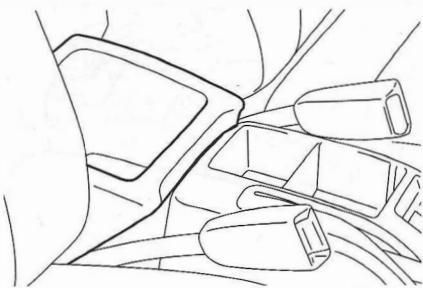
オーバーヘッドラック

伝票、カバンなどをしまうのに使用します。



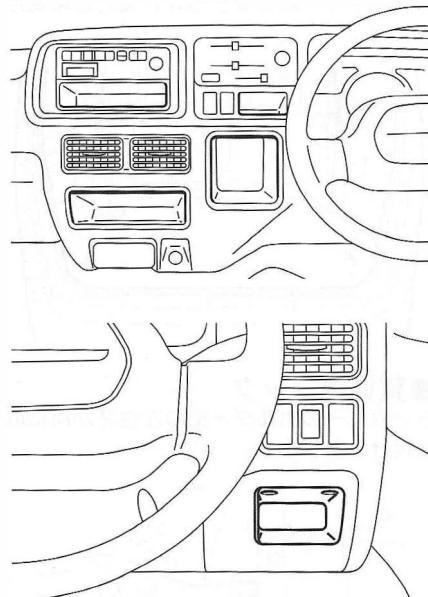
リヤトレー

センター コンソールボックス後部にあり、ペットボトル、水筒、ティッシュボックスなどを入れておくのに便利です。



小物入れ

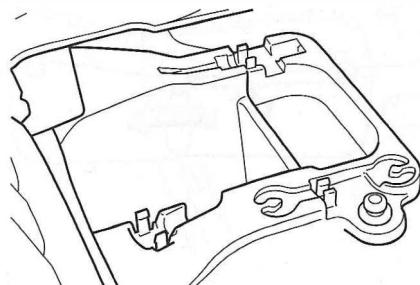
小物、手回り品などを入れておくのに便利です。



パーソナルボックス×

工具、タイヤチェーン、ウエスなどを入れておくのに便利です。

また、車載工具の収納ホルダーは工具のワンタッチ脱着ができます。

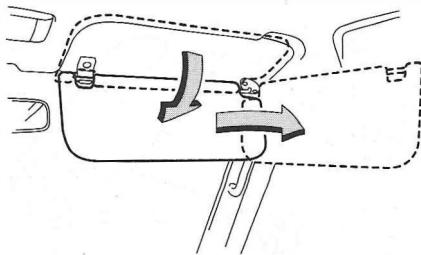


注意

パーソナルボックスの中は高温になりますので、スプレー缶、ガスライターなどは入れないでください。

サンバイザー

横に回すときはフックから外して使用します。運転席側にはチケットホルダーがついています。



フック ×

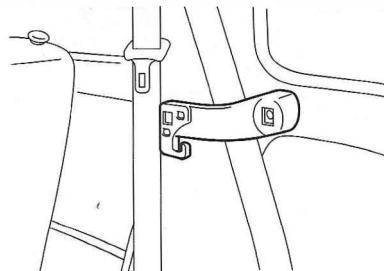
■カーゴフック

荷室に4か所取り付けてあります。カーゴルームネットなどを引っかけるときに使用します。



■買い物フック

トノカバーのホルダー部の左右2か所に取り付けてあります。



アドバイス

カーゴフックを使うとき

このフックはカーゴルームネットなどの固定、引っかけの用途だけに使用してください。

許容引っ張り荷重：20 kg

買い物フックを使うとき

買い物袋など軽量物の引っかけの用途だけに限定してください。

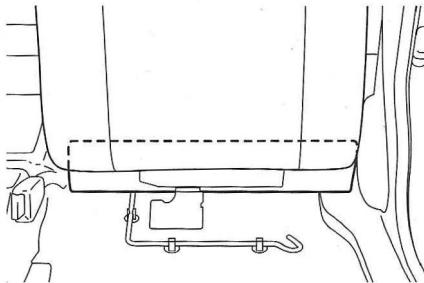
許容荷重：3 kg

三角表示板の格納 ✪

(トラック、パネルパン)

助手席背当て下側に格納することができます。

- ①シートクッションを起こします。
- ②ジャッキを外します。
- ③三角表示板を格納します。



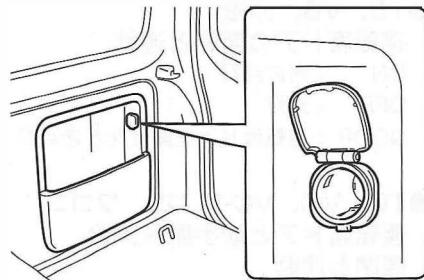
アドバイス

三角表示板の大きさによっては格納できないタイプもあります。

カーゴソケット ✪

カーゴルーム右側にあります。

エンジンスイッチがACCまたはONのときに12V直流電源が取り出せます。自動車用電気製品の電源ソケットとしてご使用ください。



注意

- 自動車用電気製品は必ず12V 120W以下のものをご使用ください。
- タコ足配線はしないでください。発火することがあります。
- 銀紙、硬貨などの異物は入れないでください。
- 電源ソケットにプラグが合わない(ガタがあつたり、きつくて入らない)場合は、接触不良や抜けなくなる原因となります。ソケットに合ったプラグをご使用ください。
- エンジン停止状態またはアイドリング状態のまま電気製品を長時間使用するとバッテリー上がりを起こすことがありますのでご注意ください。また、走行中の使用時も不要になったら切るように心がけてください。
- ご使用にならないときは必ずカバーを閉じておいてください。ゴミなどが入り、故障の原因になります。

ルームランプ

■ トラック、バン、ワゴン

●郵政：ON、OFFのみ

ON : 常に点灯

OFF : 消灯

●TB、VB、赤帽：

運転席ドアの開閉と連動

ON : 常に点灯

OFF : 消灯

DOOR : 運転席ドアを開けたとき点灯

●TC、VC、VC-PLUS、ワゴン：

運転席ドアと助手席ドアの

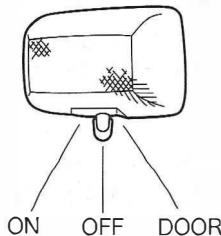
開閉と連動

ON : 常に点灯

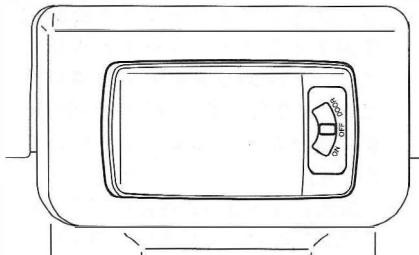
OFF : 消灯

DOOR : 運転席ドアか助手席ドアを開
けたとき点灯

〈標準〉



〈大型〉



アドバイス

車から離れるときは、消灯しているこ
とを確認してください。
点灯しているとバッテリー上がりの
原因になります。

荷室ランプ

■バン、ワゴン

●VB: ON、OFFのみ

ON : 常に点灯

OFF : 消灯

●VCトランスケア :

運転席ドアの開閉に連動

ON : 常に点灯

OFF : 消灯

DOOR : 運転席ドアを開けるとルーム

ランプと荷室ランプ同時点灯

●郵政 : 左スライドドアと

リヤゲートの開閉と連動

ON : 常に点灯

OFF : 消灯

DOOR : 左スライドドアかリヤゲート

を開けたときに点灯

●ワゴン、VC、VC-PLUS、赤帽 :

左右スライドドア、リヤゲートの

開閉と連動

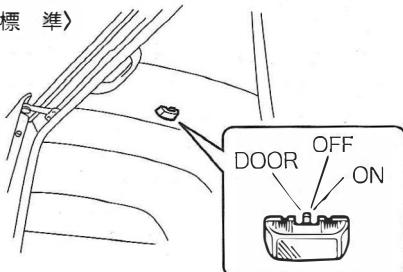
ON : 常に点灯

OFF : 消灯

DOOR : 左右スライドドア、リヤゲート

を開けたときに点灯

〈標準〉



アドバイス

車から離れるときは消灯を確認してください。点灯しているとバッテリー上がりの原因になります。

MEMO

5

寒冷地での使いかた

・寒冷地での使いかた 5 - 2

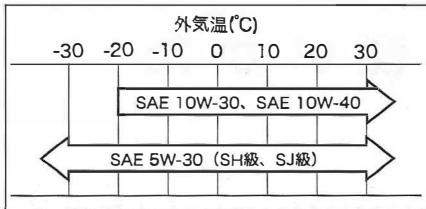
- ・冬の前の準備、点検 走行する前に
- ・走行するときは 駐車するときは
- ・洗車するときは タイヤチェーンの装着

寒冷地での使いかた

冬の前の準備、点検

■エンジンオイル

下表を参考に、外気温度に応じたエンジンオイルをご使用ください。



アドバイス

エンジンオイルは、スバル純正エンジンオイル5W-30 (SJ級) をお奨めします。

■冷却水の濃度点検

外気温度に応じ、下表の混合割合にしてください。

冷却水の濃度	凍結温度
30%	約-15 °C
50%	約-35 °C

冷却水はスバル純正スバルクーラントを使用してください。

■ウォッシャー液の濃度点検

ウォッシャー液の凍結を防ぐため、補充用ウォッシャー液容器に記載してある凍結温度を参考に、外気温度に応じた濃度にしてください。ウォッシャー液交換（補充）後は噴射してください。



注意

外気温度と濃度を合わせてください。濃度が合っていない場合、ウインドウガラスに噴射した液が凍結し、視界不良になるおそれがあります。また、タンク内で凍結することがあります。

■バッテリー

気温が下がるとバッテリーの性能が低下し、エンジン始動に支障をきたすことがあります。バッテリーの液量、比重を点検し、必要に応じて液の補充や充電をしてください。

■燃料タンクの水分除去

燃料タンク内の水分をスバル純正水分除去剤で除去されることをお奨めします。

■寒冷地用ワイパープレードの装着

- 降雪期は寒冷地用ワイパープレードを使うと雪の付着が防げ、視界の確保ができます。
- 寒冷地用ワイパープレードは、お車のサイズに合ったスバル純正部品をご使用ください。

走行する前に

■冬用タイヤ、タイヤチェーン

- 冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）に切り替えるときは、4輪とも必ず、指定サイズ、同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。
- タイヤサイズに合ったタイヤチェーンを準備してください。

☆5-7ページ参照

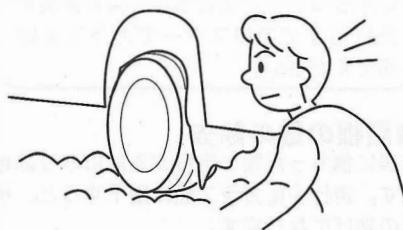


アドバイス

タイヤチェーンを取り付けるときに着用する手袋、余ったチェーンをしばる針金なども準備しておくことをお奨めします。

■足廻りの点検

車の下をのぞいて足廻り（ブレーキ廻り、ブレーキホース）に雪や氷のかたまりがついていないか点検してください。雪道を走行したり、吹雪の中に駐車したときは足廻りに雪や氷が凍結し、ハンドルの切れが悪くなることがあります。



付着している雪や氷を取り除いてください。



注意

鋭利なものや硬いもので叩いたりして車を傷つけないでください。

ABS 装着車は各タイヤ内側に車速センサーが取り付けてあります。パワーステアリング車は前輪右側のホイールハウス内にモーターがあります。これらに傷をつけないようにとくに気をつけてください。

■ワイパークリーナーの凍りつきの点検

凍りついた状態でワイパーを作動させるとワイパークリーナーのゴムが切れることがあります。



アドバイス

ワイパークリーナーがフロントガラスに凍りついているときは、ぬるま湯をかけるかデフレスターでガラスを暖めてください。

■屋根の雪の除去

屋根に積もった雪を走行する前に取り除きます。走行中にガラス面に落下すると、視界の妨げになります。

■フロントガラス下側の雪の除去

雪がたまっているとワイパークリーナーが定位位置まで戻れず、作動し続けることがあります。

■ガラス面の雪や霜の除去

プラスチックの板などを使用し、雪や霜を除去してください。



アドバイス

金属製のものを使用するとガラスに傷がつくおそれがあります。

■ドアを開けるとき

ドアが凍結しているときは無理に開けるとドア廻りのゴムがはがれたり、亀裂が発生することがあります。ぬるま湯をかけて氷を溶かしてから開けてください。その後水分を充分拭き取ってください。



アドバイス

ドアのキー穴にはぬるま湯をかけないでください。凍結することがあります。

■乗るときには

靴についた雪や氷をよく落としてください。ペダルを操作するときに滑ったり、室内の湿気が多くなってガラスが曇ることがあります。

■暖機運転中

アクセルペダル、ブレーキペダルなどの操作が円滑にできるかを確認してください。

■ワイパーなどの凍結

ワイパー、パワーウィンドウなどが凍って動かない場合は無理に動かそうとしてスイッチを押し続けたりすると、装置を傷めたり、バッテリー上がりを起こすおそれがあります。

走行するときは

■控え目な運転を心がけてください

タイヤチェーン、冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）を装着しての急発進、急加速、急ブレーキ、急ハンドルは避けてください。エンジンブレーキを使って速度をコントロールするように心がけてください。なお、滑りやすい路面では急激なエンジンブレーキは効かせないでください。タイヤがスリップするおそれがあります。



アドバイス

雪道や凍結路など滑りやすい道では、発進時2速ギヤの使用をお奨めします。(MT車)

■ブレーキの効きを点検してください

ブレーキに雪や氷が付着して効きが悪くなることがあります。

走行を開始するとき、車や道路の状況に注意してブレーキの効きを確認してください。効きが悪い場合には、回復するまでブレーキを軽く踏み続けてください。

ブレーキの効きが回復しないときはブレーキの異常が考えられますので、直ちにスバル販売店で点検を受けてください。

■ハンドルの切れを点検してください

走行中、足廻りに雪が付着するとハンドルの切れが悪くなることがあります。ときどき異常のないことを確認してください。

駐車するときは

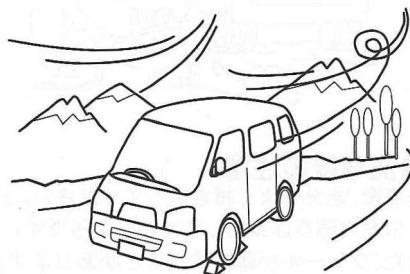
■ブレーキの凍結に気をつけてください

駐車ブレーキを引いておくと、駐車ブレーキが凍結することがあります。

次の要領で駐車してください。

- マニュアル車は“1”速か“R”に入れます。
- オートマチック車は□に入れます。
- 輪止めをします。

車の前方を風下に向けて駐車します。



■屋外に駐車するときは、ワイパーームを立てておいてください

ワイパーブレードがガラスに貼りつくことがあります。

■車体に多量の積雪がある状態で放置しないでください

凍結などにより、車両に悪影響を受けることがあります。

☆1-20ページ参照

洗車するときは

■凍結防止剤を散布した道路を走ったとき

凍結防止剤はサビの原因になります。早めに下廻りを洗車してください。



■洗車後の注意

洗車後、水分をよく拭き取ってください。とくにドア廻りは凍結しやすいところです。また、ブレーキが凍結することがあります。車や道路の状況に注意して効きを確認してください。

タイヤチェーンの装着

- 雪道走行が事前に予測される場合には4輪ともスタッドレスタイヤ【必ず4輪とも同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）】を装着してください。
- タイヤチェーンは添付されている取扱説明書にしたがって、正しく取り付けてください。
- タイヤチェーンは予測できない降雪や雪道に遭遇した場合などの非常時のみ、後輪に取り付けてください。
4WD車の場合も、チェーンは後輪に取り付けてください。前輪に装着しないでください。
- タイヤチェーンを装着しても路面の状況によってはスリップしたり、登坂能力が低下する場合があります。
- アルミホイール、フルホイールキャップ装着車にタイヤチェーンを取り付けると、アルミホイール、フルホイールキャップに傷がつく場合があります。



注意

- タイヤチェーンを取り付けると前後のバランスが変わるために、前輪が比較的滑りやすくなります。急発進、急ブレーキ、急ハンドルなどを避けて、路面の状況に合った安全な速度（30 km/h以下）で慎重に運転してください。
- 乾いた路面を走行するとチェーンの寿命を短くします。できるだけ避けてください。
- タイヤチェーンを装着したらタイヤの内側の部分がブレーキ配管、サスペンション、車体などに触れていないか必ず確認してください。
- タイヤチェーン装着後はゆっくりと走行し（100 m程度）、異音やタイヤチェーンのたるみなどを確かめてください。

■タイヤサイズに合ったものを使用してください

タイヤチェーンは「スバル純正チェーン」を使用してください。市販のJISチェーンは、一般用のため、長過ぎて余ったチェーンが車体に当たる場合があります。このような場合は余ったチェーンを切るか、針金などで固定してください。

市販のゴムネットチェーンの中には装着できないものもあります。

タイヤサイズ	スバル純正チェーン		市販JIS チェーン
	スチールチェーン	サイルチェーン	
145R12	B3155TA011	B3176KC002	45170
155/80R12	B3155TA010	B3176GA018	45180
165/70R13	B3115GA001	B3176GA019	45180

■標準的なタイヤチェーン(スチールチェーン)の取り付けかた

タイヤチェーンは後輪に取り付けます。

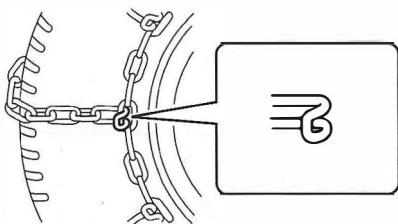
前輪には取り付けないでください。

アドバイス

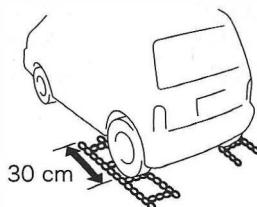
タイヤチェーンを取り付けるときは、手袋などを着用してください。

①交通のじゃまにならず、安全に作業できる平らな場所に車を止め、ハンドブレーキを引きます。

②クロスチェーンのつなぎ部が外側になるようにチェーンをタイヤの前か後ろに敷きます。逆にするとタイヤを傷めます。

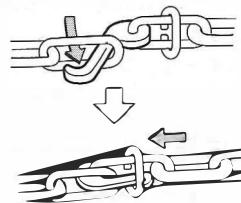


③先端のフックから 30 cm 位になるまで車を移動させます。

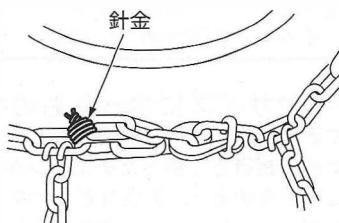


④チェーンをタイヤに巻き付けていっぱいに引き、内側フック、外側フックの順に連結します。

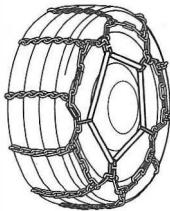
内側と外側の余りが同数になるように連結します。



⑤余ったチェーンを針金で固定し、車体に当たるのを防止します。



- ⑥チェーンバンドのクリップを外向きにし、円周をほぼ等分するようにチェーンを張ります。



- ⑦少し走り、取り付け状態（ゆるみ、当たり）を確認します。

●外しかた

チェーンバンドを外し、針金を取って内側フックを外すとチェーンは外側に外れます。

車を少し動かしてチェーンを取り出します。

■その他の取り付けかた

ジャッキアップして取り付ける方法があります。慣れないかたにお奨めします。作業がやりやすく、確実に取り付けられます。

■使用後の手入れ

使用後は水洗いして乾燥させ、防錆剤を塗り保管します。

クロスチェーンが線径の1/3まで摩耗すると寿命です。早めに新品のタイヤチェーンを準備してください。

MEMO

6

万 一 の と き

・故障したとき	6-2	
・踏み切りで動けなくなったとき		
・自動車専用道路で動けなくなったとき		
・路上で動けなくなったとき		
・故障時の対応方法と連絡先		
・事故が起きたとき	6-4	
・工具、発炎筒、スペアタイヤ、 ジャッキ・ジャッキハンドル	6-5	
・工具	・発炎筒	・スペアタイヤ
・ジャッキ・ジャッキハンドル		
・タイヤ交換	6-9	
・タイヤ交換手順		
・けん引のとき	6-13	
・けん引されるとき	・他車をけん引するとき	
・オーバーヒートしたとき	6-17	
・バッテリーが上がったとき	6-19	
・ヒューズの点検・交換	6-21	

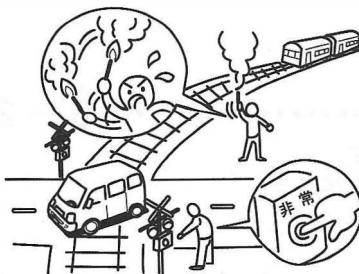
故障したとき

故障したとき

踏み切りで動けなくなったとき

脱輪などで脱出できないとき、非常ボタンがある踏切では、非常ボタンを押してください。

非常ボタンがない、位置がわからない、緊急を要するときは、発炎筒を使い合図をしてください。



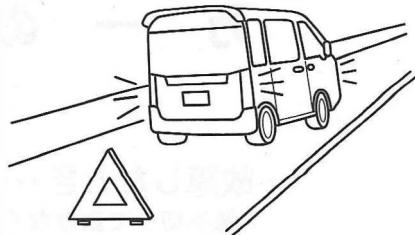
アドバイス

マニュアル車、オートマチック車ともエンジンスイッチをスタート位置で保持して（スターターをまわしている状態）、一時緊急的に車を動かすことはできません。

- オートマチック車は[P]レンジおよび[N]レンジ以外ではスターターが回りません。
- マニュアル車はクラッチペダルを踏まないとスターターが回りません。

自動車専用道路で動けなくなったとき

①車を路肩など安全な場所に止め、非常点滅表示灯を点滅させ、車の後方に停止表示板または停止表示灯を置いてください。



②全員車から降り、ガードレールの外など安全な場所に、すみやかに避難してください。



③安全を確保後、救援を頼みます。

アドバイス

- 停止表示板（停止表示灯）の設置は法律で義務づけられています。
- 停止表示板（停止表示灯）は車載されていませんので、必要に応じて準備してください。

路上で動けなくなったとき

- ①あわてず、もう一度エンジンをかけてみてください。
- ②エンジンがかかるないときは、同乗者や付近の人に押してもらって安全な場所に移動してください。そのときチェンジレバー、セレクトレバーは[N]にします。

故障時の対応方法と連絡先

- ①車を安全な場所に移動する等、可能な範囲で安全を確保してください。
- ②最寄りのスバルネットワーク（特約店、スバルプロット店、スバルスコープ店）に連絡し、ご相談ください。
- ③スバルネットワーク店に連絡が取れない場合はJAFロードサービスに連絡し、ご相談ください。



アドバイス

- スバルネットワーク店とJAFロードサービスの連絡先はメンテナンスノートに記載されています。
なお、JAFは電話番号:#8139（ロードサービスセンター）にて、全国からご相談できます。
- 万一のために、JAFに入会されることをお奨めします。

事故が起きたとき

あわてず次の処置をしてください。

①続発事故の防止につとめてください

交通の妨げにならないような安全な場所に車を移動させ、エンジンを止めます。

②負傷者の救援につとめてください

負傷者がいる場合は、医師、救急車が到着するまでの間、可能な応急手当を行います。

③警察へ届け出をしてください

事故が発生した場所、状況、負傷者の有無や負傷の程度などを連絡します。

④相手方の確認とメモをおとりください

相手方の氏名、住所、電話番号などを確認してメモします。

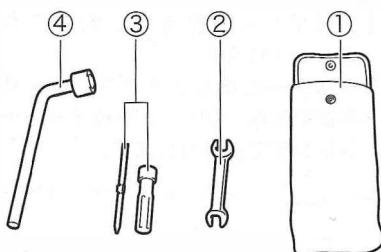
同時に事故状況もメモしておいてください。

⑤スバル販売店と保険会社へ連絡してください

ご購入されたスバル販売店と加入の保険会社へ連絡します。

工具、発炎筒、スペアタイヤ、ジャッキ・ジャッキハンドル

工具



●搭載工具

- ①ツールバッグ
- ②スパナ (10×12)
- ③ドライバー (プラス、マイナス兼用)
- ④ホイールナットレンチ



アドバイス

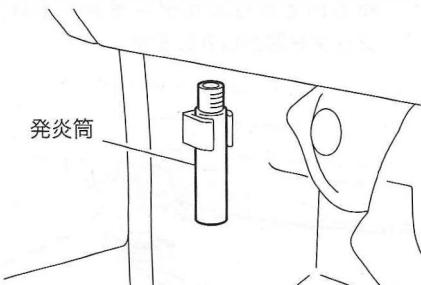
工具は、グローブボックスまたは助手席下の工具収納スペースなど決まった場所に置いておくと、万一のときすぐ取り出せます。

この他に必要と思われる工具もそろえておくと、点検や手入れのとき役立ちます。

発炎筒

発炎筒はグローブボックス左下のボディに取り付けてあります。

使用方法は発炎筒の外側に書いてありますのであらかじめ確認しておいてください。



警告

- ガソリン、車など燃えやすい物のそばで使わないでください。引火することがあります。
- 発炎筒をお子さまにはさわらせないでください。いたずらなどにより発火し、思わぬ事故になって重大な傷害につながるおそれがあります。
- 箔先を顔や体に向けたり、人に近づけたりしないでください。やけどをすることがあります。
- トンネルの中では使用しないでください。煙が視界を悪くするので危険です。トンネルの中では非常点滅灯を使用してください。



アドバイス

発炎筒には有効期限が明示されています。期限切れのものは新品と交換してください。

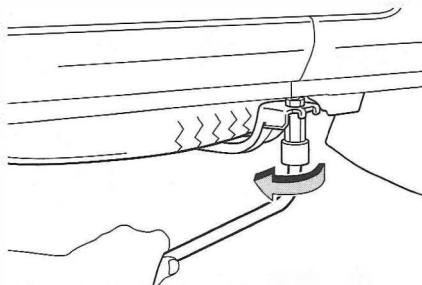
スペアタイヤ

■ フゴン、バン

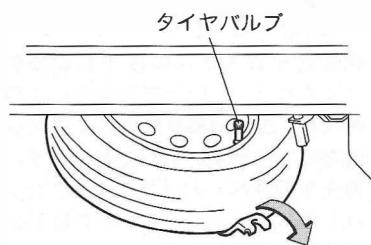
車体右下の床下にあります。

●取り外し

- ①袋ナットをホイールナットレンチでゆるめてからホルダーを持ち上げ、フックを溝から外します。



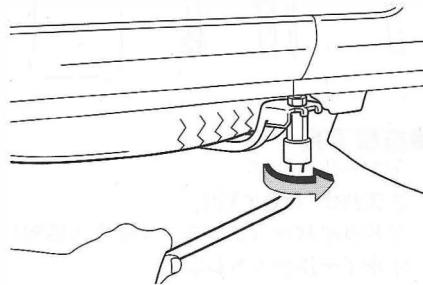
- ②ホルダーを下に降ろします。



- ③スペアタイヤを取り出します。

●取り付け

- ①タイヤバルブ側を上に向けてホルダーに入れます。
- ②ホルダーを持ち上げてフックを溝の奥まで入れ、袋ナットをホイールナットレンチで締め付けます。



注意

スペアタイヤを脱着したとき、万一、ゆるみなどで取り付けが不完全な状態になっていると、走行中脱落して思わぬ事故となり、危険です。

取り付け後は、取り付け状態を充分に確認してください。



アドバイス

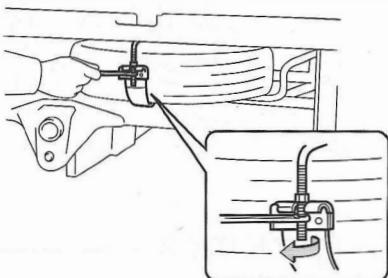
取付部の変形などを確認し、異常がなければ調整ナットを回して上にあげ、さらに袋ナットを締め付けます。
最後に調整ナットを締め付けます。

■ トラック、パネルバン

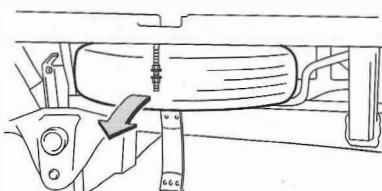
右側のフレームと荷台床下の間にあります。

●取り外し

- ナットをスパナでゆるめてからスペアタイヤを手で支え、フックをバンドの溝から外します。

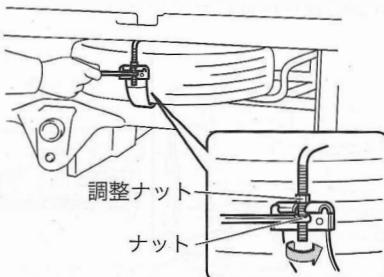


- バンドを外し、スペアタイヤを取り出します。



●取り付け

- タイヤバルブ側を上に向け、ホルダーに確実に入れます。
- タイヤを手で支えながらフックをバンドの溝の奥まで入れ、スパナでナットを締め付けます。



注意

スペアタイヤを脱着したとき、万一、ゆるみなどで取り付けが不完全な状態になっていると、走行中脱落して思わぬ事故となり、危険です。

取り付け後は、取り付け状態を充分に確認してください。



アドバイス

取付部の変形などを確認し、異常がなければ調整ナットを回して上にあげ、さらにナットを締め付けます。
最後に調整ナットを締め付けます。

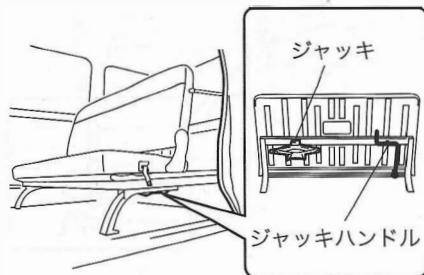
ジャッキ・ジャッキハンドル

■ワゴン、バン

ジャッキはリヤシート下のデッキ裏側に取り付けられています。

取り出すときは、左側スライドドアを開け、ジャッキを縮めて取り出します。

ジャッキハンドルは、リヤシートのデッキ裏側に取り付けられています。



■トラック、パネルバン

ジャッキ、ジャッキハンドルとともに助手席シートクッションの下に取り付けられています。

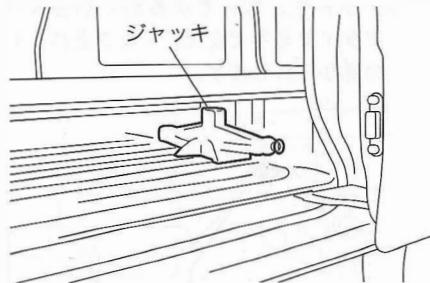
取り出すときは、助手席シートクッションを起こし、ジャッキを縮めて取り出します。ジャッキハンドルはホルダーから外します。



■バン2シーター

ジャッキはデッキ下のフロアの左側に取り付けてあります。

ジャッキハンドルはデッキ裏側にあります。



アドバイス

- ジャッキを取り付けるとき、ドライバーなどで無理に広げないでください。
- ときどきジャッキを点検してください。ネジ部のグリースが切れていたら、うすく塗ってください。

タイヤ交換

⚠ 警告

- ジャッキアップしたら車両の下に絶対に入らないでください。ジャッキが外れると重大な傷害につながるおそれがあります。
- ジャッキアップしたら車の中に入ったり、車体に振動を与えないでください。ジャッキが外れることがあり危険です。
- ジャッキアップしたらエンジンを始動しないでください。車が発進し、重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 注意

ジャッキを使うときは、次のことを必ず守ってください。

- 平坦で硬いところに駐車して、作業してください。
- ジャッキは必ず車載されたものを使い、他車のジャッキは使わないでください。車載のジャッキ以外のものを使用した場合、ジャッキが外れたり、車体を変形させるおそれがあります。
また、車載されたジャッキは他車には使用しないでください。
- ジャッキはタイヤ交換またはタイヤチェーンの脱着以外には使わないでください。
- ジャッキ使用前にハンドブレーキを引き、オートマチック車はセレクトレバーを[P]にマニュアル車はシフトレバーを“R”にしてください。
- 輪止めなどで車を固定してください。
- ジャッキの上下に台やブロックなどを入れないでください。
- 人や重い荷物は必ず車から降ろしてください。

↑ アドバイス

- タイヤを取り付けた後、1,000 km程度走行したら、もう一度規定の力で締め直してください。

☆6-12ページ参照

- 車体に振動が出たらスバル販売店で点検整備を受けてください。パンク修理、タイヤの摩耗、リムの変形などが原因でホイールバランスが狂うことがあります。
- ガレージジャッキなどを使用してジャッキアップする場合、スバル販売店にご相談ください。
- 前・後輪でタイヤの仕様が異なる車で、前輪がパンクしたとき、パンク修理が終わったタイヤはすみやかに元の前輪に戻してください。

タイヤ交換手順

■交換前にすること

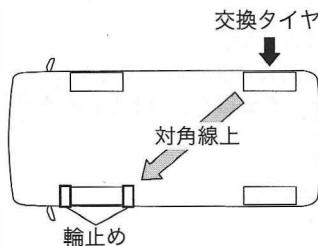
- ①交通の妨げにならず、安全に作業ができる場所に車を止めます。



注意

車が安定する平坦で硬いところに駐車してください。

- ②非常点滅灯を点滅させ、人や荷物を降ろし、停止表示板を使用します。
 ③ハンドブレーキを引きます。
 ④車が動き出さないように、交換するタイヤと対角線上にあるタイヤの前後に輪止めをします。

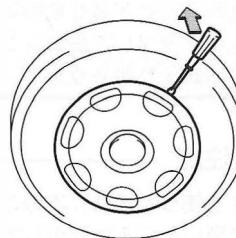


- ⑤ジャッキ、ジャッキハンドル、スペアタイヤ、工具を取り出します。

☆6-5ページ参照

- ⑥スペアタイヤを、交換するタイヤ近くの車体下に置きます。

- ⑦フルホイールキャップ装着車はホイールキャップを外します。ホイールキャップ外周にドライバーを差し込み、タイヤ側にこじって外します。



■ジャッキアップするとき

- ①交換するタイヤに近いジャッキアップポイントにジャッキをセットし、車体に当たるまで手で回して上げます。

⚠ 注意

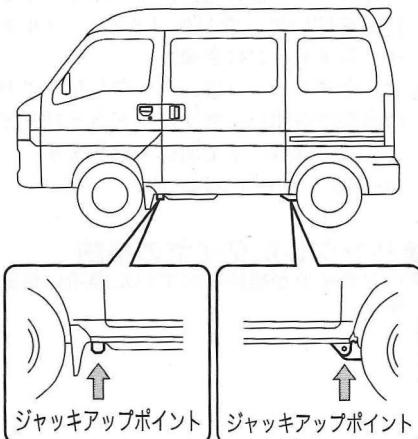
ジャッキが確実に車体のジャッキセット位置にかかっていることを確認してください。

セット位置以外にかかっていると車体を傷つけたり、ジャッキが倒れて転がをすることがあります。

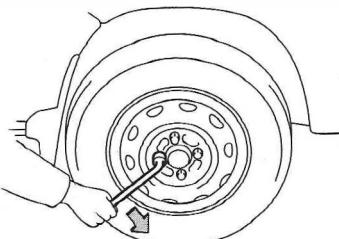
- ②ジャッキハンドルを使い、タイヤが地面から少し離れるまで車体を上げます。

⚠ 注意

車体を上げ過ぎないでください。必要以上に車体を高く上げると不安定になり、ジャッキが外れて思わぬ転がをすることがあります。



- ②ホイールナットレンチを使い、ホイールナット全てを1回転程度ゆるめます。



■タイヤ交換

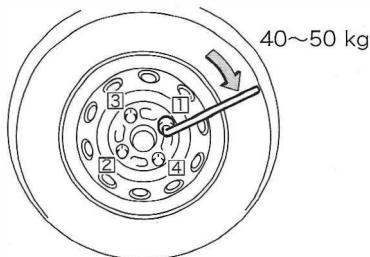
- ①ホイールナットを外します。
- ②タイヤを取り替えます。
このとき、ホイールの接触面の汚れを拭き取ります。

アドバイス

タイヤを地面に置くときは、ホイール表面を上にして置いてください。
下にして置くと、ホイールに傷がつくおそれがあります。

- ③ホイールナットを手でいっぱい回します。
ホイールが動かない程度までホイールナットを仮締めします。
- ④ジャッキを降ろします。
- ⑤図の順番に2、3回に分けてホイールナットを締め付けます。

レンチの柄の先端 にかける力	締付トルク (参考)
40~50 kg	8~10 kg·m



注意

- ホイールナットを締め付けるとき、ホイールナットレンチを足で踏んだり、パイプなどを使って必要以上に締め過ぎないでください。
- ナット、ホイール座面、ネジ部にオイルやグリースなどがついていないようにしてください。油がついていると、締め過ぎの原因になります。

- ⑥フルホイールキャップのバルブ穴とタイヤのバルブを合わせ、ホイールキャップ外周を叩いて、取り付けます。(フルホイールキャップ付き車)
- ⑦センターキャップは、パンクしたタイヤの裏側から叩いて外すか、ドライバーでこじって外し、手で叩いてはめます。
(センターキャップ付き車)

■パンクしたタイヤの格納

スペアタイヤが格納されていた場所に格納します。

けん引のとき

車の故障などでけん引が必要な場合は、安全のため必ずスバル販売店に依頼してください。出先では、メンテナンスノート巻末の「スバルサービス網一覧」を参考にスバル特約店、販売店、JAFに依頼してください。

けん引されるとき

■けん引方法の違い

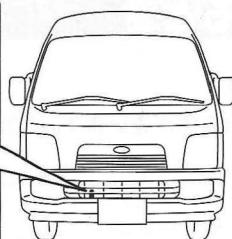
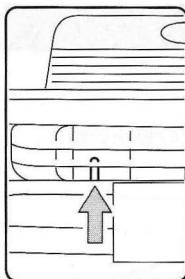
やむを得ずけん引する場合、車の仕様によりけん引方法が違います。下記の表を参照し、車の仕様にあたったけん引をしてください。

けん引の種類	A : 車載	B : 後輪持ち上げけん引	C : ロープけん引	けん引条件
	(○ : 可能 × : 不可 △ : 条件付きで可能)			
けん引の種類	A 車載	B 後輪 持ち上げ けん引	C ロープ けん引	■条件 : 走行速度30 km/h以下、走行距離30km以内で走行してください。
仕様				(注) : セレクティブ4WD車は、必ず4WDを解除してください。解除できない場合は車載してください。
2WD車	マニュアル車	○	○	○
	オートマチック車	○	○	△条件
4WD車	セレクティブ車	○	○(注)	○(注)
	フルタイム車	○	×	○
	オートマチック車	○	×	△条件

■ロープによるけん引

やむを得ず4輪を接地させてロープでけん引を行う場合は、次の方法で行ってください。

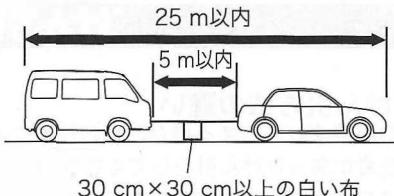
①けん引フックにロープをかけます。



アドバイス

- けん引時は、指定のフックにソフトロープをかけて行ってください。
- バンパーフェースの傷つきを確実に防止するため、ソフトロープとバンパーフェースの間にウエスなどを挟むか、バンパーフェースとロープとのこすれ部分にガムテープなどを貼り付け、保護する処置を合わせて実施してください。

②ロープ中央部に白い布(0.3 m²以上)を付けます。



③マニュアル車、オートマチック車とも「ニュートラル」にします。

④ハンドブレーキを解除し、けん引します。けん引中は、前の車の制動灯に注意してロープをたるませないようにしてください。

⚠ 注意

- スタビライザーなど、けん引フック以外にソフトロープをかけ、けん引することはできません。
故障の原因になるおそれがあります。
- マニュアル車、オートマチック車とも「ニュートラル」にしてください。
- エンジンスイッチをONの位置にしてハンドルが自由に動くことを確認してください。
- 長い坂を下るときはレッカー車にけん引してもらってください。ブレーキが過熱して効かなくなることがあります。
- 急発進などロープに衝撃を与えないよう運転してください。
- エンジンを止めてけん引する場合は、次のような現象が起きます。充分注意して操作してください。
 - ・ブレーキ倍力装置が働かず、ブレーキの効きが悪くなります。
 - ・パワーステアリングが働かず、ハンドル操作が重くなります。
- ハンドブレーキを確実に戻してください。
- ABS付車は、エンジンスイッチONで前輪持ち上げけん引を行った場合、ABS警告灯が点灯する場合があります。これは、前後の車輪速度が通常状態でないことを検出するためで、異常ではありません。
- トランスミッション内部および駆動系部分が故障したと思われるときは必ず車載で（4輪を持ち上げて）けん引してください。

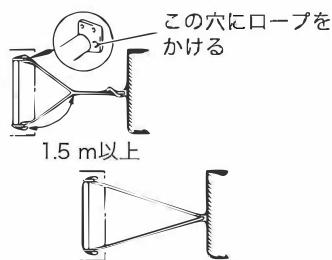
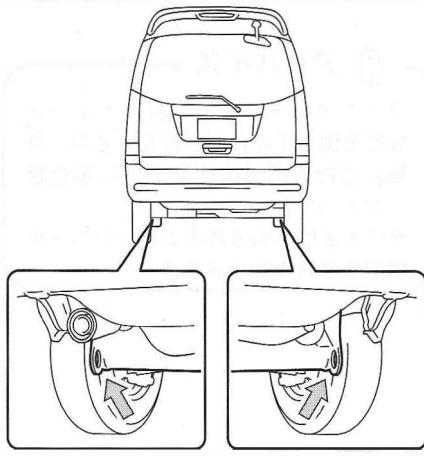
- トランスミッションからのオイル漏れなど、故障の内容によりけん引できない場合があります。オイル漏れを確認してください。

↑ アドバイス

ワイヤーロープや金属製のチェーンなどを使ってけん引されるときは、車体に当たる部分のチェーンに布を巻くなどして行ってください。そのままけん引されると、バンパーが損傷するおそれがあります。

他車をけん引するとき

やむを得ず故障車をけん引するときは、自車より重い車のけん引は避けてください。また、溝に落ちた車の引き上げは行わないでください。



アドバイス

けん引時は、指定のフックにソフトロープをかけて行ってください。

オーバーヒートしたとき

次のようなときは、オーバーヒートです。

- 水温計の針がレッドゾーンに入ったり、エンジンの力が急に落ちる。
 - エンジンルームから蒸気が立ち上っている。
- ☆3-11ページ参照

注意

- ラジエーター付近から水漏れ、水蒸気の吹き出しがあるときは、蒸気が出なくなるまで助手席シート下のサービスホールを開けないでください。
高温になっているため、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。
- ラジエーターが熱いときは、ラジエーターキャップを開けないでください。
ラジエーターが熱いときラジエーターキャップを開けると蒸気や熱湯が吹き出し、やけどの危険があります。

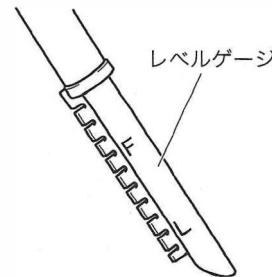
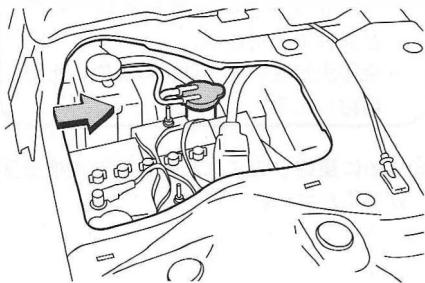
■対処のしかた

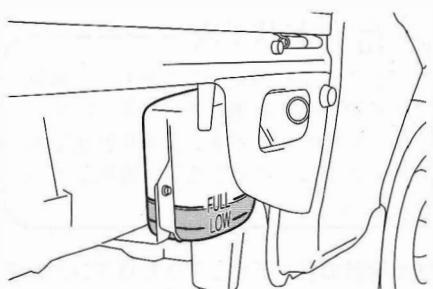
- ①安全な場所に車を止めます。
- ②水漏れ、水蒸気の吹き出しがないときは、エンジンをかけたまま、リヤのバンパーを開けて風通しをよくします。
このとき、冷却ファンが回っていることを確認してください。
ファンが回っていないときは、エンジンをすぐに止めてスバル販売店に連絡してください。

アドバイス

ラジエーター付近から水漏れ、水蒸気の吹き出しがあるときは、すぐにエンジンを止めてください。車を安全な場所に止め、スバル販売店に連絡してください。

- ③水温計の針が下がってきたらエンジンを止めます。
- ④エンジンが冷えてから、冷却水量、水漏れなどを点検します。
- ⑤冷却水が不足しているときは、補給します。ラジエーター注水口の口元まで、リザーブタンクの上限（レベルゲージの“F”）まで補給してください。





アドバイス

- 冷却水は、エンジンが熱いときに入れないでください。急に冷たい冷却水を入れると、エンジンが損傷するおそれがあります。冷却水は、エンジンが充分に冷えてからゆっくりと入れてください。
- 冷却水がない場合は、応急的に水を補給します。

⑥早めに最寄りのスバル販売店で点検を受けてください。

バッテリーが上がったとき

次のようなときは、バッテリー上がりです。

- スターターが回らない、回っても回転が弱くエンジンがかからないとき
- ライトがいつもより極端に暗かったり、ホーンの音が小さいとき



警告

- ブースターケーブルをつなぐ前にバッテリー液量を確認してください。バッテリー液量が下限 (LOWER LEVEL) 以下で充電すると劣化を早めたり、発熱や爆発のおそれがあります。バッテリー補充液を補充してから行ってください。
- ブースターケーブルをつなぐとき、プラス端子とマイナス端子を間違えたり、プラス端子とマイナス端子を絶対に接触させないでください。火花が発生し、バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険です。また、電子機器やエンジン部品を傷めます。
- バッテリーに火を近づけたり、ショート、スパークさせないでください。バッテリーからは、可燃性のガスが発生しているので、引火爆発するおそれがあります。
- バッテリーを充電するときには、すべてのキャップを外し、通気のよい場所で充電してください。発生したガスが充满すると引火爆発のおそれがあります。
- バッテリー液は希硫酸です。バッテリー液が身体につかないように気をつけてください。目や皮膚に付くと重大な傷害につながるおそれがあります。万一付着したときはすぐに大量の水で洗浄し、医師の診断を受けてください。
- バッテリーの液量がバッテリー側面に示されている下限 (LOWER LEVEL) 以下で使用を続けると、容器内各部位の劣化の進行が促進され、バッテリーの寿命を縮めたり、破裂（爆発）の原因となるおそれがあります。



アドバイス

ブースターケーブルを接続するときは次の項目をお守りください。

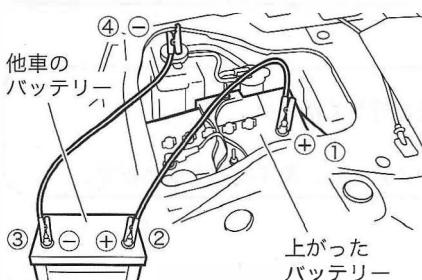
- 12Vバッテリーと接続してください。
- エンジン回転中にバッテリー端子を外さないでください。電子機器を傷めます。

■対処のしかた

押しがけによる始動はできません。
救援車を依頼し、ブースターケーブルを接続してエンジンを始動してください。

●ブースターケーブルの接続手順

- ①一本目（赤）のブースターケーブルを自車のバッテリーのプラス端子につなげます。
- ②一本目（赤）のブースターケーブルを救援車のバッテリーのプラス端子につなげます。
- ③二本目（黒）のブースターケーブルを救援車のバッテリーのマイナス端子につなげます。
- ④二本目（黒）のブースターケーブルを自車の室内のフロアパネルにつなげます。
- ⑤救援車のエンジンを始動し、回転数を少し高めにします。
- ⑥自車のエンジンをかけます。
- ⑦ブースターケーブルをつないだときと逆の手順で外します。



アドバイス

- ・上がってしまったバッテリーは、すみやかに完全充電してください。
- ・早めに最寄りのスバル販売店で点検を受けてください。

ヒューズの点検・交換

バッテリーが上がっていなければランプが点灯しない、電気装置が動かないときは、ヒューズ切れや電球（バルブ）切れが考えられます。

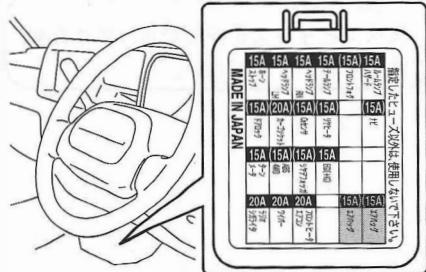
この場合、以下の手順で確認してください。

- ①エンジンスイッチを“LOCK”の位置にします。
- ②ヒューズが切れていないかを点検します。
故障の状況から点検すべきヒューズをヒューズボックスの表示で確認し、点検します。
- ③切れているときは、ヒューズや電球を交換します。

■ヒューズボックスの位置

計器盤下のペダル取付部左に取り付けてあります。

爪（上部）を押してカバーを外します。



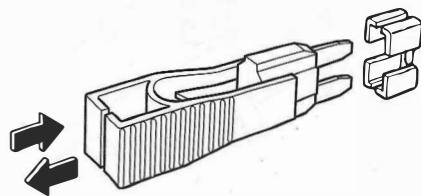
■ヒューズの交換のしかた

カバーの表面に代表的な接続回路が表示されています。故障の状況から点検すべきヒューズを確認します。

交換はヒューズブラーで挟み、引き抜き、スペアヒューズを入れてください。

交換後はすみやかに点検整備を受けてください。スペアヒューズはカバー裏に 20A1 個、15A1 個が付いています。

ヒューズブラーもカバーの裏に付いています。

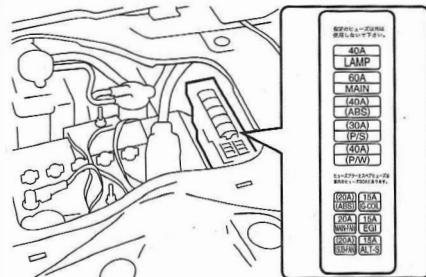


■メインヒューズ

メインヒューズ [60A、40A、30A (大きいタイプ)] が切れている場合は、すみやかに点検整備を受けてください。

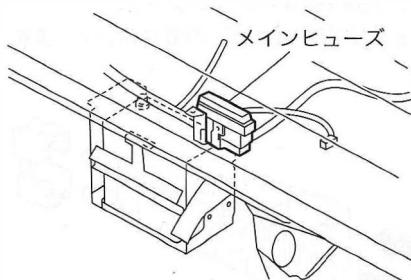
●ワゴン、バン

助手席のシートクッションの下にあります。助手席を跳ね上げ、カバーを外し点検します。



● トラック、パネルパン

車体左側のバッテリー裏にあります。



アドバイス

メインヒューズボックス内にヒューズ [20A (小さいタイプ)、15A] があります。このヒューズが切れたときは室内のヒューズボックス用スペアヒューズを使用してください。交換後はすみやかに点検整備を受けてください。



注意

ヒューズを交換するときは

- 必ずエンジンスイッチをLOCK位置にしてください。ONのままですと、ショートしたりして危険です。
- 指定容量のものと交換してください。それ以外のヒューズを使うと故障につながります。
- 針金や銀紙などは絶対に使わないでください。配線の過熱や焼損の原因になります。
- スペアヒューズを取り付ける前に切れた原因を調べてください。交換してもすぐ切れてしまうときは、点検整備を受けてください。



アドバイス

スペアヒューズを使ったら、早めに補充しておいてください。

MEMO

MEMO

7

車 の 手 入 れ

・車の手入れ 7 - 2

- ・日常の手入れ
- ・外装の手入れ
- ・内装の手入れ
- ・ワイパー・ブレードの交換
- ・タイヤについて
- ・電球の交換

車の手入れ

日常の手入れ

次のような場所を走行した後は、必ず洗車してください。

また、飛び石などにより、塗装面に傷がある場合、サビの原因となりますので早めに補修してください。

- 凍結防止剤を散布した道路を走行したときや海岸地帯を走行したときは、サビの原因となりますので車体の下廻り、フェンダーの内側を念入りに洗ってください。
- コールタール、ばい煙、鳥のふん、虫、樹液などがついたとき

車の保管、駐車は次のような場所をお奨めします。

- 直射日光が当らない風通しのよい場所
- 鉄道線路わきや農薬などの化学薬品が飛散する場所、木のそばを避けます
- いたずらされにくい場所



アドバイス

- 夏期の屋外駐車は車内温度が非常に高くなります。可燃物（ライターなど）は置かないでください。また、インストルメントパネルの上、シートの上にゴム類を置かないでください。変色することがあります。
- 長期間保管する場合には、ハンドブレーキを引かずに“1”速か“R”（AT車は[P]レンジ）に入れ、輪止めをして車が動かないようにしてください。
- また、ワイパーを立てておいてください。ゴムのくせ付きや汚れの付着を防止できます。
- ボディカバーについて、下記の点をお守りください。
 - ・スバル純正品の中から車に合ったものを選んでください。
 - ・ときどき水洗いして砂ほこりなどを取り去ってください。
 - ・風で飛ばされないようにしっかりかけてください。
 - ・雨の後、ボディカバーを外し、風通しをよくして車とボディカバーを乾かしてください。

外装の手入れ

■洗車のしかた

- ・水を充分かけながら洗車します。
- ・ボディは柔らかいスポンジやセーム皮を使って洗います。
- ・足廻り、フェンダー内側、下廻りなどを洗うときはゴム手袋を着用し、ハンドブラシなどを使って洗います。泥などをよく落としてください。
- ・拭き残しがないようにきれいに水を拭き取ります。
- ・汚れがひどいところは中性洗剤で洗い、さらに水で完全に洗い落とします。



注意

洗車後は、ブレーキの効きが悪くなることがあります。走り出す前にブレーキの効き具合を確かめてください。



アドバイス

- ・ラフロード等を走行し、泥や砂が床下部に付着したままで放置すると、錆による浸食を促進することがあります。
- ・ラフロード等の走行後には、床下部を洗車し堆積した泥や砂を洗い流してください。とくに堆積しやすいサスペンションやアクスル部品は念入りに落とすようにしてください。
- ・なお、洗車する場合には先の尖った物や鋭利な物を使わず、ブレーキホースやセンサー、ハーネス等に傷をつけないように注意して作業してください。
- ・エンジンルーム内には水をかけないでください。エンジン始動不良やエンジン不調、電気部品、コネクター部の故障などの原因につながるおそれがあります。

- ・アルミホイールはセーム皮、スポンジなど柔らかいもので洗います。汚れがひどいときは、中性洗剤を使って洗い、ワックス掛けをしてください。

●自動洗車機を使うとき

- ・ドアミラーは内側にたたんでください。
- ・リヤスピailer付きを洗車する場合、上面ブラシやエアプローダクトを使用しないでください。上面ブラシやエアプローダクトがリヤスピailerにひっかかり、リヤスピailerを損傷することがあります。

●高圧洗車機を使うとき

- ・洗車ノズルと車体との距離を充分離してください。(30cm以上)
- ・同じ場所を連続して洗浄しないでください。
- ・汚れが落ちにくい場合は手洗いしてください。コイン洗車機などの温水洗車機には機種によっては高温・高圧になるものがあるので、モールなど樹脂部品の変形、損傷や室内に水が入ることがあります。

■ワックスのかけかた

洗車のあと、ボディの温度が体温以下のときワックス掛けをします。



アドバイス

お使いになるワックス、コンパウンドの使用上の注意をよく読んでから使用してください。

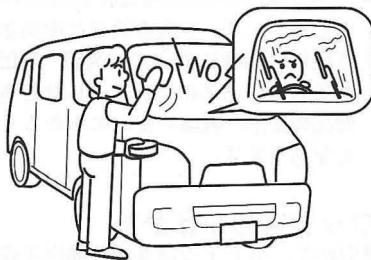
内装の手入れ

■ガラスの手入れ

油膜などがガラスについてワイパーの拭き残しが出たときは、ガラス洗浄剤を使ってきれいに落としてください。

アドバイス

- フロントガラスにワックスが付着したり、窓ガラス用水はじき剤を使用しますと、ワイパーのビビリの原因になります。
- フロントガラスにワックスが付かないよう注意してください。ガラスに被膜、油膜が付着していると、ワイパーの拭きが悪くなると同時に夜間の雨降りの場合、対向車のヘッドライトでガラスがぎらぎら光り、大変危険です。
このようなときは、油膜落とし専用のガラスクリーナーで除去してください。



- リヤガラス（熱線）を車内から拭くときは、ガラス洗浄剤を使わず、柔らかい布などで軽く、熱線に沿って拭いてください。リヤウインドウデフォッガーの熱線を傷めることができます。

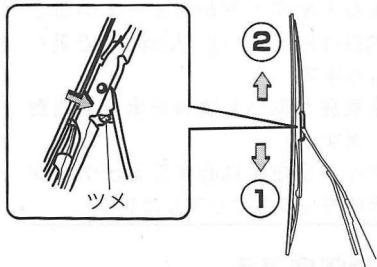
室内は次のようにして、いつも清潔に保ってください。

- 室内の砂ほこり、ゴミなどは掃除機で吸い取ります。
- ゴム製床マットは中性洗剤を使用し、ブラシで洗ってください。
洗った後はよく乾かしてから正しく取り付けてください。
- 内張り、計器盤などの汚れ、ホコリは布で拭き取ってください。
- シート地、カーペット類のよごれ、シミは家庭用品、衣類に準じた方法で取り除いてください。
- 室内（フロアも含む）の手入れは上記内容に基づいて行ってください。
室内（フロアも含む）を水洗いしないでください。室内的電装品に水がかかると故障の原因となるおそれがあります。

ワイパープレードの交換

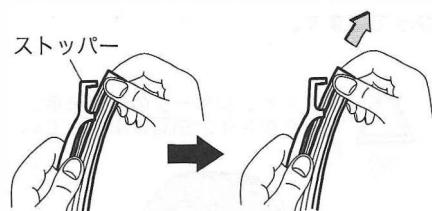
■ワイパー本体の交換

ワイパーームに付いている爪を押し下げながらブレードを矢印の方向に引いて外します。



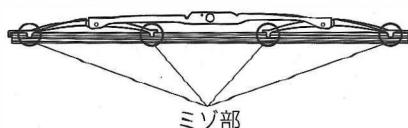
■ブレードラバーの交換方法

①ラバー端部をストッパーより外し、ラバーを引き抜きます。



②新しいブレードラバーを挿入します。

このとき、ラバーの溝部へ確実に挿入してください。



③確実に装着されているか、確認してからワイパーを使用してください。
間違った状態で装着されていると、ガラスに傷をつけることがあります。

アドバイス

- ワイパー本体およびワイパープレード（ゴム）はスバル純正品をご使用ください。純正品以外を使用すると、適切に装着できない場合があります。
- ブレードラバーは交換部品です。傷んだままのブレードラバーを使い続けるとガラスに傷をつけることがあります。払拭性能が落ちたり、スジつきが目立つようになったら早めに交換してください。
- 運転席側、助手席側、リヤ側ではブレードの長さが異なります。

運転席側：425 mm

助手席側：425 mm

リヤワイパー：450 mm

タイヤについて

タイヤの異常摩耗、亀裂、損傷および指定外の空気圧は、乗り心地、操縦性、タイヤの寿命、燃費を悪くします。また、摩耗したタイヤは雨天時の高速走行で通常よりもハイドロプレーニング現象を起こしやすくなります。

日常点検において、空気圧、亀裂、損傷、溝の深さ、異常摩耗などを確認してください。

■タイヤ空気圧について

タイヤ空気圧の日常点検は法律で義務付けられています。

タイヤ空気圧はスペアタイヤも含め、空気圧ゲージを使用してドライブの前や定期的（最低1か月に1回程度）に点検・調整してください。

空気圧が不足している場合、すみやかに適正な空気圧にしてください。空気圧は運転席ドアを開けたボディ側に貼られている「タイヤ空気圧」のラベルまたは9-5ページのサービスデータで正しい空気圧を確認の上、調整してください。調整できないときはひかえめな運転で走行してください。



注意

適切な空気圧にしてください。空気圧が不足したまま走行すると、バースト（破裂）、早期摩耗、偏摩耗および走行不安定などの原因となるおそれがあります。空気を入れ過ぎると、タイヤが破裂し、けがをするおそれがあります。



アドバイス

- 空気圧は走行前のタイヤが冷えている状態で行ってください。走行直後などでタイヤが暖まっていると約30 kPa (0.3 kg f/cm²) ほど高くなります。
- 空気圧が低いと燃料を余分に消費します。
- タイヤ空気圧は必ず空気圧ゲージを使用して確認してください。

■摩耗限度表示

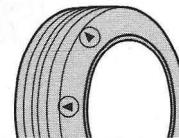
(ウェアインジケーター)

ウェアインジケーターが現れたらタイヤを交換してください。

ウェアインジケーターは、タイヤの接地面にあり、他の部分より溝が1.6 mm 浅くなっています。



ウェアインジケータの位置を示すマークがタイヤ側面に印されています。



注意

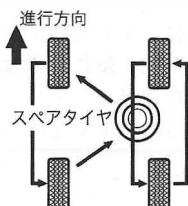
摩耗限度を超えたタイヤは使用しないでください。

■タイヤローテーション (位置交換)

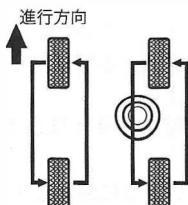
5,000 km 走行毎を目安にタイヤローテーションをします。

タイヤローテーションは、タイヤをより良い状態に保ちます。

- 5本（スペアタイヤも使って）で行うとき



- 4本（スペアタイヤを使わない）で行うとき



アドバイス

前輪と後輪でタイヤの空気圧が異なる場合がありますので、位置交換後は必ず空気圧を調整してください。

■タイヤ交換するとき

4輪同時にタイヤ交換することをお奨めします。タイヤは4輪とも必ず、指定サイズ、同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着し、指定空気圧を保ってください。4本のタイヤに差があるとタイヤの回転に差が生じて、タイヤがかたよって摩耗したり、駆動装置が故障する原因となります。また、交換時、ホイールとブレーキキャリパーをぶつけないようにしてください。

電球の交換

ヘッドライト、後面方向指示灯兼非常点滅灯、尾灯、制動灯、後退灯、ライセンスランプの電球の交換について記載しております。その他の電球の交換についてはスバル販売店にご相談ください。



注意

- 定められたワット数のものと交換してください。大きなワット数のものに交換すると、車両火災の原因につながるおそれがあります。
- ハロゲンバルブはガラス球内部の圧力が高いため、落としたり、物をぶつけたり、傷をつけたりすると損傷してガラスが飛び散ることがあります。取り扱いには充分に注意してください。
また、ハロゲンバルブの電球の表面に手など触れないようにしてください。使用時電球は高温になるため、油などが付着すると寿命が短くなります。触れた場合は、薄い中性洗剤水溶液を柔らかい布に含ませてよく拭き取ってください。
- ランプ点灯時は高温になりますので、レンズに触れないようにしてください。

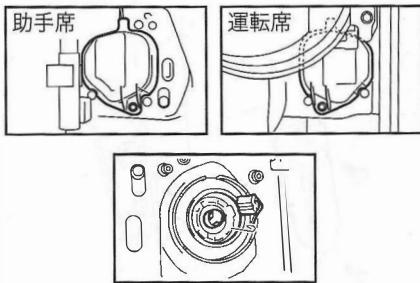


アドバイス

- ヘッドライト、制動灯などのランプは、雨天走行や洗車などの使用条件により、レンズ内面が一時的に曇ることがあります。これはランプ内部と外気の温度差によるもので、雨天時などの窓ガラスが曇ると同様の現象であり、構造上の問題ではありません。ただし、レンズ内面に大粒の水滴がついているときやランプ内に水がたまっているときはスバル販売店にご相談ください。
- 取り外した部品はなくさないようにして、元通りに取り付けてください。
パッキンなどが確実に取り付けられていないと、水が入る原因となります。
- 電球を交換したときは、点灯、消灯、点滅を確かめてください。
- ヘッドライトを交換したときは、法律で定められた光軸調整が必要となります。スバル販売店にご相談ください。
- レンズをネジで締め付けるとき、締め過ぎてレンズを割らないように注意してください。

■ヘッドライト

- ①ボルトを外し、カバーを取り外します。
- ②コネクターを外します。
- ③スプリング（爪）を外し、バルブを取り外します。



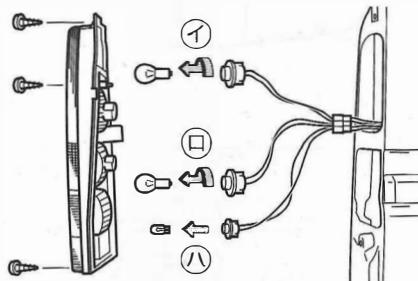
注意

ハロゲン電球はガラス球内部の圧力が高いため、落としたり、物をぶつけたりすると損傷してガラスが飛び散る場合がありますので充分注意して取り扱ってください。また、素手で触れずにきれいな手袋を着用してください。

■リヤコンビネーションランプ

●ワゴン、バン

- ①リヤゲートを開けます。
- ②リヤパンパーを開けます。
- ③シールパッキン（カバーインシュレーター）を外します。
- ④ネジ3本を外してランプ本体を取り外します。
- ⑤ソケットを左に回し、ランプ本体から外します。
- ⑥①の尾灯、制動灯、②の後面方向指示灯は電球をいっぱいに押し込みながら左に回し、ソケットから外します。
- ⑦①の後退灯は電球をつまんで引き抜きます。



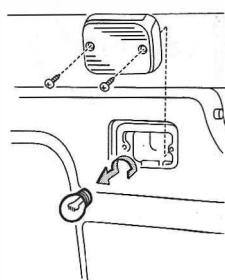
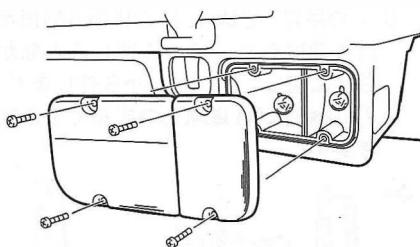
● トラック、パネルバン

①前面のネジ4本を外し、レンズを取ります。

※後面方向指示灯のみの交換は車両外側のレンズ（ネジ2本）を外すことで交換できます。

②電球をいっぱいに押し込みながら左に回し、ソケットから外します。

③後退灯も同じように外します。



アドバイス

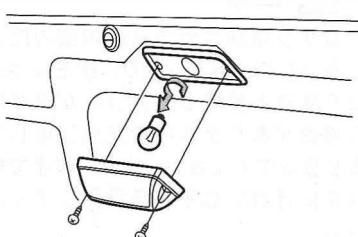
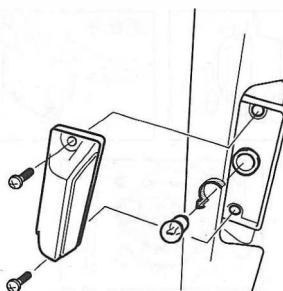
レンズを付けるとき、ランプの上下を逆に取り付けないよう注意してください。

パッキンに水抜き穴のついている方が下側です。

■ ライセンスランプ

①ランプカバーの2本を外し、レンズを取り外します。

②電球をいっぱいに押し込みながら左に回し、ソケットから外します。



MEMO

MEMO

8

特別装備車（赤帽車、JA車、郵政）の仕様

・特別装備車（赤帽車、JA車、郵政）の仕様 … 8 - 2

- ・収納式ハンドブレーキレバー（赤帽）
- ・作業灯スイッチ（赤帽）
- ・フロントサイドミラー（赤帽）
- ・二段階開度式リヤゲート（赤帽、郵政）
- ・リヤゲートチェーン（赤帽、JA）
- ・デジタルトリップカウンター（赤帽）
- ・可倒式ランバーステー（JA）
- ・バックブザー（赤帽、JA）
- ・ブレーキパッド摩耗警報（赤帽）

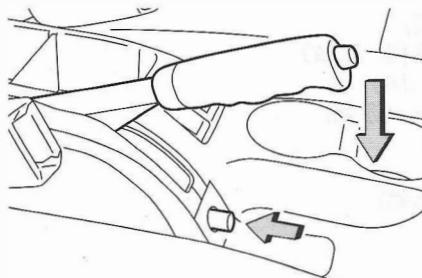
特別装備車（赤帽車、JA車、郵政）の仕様

収納式ハンドブレーキレバー（赤帽）

ハンドブレーキレバーを引いたときと同じ制動力を保持したまま、レバーをシートと同じ高さまで下げられます。

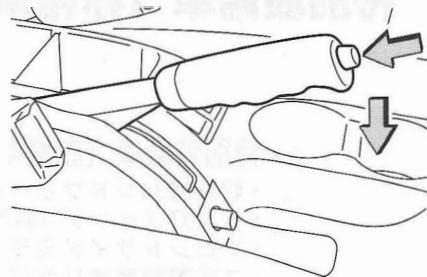
■収納するとき

- ①ハンドブレーキレバーを引き上げ、確実に車両を固定します。
- ②ロック解除ボタンを押します。（一度押せばロック解除機構は保持されます）
- ③ハンドブレーキレバー先端のボタンを押さずにレバーを押し下げると、シートと同じ高さまで収納されます。



■戻すとき

- ①ハンドブレーキレバーを引き上げ、収納前の状態に戻します。
- ②レバーを軽く引き上げ、レバー先端のボタンを押しながら確実に戻します。

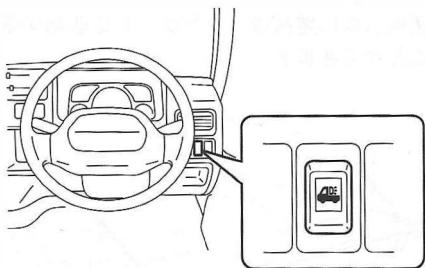


警告

収納操作をしたときは、レバーが元の位置にあってもハンドブレーキを引いたときと同じ状態であることを忘れないでください。走行開始するときはハンドブレーキレバーを収納前の状態に戻し、ブレーキ警告灯の消灯を確認してください。

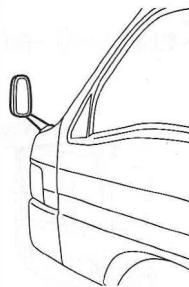
作業灯スイッチ（赤帽）

夜間、荷物の積み降ろしをするときに使用します。エンジンスイッチがACCまたはONのとき、ハンドブレーキレバーを引いてからスイッチを押すと点灯します。



フロントサイドミラー（赤帽）

広角型ミラーの採用で視認性が向上しております。



注意

- 上記以外の操作をしても点灯しません。
- 走行するときは必ずスイッチを切っておいてください。ONのままですると交差点などでハンドブレーキレバーを引いたとき作業灯が点灯し、後続車に迷惑をかけることになります。
- 作業灯のON - OFFは、作業灯スイッチで行ってください。ハンドブレーキレバーで繰り返しON - OFFするとハンドブレーキスイッチの故障の原因になります。

※パネルパンはエンジンスイッチの位置、ハンドブレーキに関係なく点灯します。

二段階開度式リヤゲート（赤帽、郵政）

リヤゲート（上側）の開閉角度を2段階に変えることができます。

<一段目>

リヤゲートを開くと一旦一段目で止まります。



<二段目>

一段目より、更に上方へ押し上げると、全開位置まで開くことができます。



注意

リヤゲートを水平位置で長時間放置しないでください。自然に全開位置まで開いて、車庫の天井などとぶつかり、リヤゲートや周囲のものを損傷するおそれがあります。

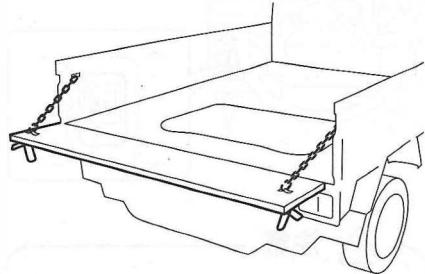
リヤゲートチェーン（赤帽、JA）

リヤゲートを水平に保ちます。

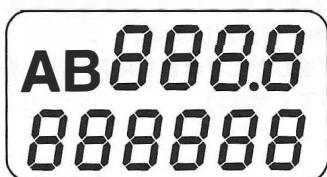
外すこともできます。

パネルバンのリヤゲートを水平にした状態での走行は、道路交通法の全長規制に違反します。

使用しない場合は、リヤゲートに収納することができます。



デジタルトリップカウンター（赤帽）



エンジンスイッチがONのときに表示します。

●オドメーター

走行した総距離をkmで表示します。

●トリップカウンター

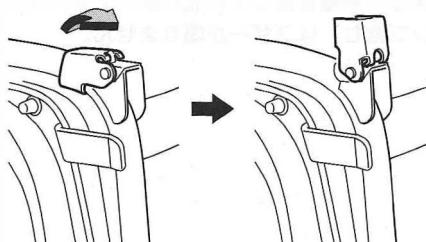
2種類の区間距離（トリップA、トリップB）を表示します。

0.0～999.9 km以下は100 m単位で積算し、1,000 km以上は1 km単位で積算します。

- トリップAとトリップBの切り替えリセットノブを押すごとにトリップAとトリップBに切り替わります。
- トリップカウンターを“0”にもどすときは、“0”に戻したい表示に切り替えてからリセットノブを押し続けます。

可倒式ランバーステー（JA）

使用時にはブラケットを立ててください。



バックブザー（赤帽、JA）

リバースギヤにシフトするとブザーが鳴り
車両が後退することを車外に知らせます。
また、赤帽車はライト点灯時（スマートランプ含む）はブザーが鳴りません。

ブレーキパッド摩耗警報（赤帽）

パッドが摩耗して交換時期になるとブレーキペダルを踏むたびに金属的な摩擦音（キーキー音）がします。
音が発生したときは直ちにスバル販売店で
交換してください。

MEMO

MEMO

モードルーム

9

サービスデータ



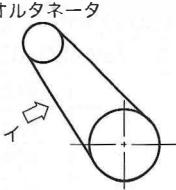
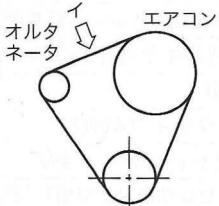
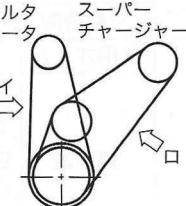
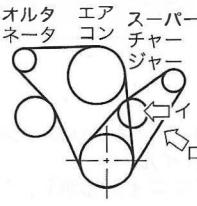
サービスデータ

交換時期については、舗装路を1年に10,000 km程度走行する車を前提に定めてあります。走行距離の多い車や未舗装路を走行するなど特殊な使われ方をした車については、別冊「メンテナンスノート」をご覧ください。

	車種	NGK	電極すき間
スパーク プラグ	赤帽車以外の全車	BKR6E	0.7~0.8 mm
	赤帽車	BKR6ETP	0.8~1.0 mm
交換時期		20,000 km (赤帽車: 100,000 km) ごと	
ブレーキ ペダル	遊び	1~3 mm	
	踏込時ペダルブラケット のナットとの距離	140 mm以上	
クラッチ ペダル	遊び	5~15 mm	
	切れたときのペダルブラ ケットのナットとの距離	30 mm以上	
駐車ブレーキの引きしろ		約20 kgの力で ゆっくり引いたとき	7~9 ノッチ
タイヤ空気圧		9~5ページ参照	
ウォッシャータンク容量		2.0 ℥	
燃料タンク容量		無鉛ガソリン使用	約40 ℥
エンジンの タイミングベルト	使用ベルト	専用タイミングベルト	
	交換時期	100,000 kmごと	
エアクリーナー エレメント	使用部品	純正エアクリーナエレメント	
	交換時期	40,000 km (事業用: 20,000 km) ごと	
バッテリー型式		標準	26B17L (12V21AH)
		寒冷地・4WD・ パワーステアリング付車	38B19Lまたは38B20L (12V28AH)
エンジンオイル	使用オイル	スバルモーターオイル SL 5W-30	
		FREEDOM	
		エルフ 10W-50 レ・プレイアード	
	規定量	下記以外	約2.4 ℥
		・赤帽MSC ・MSC AT	約2.5 ℥
	交換時期	10,000 km (事業用: 5,000 km) ごと、 または6か月 (事業用: 3か月) ごと (どちらか早いほうで実施)	
エンジンの オイルフィルター	使用部品	純正オイルフィルター [表記のない小型フィルター (青色)]	
	交換時期	10,000 km (事業用: 5,000 km) ごと	

フューエルフィルター			
使用部品		純正フューエルフィルター	
交換時期		60,000 km (事業用: 40,000 km) ごと	
トランスミッション オイル (マニュアル車)	使用オイル 規定期量	スバルギヤオイルエクストラ 75W/80 (GL-4)	
		5速車	約2.0 ℥
		セレクティブ4WD	約2.1 ℥
		EL付セレクティブ4WD	約2.3 ℥
		EL付セレクティブ4WD (デフロック付)	約2.4 ℥
	交換時期	40,000 kmごと	
トランスミッション オイル (3AT車)	使用オイル 規定期量	スバルATF	
		2WD	3.8 ℥ (赤帽車は4.1 ℥)
		4WD	4.2 ℥
	交換時期	40,000 kmごと	
フロント デファレンシャルオイル (4WD車)	量の判定基準	フィラーブラグ穴下端より 0~ -5 mm間にあること	
	使用オイル	スバルギヤオイルエクストラS 75W-90 (GL-5)	
	規定期量	一般4WD車: 0.8 ℥	
	交換時期	40,000 kmごと	
冷却水	使用冷却水	スバルクーラント	
	規定期量	NA・MT車	約5 ℥
		NA・MT車以外	約6 ℥
	交換時期	40,000 kmごとまたは2年ごと (どちらか早いほうで実施)	
ブレーキフルード	使用オイル	スバル純正ブレーキフルード (DOT3) (銘柄の異なるブレーキフルードを使用しないこと)	
	交換時期	2年ごと	
ドラムブレーキのシュー のライニング摩耗限度	後輪	標準厚さ: 4.4 mm、使用限度: 1.7 mm	
ディスクブレーキの パッドの摩耗限度	前輪	標準厚さ: 9 mm、使用限度: 2.0 mm	
点火時期	全車	BTDC10° /750 rpm	
弁すき間	冷間時	吸気	0.15 mm
		排気	0.30 mm

10 kgで押したときのオルタネータベルトのたわみ量

NA・エアコンなし	NA・エアコン付	スーパー・チャージャー車 エアコンなし	スーパー・チャージャー車 エアコン付
			
イ 10.5~13.5 mm (7.5~10.5 mm)	6~7 mm (5~6 mm)	10.5~13.5 mm (7.5~10.5 mm)	4~6 mm (4~5 mm)
口		6.5~7.5 mm (5.5~6.5 mm)	6.5~7.5 mm (5.5~6.5 mm)

 アドバイス

- () 内の数値は新品ベルトのたわみ量を示します。
- 表示している交換部品のほかに継続検査（車検）時に定期交換する部品もあります。

＜タイヤサイズ・空気圧＞

- 標準装着タイヤおよび装着可能なタイヤのサイズと空気圧は、車種・グレードにより異なりますので運転席ドアを開けたボディ側に貼ってある「タイヤ空気圧」のラベルをご覧ください。
- 参考：標準装着タイヤ（車種・グレードによって異なります）

■トラック、バン

単位：kPa (kgf/cm²)

車種			タイヤサイズ	2名+100 kg以下		定積載	
前輪	後輪	前輪		前輪	後輪	前輪	後輪
トラック	350 kg積車	2WDおよび4WD	145R12-6PR	200 (2.0)	220 (2.2)	240 (2.4)	300 (3.0)
バン	350 kg積車	2WDおよび4WD	145R12-6PR	200 (2.0)	220 (2.2)	240 (2.4)	300 (3.0)
バン VC-PLUS	350 kg積車	2WDおよび4WD	145R12-6PR	220 (2.2)	220 (2.2)	240 (2.4)	300 (3.0)

■ワゴン

単位：kPa (kgf/cm²)

タイヤサイズ	前輪	後輪
165/70R13	200 (2.0)	220 (2.2)

■バルブの仕様

●フロント廻りのランプ

項目	V-W
ヘッドランプ	12-60/55
前面方向指示灯兼非常点滅灯	12-21
車幅灯	12-5
側面方向指示灯兼非常点滅灯	12-5

●リヤ廻りのランプ

項目	V-W
リヤコンビネーションランプ	後面方向指示灯 12-21
	制動灯／尾灯 12-21/5
	後退灯 トラック・パネルバン 12-21 バン・ワゴン 12-16
ライセンスランプ	12-10
ハイマウントストップランプ（室内用）	12-21

●室内のランプ

項目	V-W
作業灯	トラック 12-10
	JA 12-20
荷室ランプ	赤帽 12-10
カーゴルームランプ	バン 12-8
ルームランプ	トラック・バン 12-8
	トラックハイルーフ・ワゴン 12-13

MEMO

MEMO

さくいん

あ

- アームレスト 2-20, 2-27
 アウターミラー 2-48
 アンチロックブレーキシステム 3-36
 アンテナ 4-11

い

- イラスト目次 0-2

う

- ワインカーレバー 3-4
 ウオッシャー 3-5
 ウオッシャータンク 2-22, 3-6

え

- エアコン 4-2
 エアバック警告灯 3-17
 AM/FM電子チューナー
 カセットデッキ 4-16
 AM/FMマルチ電子チューナー
 CDプレーヤー 4-20
 AM電子チューナー 4-14
 ATパワーモードスイッチ 3-30
 ATパワーモード表示灯 3-14
 ABS 3-36
 ABS警告灯 3-17
 SRSエアバッグシステム 2-38
 エンジンオイル 9-2
 エンジン回転計 3-10
 エンジンスイッチ 3-2
 エンジンの始動と停止 3-19
 エンジンフード 2-14
 エンジンブレーキ 1-15

お

- オイルプレッシャー警告灯 3-16
 オーディオシステム 4-11
 オートマチック車の運転 3-23
 オーバーヒート 6-17
 オーバーヘッドシェルフ 4-28
 オドメーター 3-11

か

- カーゴソケット 4-31
 カーゴフック 4-30
 買い物フック 4-30
 カセットテープについて 4-12
 カップホルダー 4-27
 可倒式ランバーステー 8-5
 カンガルーポケット 4-27
 間欠ワイパー 3-5
 寒冷地での使いかた 5-2

き

- キー 2-2
 キー抜き忘れ警報 2-3, 3-2
 キックダウン 1-9
 距離計 3-11

く

- 空気圧（タイヤ空気圧） 9-5
 クラクション 3-21
 クラッチスタートシステム 3-20
 クリープ現象 1-9
 車の手入れ 7-2
 グローブボックス 4-26

け

- 警告灯 3-15
 けん引 6-13

こ

工具	6-5
故障したとき	6-2
小物入れ	4-29
コンソールボックス	4-27

さ

サービスデータ	9-2
作業灯スイッチ	3-8、8-3
三角表示板	4-31
3点式シートベルト	2-34
サンバイザー	4-30

し

CDについて	4-12
シート	2-17
シートの調整	2-19
シートベルト	2-31
シートベルト警告灯	2-34、3-18
シガーライター	4-25
事故が起きたとき	6-4
室内ミラー	2-48
シフトダウン	1-15
シフトロックシステム	1-11
ジャッキ・ジャッキハンドル	6-8
ジャッキアップポイント	6-11
集中ドアロック	2-3
充電警告灯	3-16
収納式ハンドブレーキレバー	8-2

す

水温計	3-11
ステアリング制御警告灯	3-18
スパークプラグ	9-2
スピードメーター	3-10
スペアタイヤ	6-6
スライドドア	2-3

せ

セレクティブ4WD	3-32
セレクトポジション表示灯	3-14
セレクトレバー	3-23
センターコンソールボックス	4-27

そ

速度計（スピードメーター）	3-10
---------------	------

た

タイトコーナーブレーキング	
現象	3-33
タイヤ空気圧	7-6、9-5
タイヤ交換	6-9
タイヤチェーン	5-7
タイヤについて	7-6
タイヤローテーション	7-7
タコメーター	3-10
正しい運転姿勢	2-17

ち

チェンジレバー	3-22
チャイルドシート固定機構付	
シートベルト	2-37
チャイルドブルーフ	2-5

て

手入れ	7-2
電気式リヤゲートロック	2-11
電球の交換	7-8
電源ソケット	4-31

と

ドア	2-2
ドアミラー	2-48
時計	4-15、4-17、4-21
トラックのゲート	2-13
トラップドア	2-14
トリップカウンター	3-11
トリップの切り替え	8-5

に

荷室ランプ	4-33
二段階開度式リヤゲート	8-4

ね

燃料計	3-10
燃料補給口	2-8

は

パーキングブレーキ	3-21
パーソナルポックス	4-29
灰皿	4-26
ハイビーム／パッシング表示灯	3-14
ハザードスイッチ	3-8
発炎筒	6-5
バックブザー	8-6
パッシング	3-3
バッテリー	9-2
バッテリー上がり	6-19
バルブの交換	7-8
バルブの仕様	9-6
パワーウィンドウ	2-7
パワーウィンドウの ロックスイッチ	2-8
パワートレイン警告灯	3-16
ハンドブレーキレバー	3-21

ひ

ヒーター	4-2
非常点滅灯スイッチ	3-8
ヒューズの点検・交換	6-21
表示灯	3-12
ピロー	2-26

ふ

吹き出し口	4-2
フック	4-30
フューエルキャップ	2-9
フューエルメーター	3-10
フューエルリッド	2-9
プラグ（スパークプラグ）	9-2
フラットシート	2-21
フルタイム4WD	3-34
ブレーキ	3-36
ブレーキ警告灯	3-16
ブレーキブースター	3-37
フロントサイドミラー	8-3
フロントシート	2-19
フロントシートベルト	2-34
フロントヒーター	4-4
フロントワイパー	3-5

へ

ヘッドランプ	3-3
ヘッドライト	2-20

ほ

ホイールキャップ	6-10
防眩ミラー	2-48
方向指示灯レバー	3-4
方向指示表示灯	3-14
ホーンスイッチ	3-21

ま

万一のとき 6-1

み

ミストスイッチ 3-5

ミラー 2-48

め

メーター 3-9

ゆ

雪道走行 1-18

よ

4WD車の運転 3-31

4WD表示灯 3-14

ら

ライセンスランプ 7-10

ライトスイッチ 3-3

ラジオ・オーディオ 4-11

ランプの交換 7-8

り

リクライニング調整 2-19、2-25

リモコンドアロック 2-6

リヤアンダーミラー 2-49

リヤウインドウデフォッガー

スイッチ 3-7

リヤウインドウデフォッガー

作動表示灯 3-14

リヤゲートチェーン 8-4

リヤゲート（パネルバン） 2-12

リヤゲート（ワゴン、バン） 2-10

リヤシート 2-25

リヤシートベルト 2-36

リヤトレー 4-28

リヤヒーター 4-6

リヤワイパー・ウォッシャー 3-6

る

ルームミラー 2-48

ルームランプ 4-32

わ

ワイパー・ウォッシャー

スイッチ 3-5

ワイパープレードの交換 7-5

ご意見、ご感想、お問い合わせはお近くのスバル販売店
または弊社「SUBARUお客様センター」へお願ひいたします。

*お乗りのお車に関してお電話等でお問い合わせをいただく際は、お客様へ正確・迅速にご対応させていただくために、あらかじめ、お手元にお車の車検証等をご準備いただきますようご協力をお願いしております。

①車検証記載事項

型式・車台番号・登録番号・登録年月日

②走行距離

③販売店・担当者名

SUBARUお客様センター

スバルコール **0120-052215**

時間 9時～12時、13時～17時

窓口業務

①各種ご案内（カタログ、販売店、転居お手続き他）

②その他お問い合わせ／技術相談

※土日祝は①のインフォメーションサービスのみとなります

富士重工業株式会社

スバルカスタマーセンター お客様相談部

〒160-8316 新宿区西新宿1-7-2 (スバルビル)

禁複製・転載

—— 非 売 品 ——

編集・発行

富士重工業株式会社

スバルカスタマーセンター

サービス第一部



SUBARU



大豆油インキを使用しています。



吉崎記念平100%再生紙を採用しています。

富士重工業株式会社

発行 2004年4月 Printed in Japan A-3.0
Publication No. A7341G1